
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

平成 30 年 1 月

四 日 市 市

目次

I 調査の概要

1	調査の目的	2
2	調査の設計	2
3	回収の結果	2
4	標本誤差	3
5	報告書の見方	4
6	自由回答	4

II 回答者の属性

1	回答者の属性	
(1)	性別（問 41）	6
(2)	年齢（問 42）	6
(3)	家族構成（問 43）	7
(4)	子どもの状況（問 44）	7

III 調査の結果

1	男女平等について	
1-(1)	男女の平等感について（問1）	10
1-(2)	男女が平等になるために重要なこと（問2）	16
2	結婚、家庭、子育てについて	
2-(1)	婚姻の状況（問3）	17
2-(2)	共働きの状況（問4）	18
2-(3)	家庭での役割分担の現状（問5）	19
2-(4)	結婚や家庭に対する考え方（問6）	21
3	職業生活について	
3-(1)	現状の就業形態（問7）	32
3-(2)	希望の就業形態（問8）	34
3-(3)	就業形態の現状と希望があっていない理由（問9）	36
3-(4)	働いている理由（問10）	38
3-(5)	仕事についての悩みや不安（問11）	41
3-(6)	離職の有無（問12）	43
3-(7)	離職の理由（問13）	44
3-(8)	男性の育児休業についての意向（問14）	46
3-(9)	男性の育児休業に否定的な理由（問15）	47
3-(10)	職場における男性の育児休業のとりやすさ（問16）	48

3-(11)	女性が職業を持つことについての考え方（問 17）	49
3-(12)	女性の働きやすさ（問 18）	50
3-(13)	女性が働きやすいと思わない理由（問 19）	51
3-(14)	女性が職業をもち続けていくうえで障害と思うこと（問 20）	52
3-(15)	子育て中の女性の再就職のために必要な施策・対策（問 21）	54
4 ワーク・ライフ・バランスについて		
4-(1)	ワーク・ライフ・バランスが実現できているか（問 22）	56
4-(2)	平日に仕事に費やす時間（問 23）	58
4-(3)	平日に家事に費やす時間（問 24）	60
4-(4)	平日に育児（家事を除く）に費やす時間（問 25）	62
4-(5)	ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なこと（問 26）	64
5 社会活動等について		
5-(1)	地域活動などへの参加状況（問 27）	67
5-(2)	地域活動等に参加していない理由（問 28）	69
5-(3)	女性が役職につくことについての考え方（問 29）	71
6 ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人などからの暴力）などについて		
6-(1)	配偶者や恋人などから暴力を受けた経験（問 30）	73
6-(2)	暴力などを受けた場合に実際に相談したところ（問 31）	74
6-(3)	相談をしなかった理由（問 32）	75
6-(3)	暴力などを受けた際の相談先の認知（問 33）	76
7. 性的マイノリティ（性的少数者）について		
7-(1)	性的マイノリティ（性的少数者）の認知（問 34）	77
7-(2)	自分の恋愛対象に悩んだり、自分の性に違和感を感じた経験（問 35）	78
8 男女共同参画社会について		
8-(1)	政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由（問 36）	79
8-(2)	男女がともに家庭生活や地域活動に参加していくために必要なこと（問 37）	80
8-(3)	男女共同参画を推進するための力点（問 38）	81
9 四日市市男女共同参画センターについて		
9-(1)	四日市市男女共同参画センターの認知度（問 39）	82
9-(2)	四日市市男女共同参画センターでの実施事業の認知度（問 40）	83

IV 市民意識調査からみた四日市市の現状と課題

参考資料

1 調査票

I . 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、平成26年度に策定した「男女共同参画プランよっかいち2015～2020」を、より現在の実態に合ったものとする中間見直しを行うとともに、市民の男女共同参画に関する意識や生活について把握し、本市が取り組むべき施策等の検討及び進捗状況等の点検に資することを目的として実施した調査である。

2 調査の設計

調査対象：四日市市に居住する満18歳以上の住民
(平成29年8月1日現在)

標本数：3,000サンプル

標本抽出法：住民基本台帳より無作為抽出

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査時期：平成29年8月16日～8月31日

ただし、回収期限後にあった回答についても、9月12日到着分まで集計に反映させた

3 回収の結果

発送数 A	宛先不明等 B	有効配布数 C	回収数 D	無効回収数 E	有効回収数 F	回収率 F/C
3,000	20	2,980	1,276	7	1,269	42.6%

4 標本誤差

無作為抽出にて行った調査結果を基に全体を推計した値と、全体をもれなく調査した結果の値を比較した際に統計的に生じる差が標本誤差である。

今回の調査における有効回収数は1,269であり、ある設問で選択された回答が有効回収数の50%（回答率50%）であった場合の標本誤差は±2.7%となる（回答率50%で誤差が最大）。今回の調査を基に18歳以上の市民全体の意識を推計すると、回答率50%であった場合、標本誤差を含め47.3%～52.7%の回答があったと推計される。

ただし、性別、年齢別等の属性ごとにみる場合には、有効回収数が少数となることから標本誤差が大きくなるため、データの取扱いには注意が必要である。

無作為抽出の場合、標本誤差は次の式で計算される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N：母集団（調査の対象となる集団の総数）

n：比率算出の基数（有効回収数）

P：回答比率（ある選択肢の回答割合）

信頼水準：±1.96（標本誤差が目的とする誤差の範囲にある確率が95%の場合の係数）

各属性の標本誤差を次表に示す。

		回収数 n (人)	回答率P (%)									
			5又 は95	10又 は90	15又 は85	20又 は80	25又 は75	30又 は70	35又 は65	40又 は60	45又 は55	50
全体		1,269	1.2	1.6	2.0	2.2	2.4	2.5	2.6	2.7	2.7	2.7
性別	女性	713	1.6	2.2	2.6	2.9	3.2	3.4	3.5	3.6	3.6	3.7
	男性	547	1.8	2.5	3.0	3.3	3.6	3.8	4.0	4.1	4.2	4.2
年齢別	20歳未満	26	8.4	11.5	13.7	15.3	16.6	17.6	18.3	18.8	19.1	19.2
	20歳代	106	4.1	5.7	6.8	7.6	8.2	8.7	9.1	9.3	9.5	9.5
	30歳代	147	3.5	4.8	5.8	6.5	7.0	7.4	7.7	7.9	8.0	8.1
	40歳代	197	3.0	4.2	5.0	5.6	6.0	6.4	6.6	6.8	6.9	7.0
	50歳代	213	2.9	4.0	4.8	5.4	5.8	6.1	6.4	6.6	6.7	6.7
	60歳代	276	2.6	3.5	4.2	4.7	5.1	5.4	5.6	5.8	5.8	5.9
	70歳以上	301	2.5	3.4	4.0	4.5	4.9	5.2	5.4	5.5	5.6	5.6
性・年齢別	女性 20歳未満	20	9.5	13.1	15.6	17.5	18.9	20.0	20.8	21.4	21.7	21.8
	女性 20歳代	56	5.7	7.8	9.3	10.5	11.3	12.0	12.5	12.8	13.0	13.1
	女性 30歳代	86	4.6	6.3	7.5	8.4	9.1	9.7	10.1	10.3	10.5	10.5
	女性 40歳代	119	3.9	5.4	6.4	7.2	7.8	8.2	8.5	8.8	8.9	9.0
	女性 50歳代	115	4.0	5.5	6.5	7.3	7.9	8.4	8.7	8.9	9.1	9.1
	女性 60歳代	154	3.4	4.7	5.6	6.3	6.8	7.2	7.5	7.7	7.8	7.9
	女性 70歳以上	162	3.3	4.6	5.5	6.1	6.7	7.0	7.3	7.5	7.6	7.7
	男性 20歳未満	6	17.4	24.0	28.5	32.0	34.6	36.6	38.1	39.2	39.8	40.0
	男性 20歳代	50	6.0	8.3	9.9	11.1	12.0	12.7	13.2	13.6	13.8	13.8
	男性 30歳代	60	5.5	7.6	9.0	10.1	10.9	11.6	12.1	12.4	12.6	12.6
	男性 40歳代	75	4.9	6.8	8.1	9.0	9.8	10.4	10.8	11.1	11.2	11.3
	男性 50歳代	97	4.3	6.0	7.1	7.9	8.6	9.1	9.5	9.7	9.9	9.9
	男性 60歳代	121	3.9	5.3	6.3	7.1	7.7	8.1	8.5	8.7	8.8	8.9
男性 70歳以上	137	3.6	5.0	6.0	6.7	7.2	7.7	8.0	8.2	8.3	8.3	

5 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、合計が100%にならないこともある。
- (2) 基数となるべき実数は、件数として掲載した。したがって比率は、件数を100%として算出している。
- (3) 複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をする。このため、各項目の比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 本報告書中の文章、表、グラフ等の見出しの回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- (5) 本報告書中の「前回調査」は、平成25年8月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」、「前々回調査」は、平成18年10月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」をさす。なお、前回調査と共通する設問については、本報告書の各設問分の後に **前回共通** のマークを付けた。また、前回調査と共通するものの選択肢の数など一部変更のあった設問については、同様に **前回共通(一部変更)** のマークを付けた。

6 自由回答

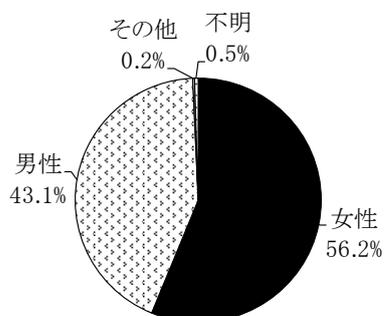
男女共同参画に関することについて自由にご意見やご要望を書いていた自由回答について、163人の方の記述があった。

Ⅱ 回答者の属性

1 回答者の属性

(1)性別 [n=1,269] 前回共通

問41 あなたの性別（1つ）



◆性別の割合は、女性が56.2%、男性が43.1%となっており、女性が13.1ポイント多い。

◆なお、前回調査では女性が53.2%、男性が43.0%であり、回答者の傾向はほぼ同じとなっている。

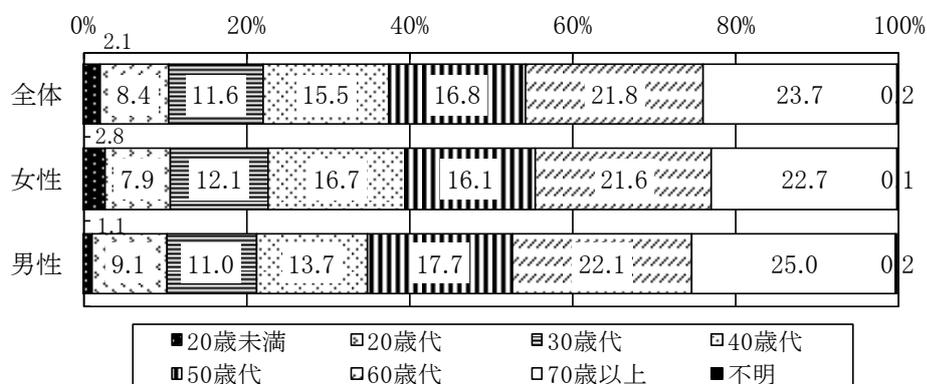
(2)年齢 [n=1,269] 前回共通

問42 あなたの年齢（1つ）

◆年齢の割合は、「60歳代」が21.8%、「70歳以上」が23.7%と多くなっており、60歳以上の合計で45.5%となっている。

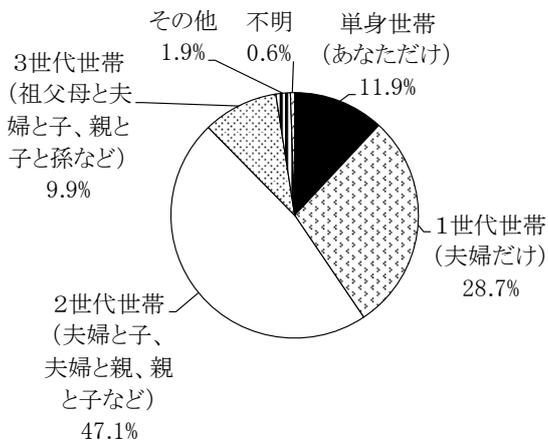
◆「40歳代」「50歳代」は15%ほどで、ほぼ前回調査と同様となっているが、「30歳代」は3.4ポイント下がっている。

◆「20歳代」は8.4%と低くなっており、前回調査の9.2%、前々回調査の10.7%に比べると、わずかではあるが下がっている。



(3) 家族構成 〔n=1,269〕 前回共通

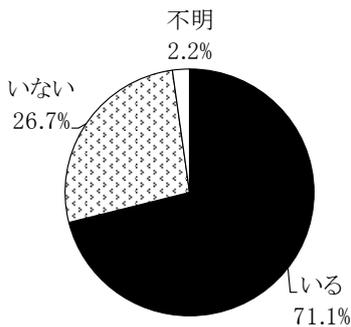
問43 あなたの家族構成（1つ）



◆家族構成は、「2世代世帯」が47.0%と約5割を占めており、前回調査でも47.0%でほぼ同じ傾向である。

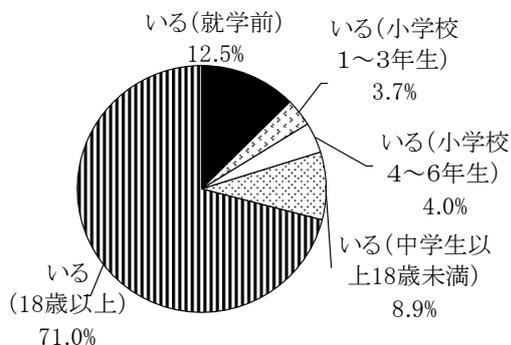
(4) 子どもの状況 〔n=1,269〕 前回共通(一部変更)

問44 お子さんはいらっしゃいますか。いる場合はどの年代ですか（1つ）



◆子どもが「いる」方は71.1%であった。

＜いる場合の年代＞ 〔n=902〕



◆子どもがいる場合の一番下の子どもの年代としては、「18歳以上」が71.0%であった。

Ⅲ 調査の結果

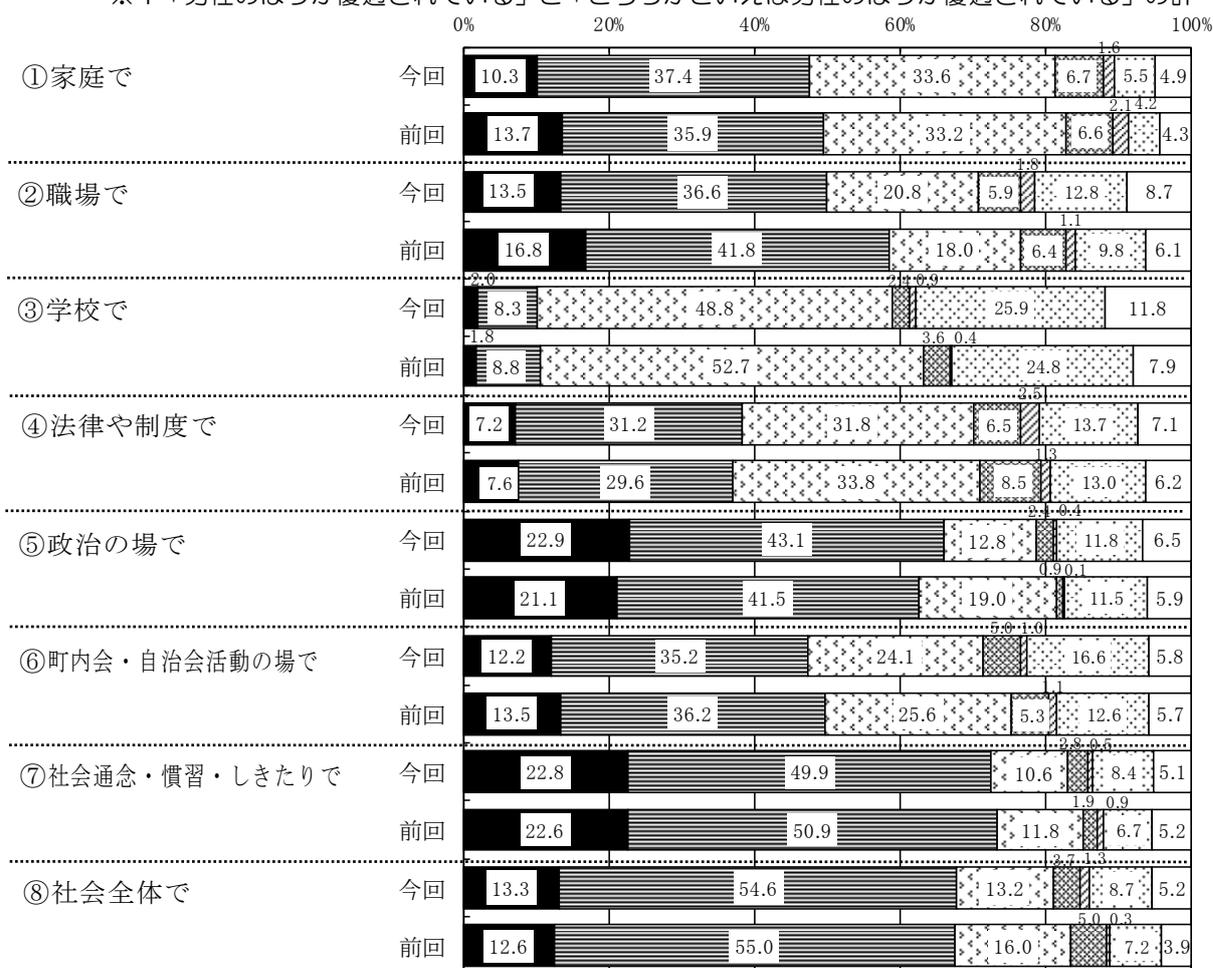
1 男女平等について

1-(1)男女の平等感について [n=1,269] 前回共通

問1 あなたは次の各項目の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(1つ)

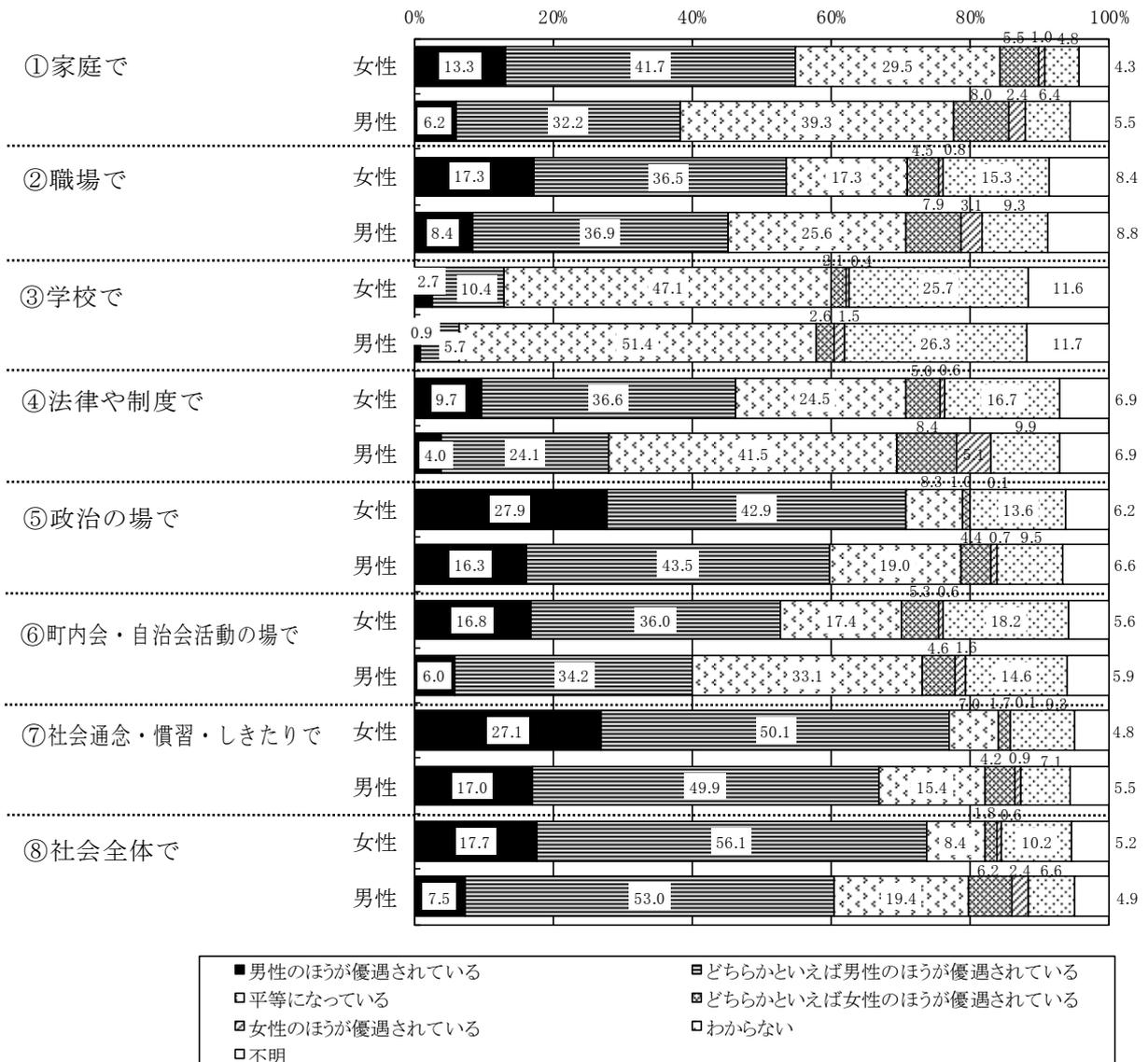
- ◆男女の平等感については、「⑧社会全体で」は『平等になっている』と答えた人が13.2%で、前回調査に比べ2.8ポイント低下している。各分野においても、「①家庭で」「②職場で」は増加しているものの、ほかの分野では低下している。最も低下の幅が大きかったのは「⑤政治の場で」の6.2ポイントの低下であった。
- ◆『男性のほうが優遇されている』※1の割合は、前回調査に比べて「④法律や制度で」「⑤政治の場で」「⑧社会全体で」で増加している。また、「②職場で」「⑤政治の場で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」「⑧社会全体で」では、依然として50%を超えている。

※1 「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の計



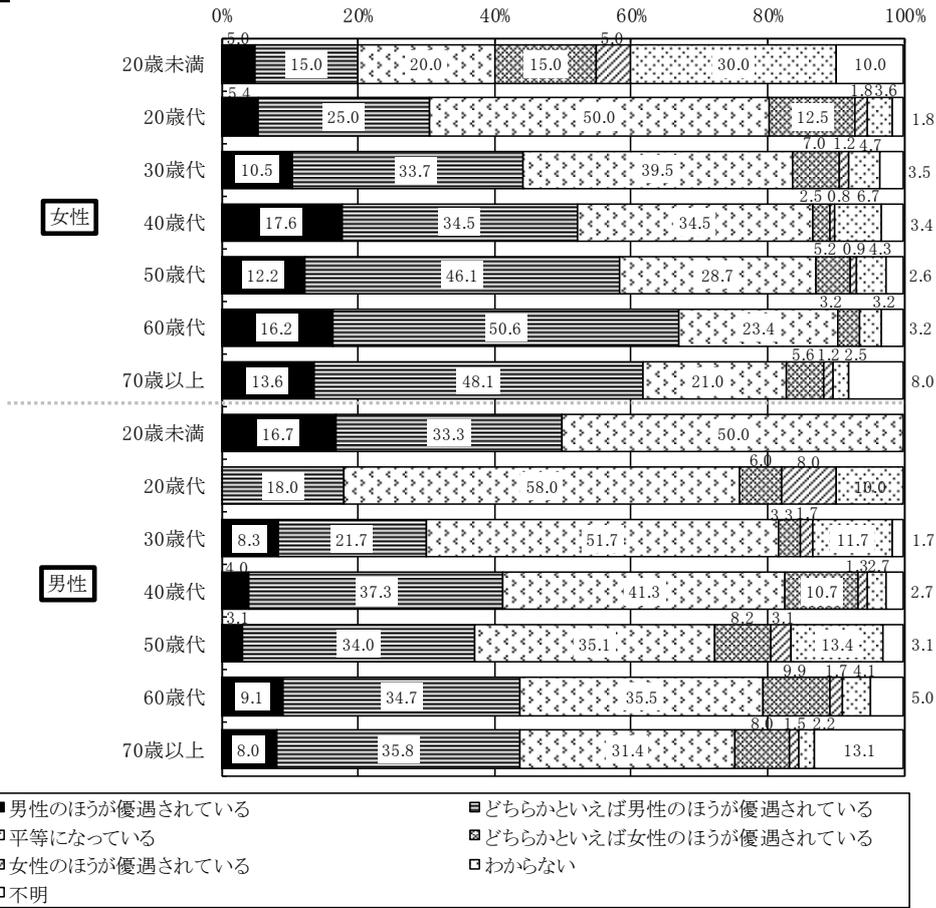
■男性のほうが優遇されている
 □平等になっている
 □女性のほうが優遇されている
 □不明
 ■どちらかといえば男性のほうが優遇されている
 ■どちらかといえば女性のほうが優遇されている
 □わからない

- ◆性別で『男性のほうが優遇されている』の割合をみると、男女差が大きいのは「④法律や制度で」の18.2ポイント差、「①家庭で」の16.6ポイント差、「⑧社会全体で」の13.3ポイント差などとなっている。
- ◆「平等になっている」の割合は、いずれの分野でも男性のほうが女性よりも高くなっているが、男女差が大きいのは「④法律や制度で」の17.0ポイント差、「⑥町内会・自治会活動の場で」の15.7ポイント差などとなっている。

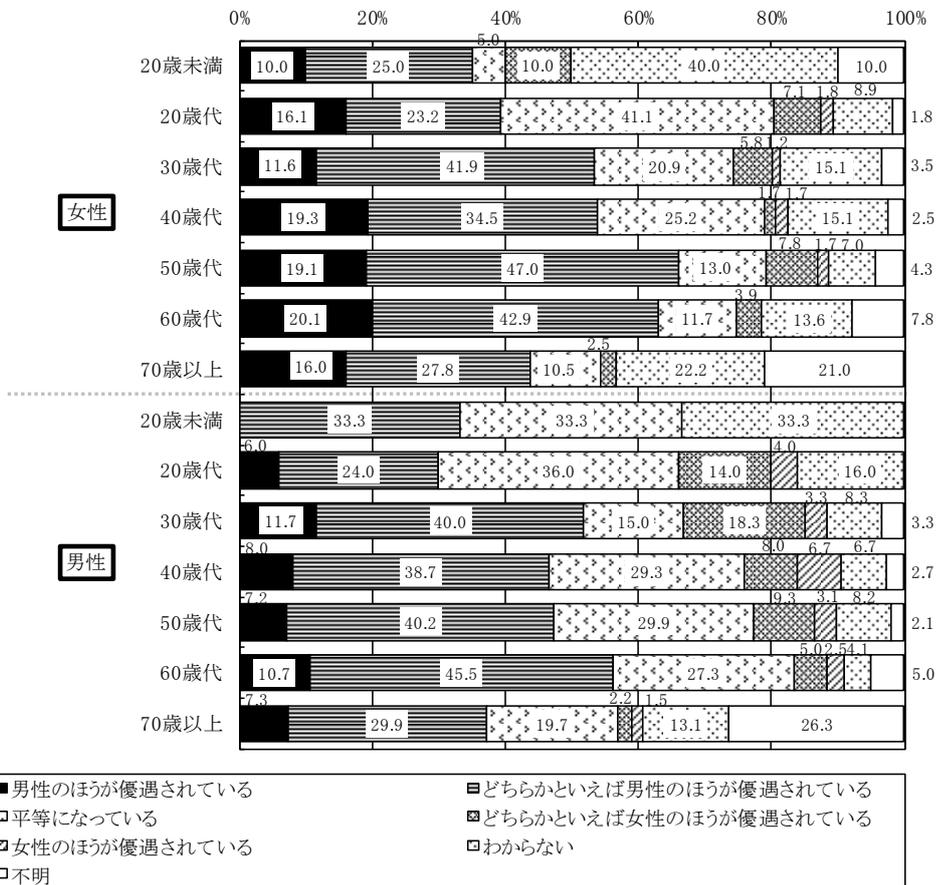


性・年齢別

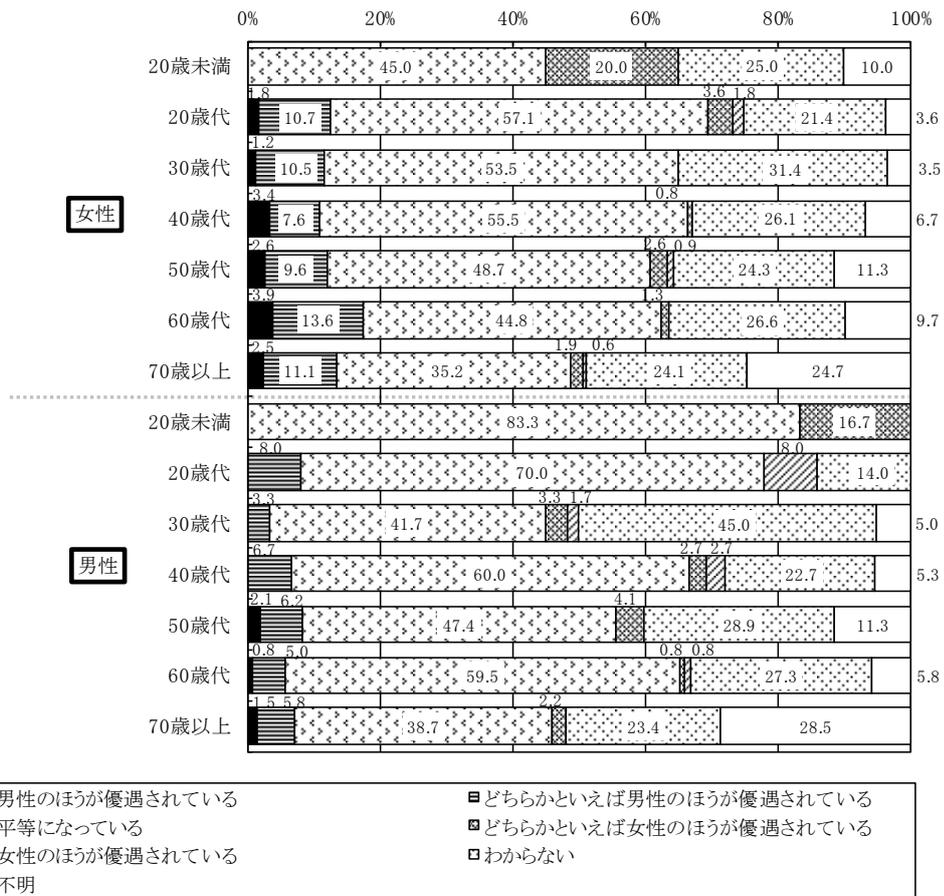
① 家庭で



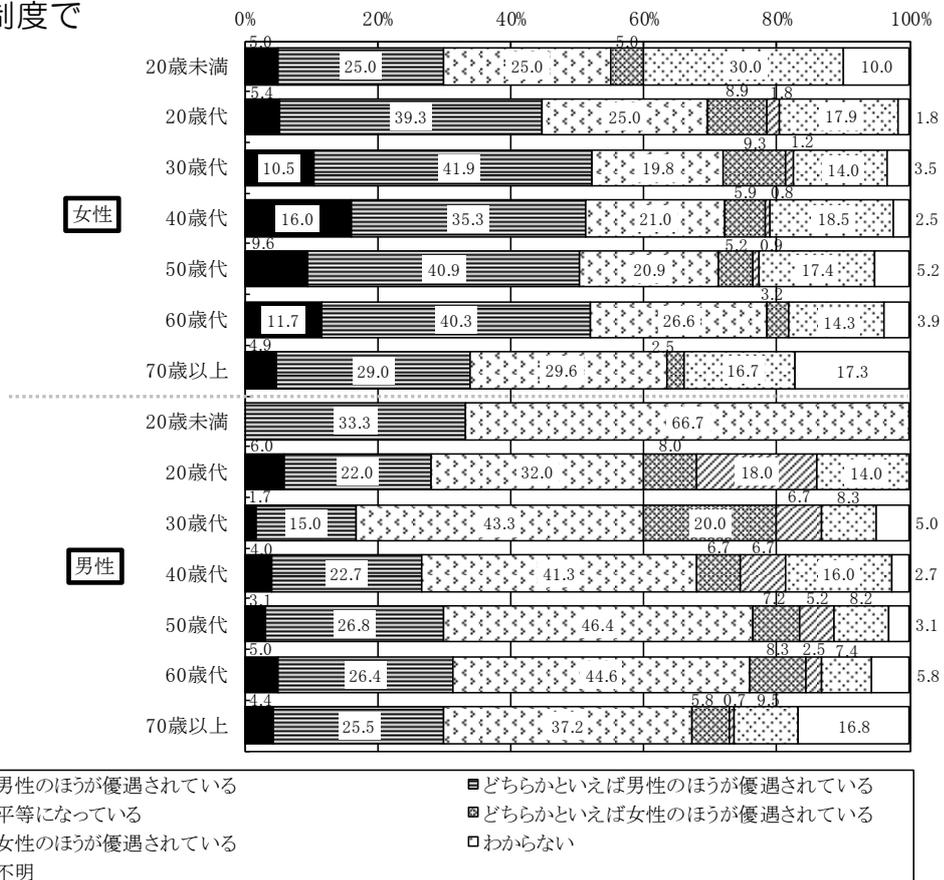
② 職場で



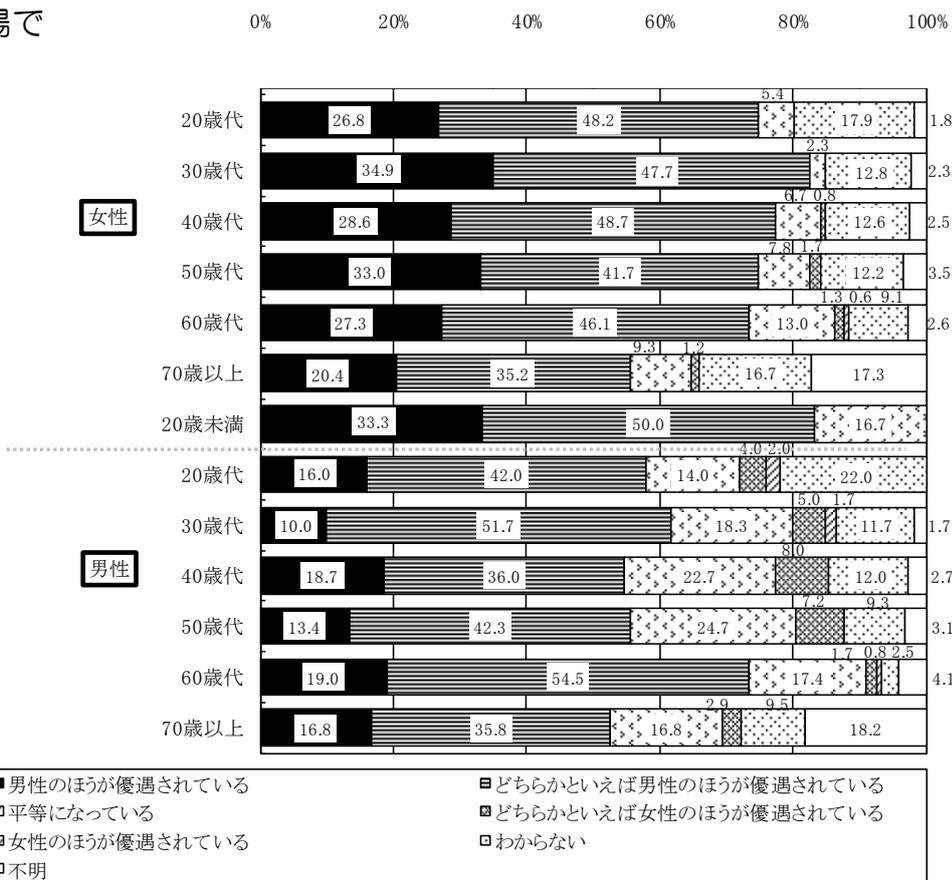
③学校で



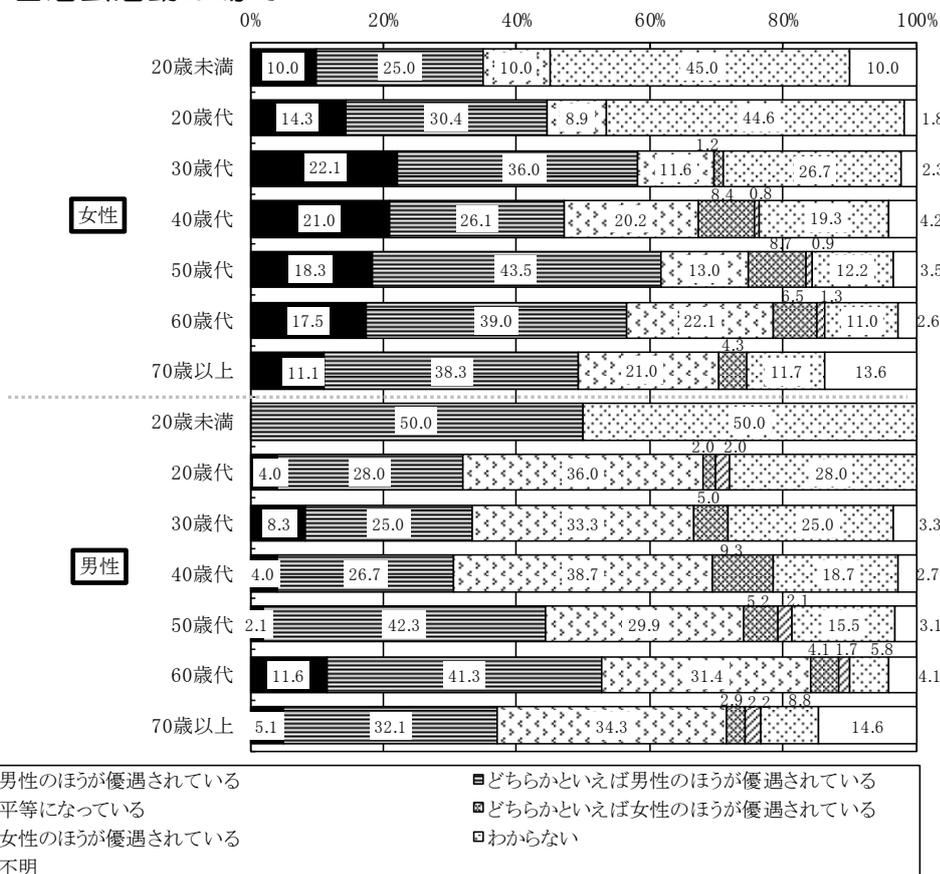
④法律や制度で



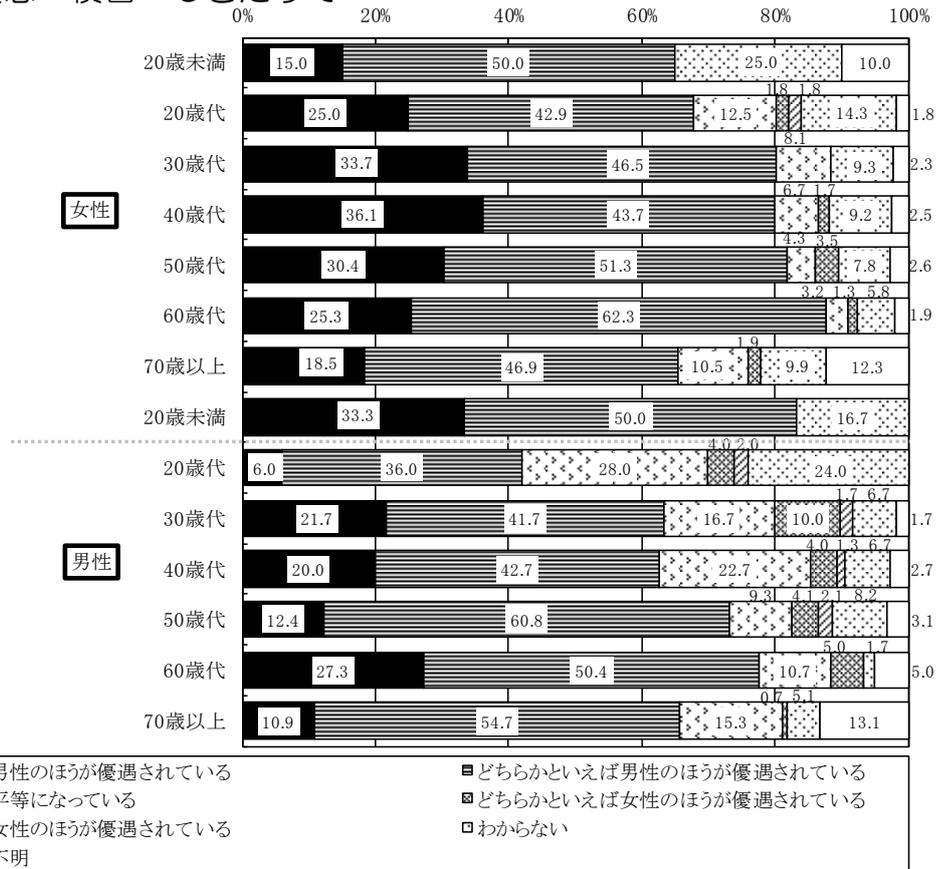
⑤政治の場で



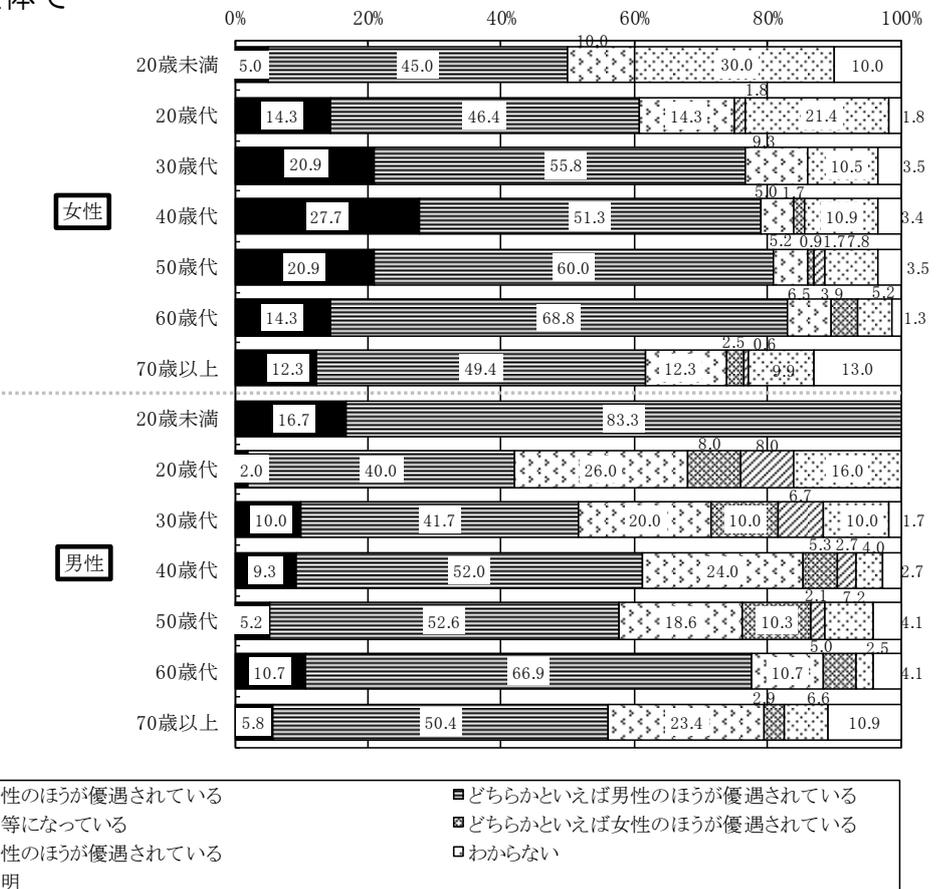
⑥町内会・自治会活動の場で



⑦社会通念・慣習・しきたり



⑧社会全体で

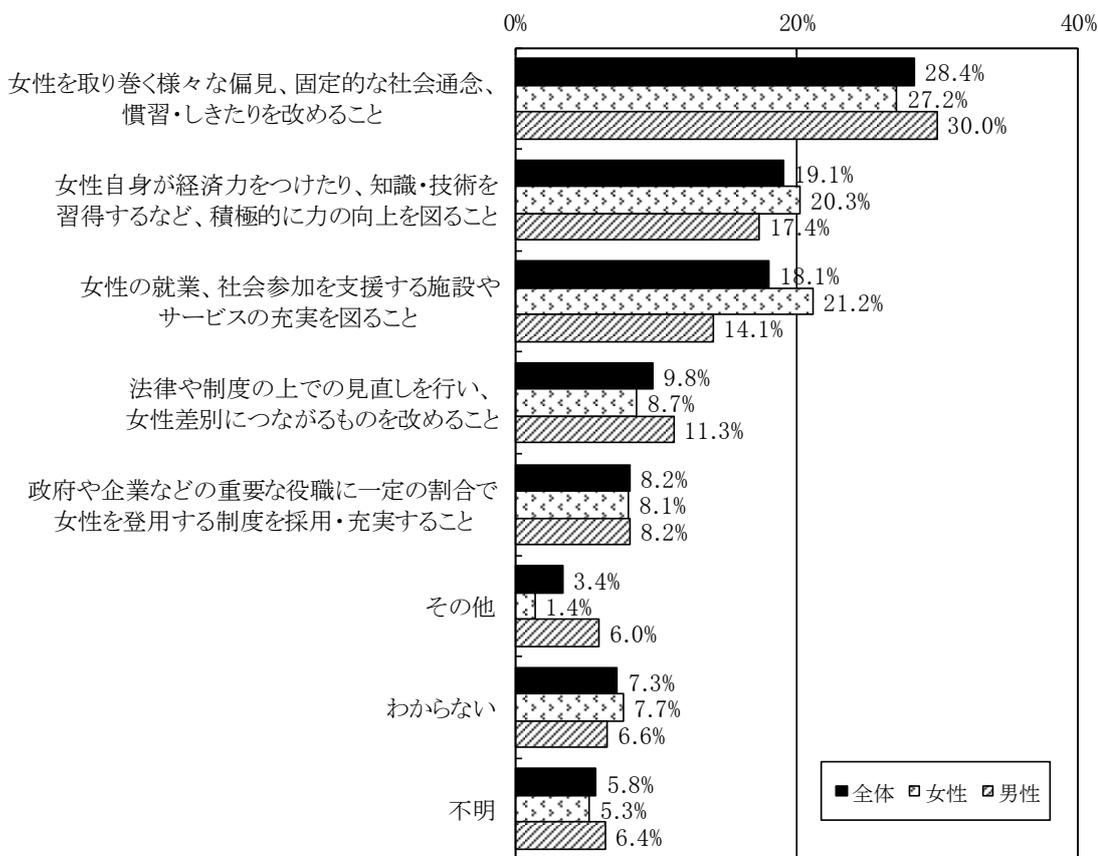


1-(2)男女が平等になるために重要なこと

〔n=1,269〕 前回共通

問2 今後、あなたが、社会のあらゆる分野でもっと男女が平等になるために最も重要だと思うことは何でしょうか。（1つ）

- ◆社会のあらゆる分野で男女が平等になるために重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が一番多く、二番目に「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」となっている。前回調査では、一番目は同じでしたが、二番目は「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」であり、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」が3.7ポイント増加している。
- ◆性別で見ると、男性に比べ女性で多く挙げられているのが「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」と「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の2つの項目となっている。

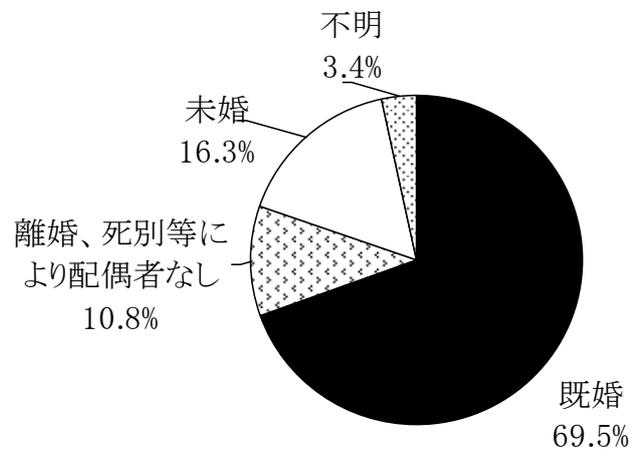


2 結婚、家庭、子育てについて

2-(1)婚姻の状況 [n=1,269] 前回共通

問3 あなたは結婚していますか。(1つ)

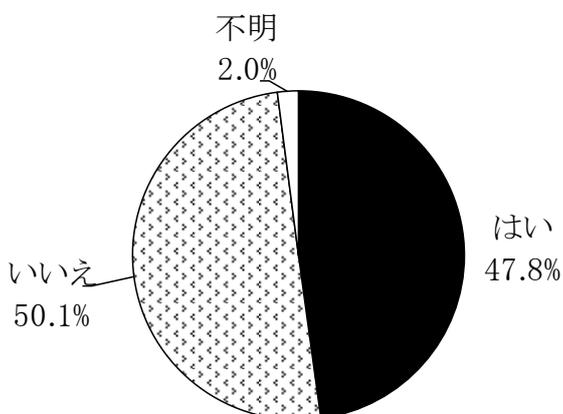
◆婚姻状況は、「既婚」および「離婚、死別等により配偶者なし」が約8割となっている。



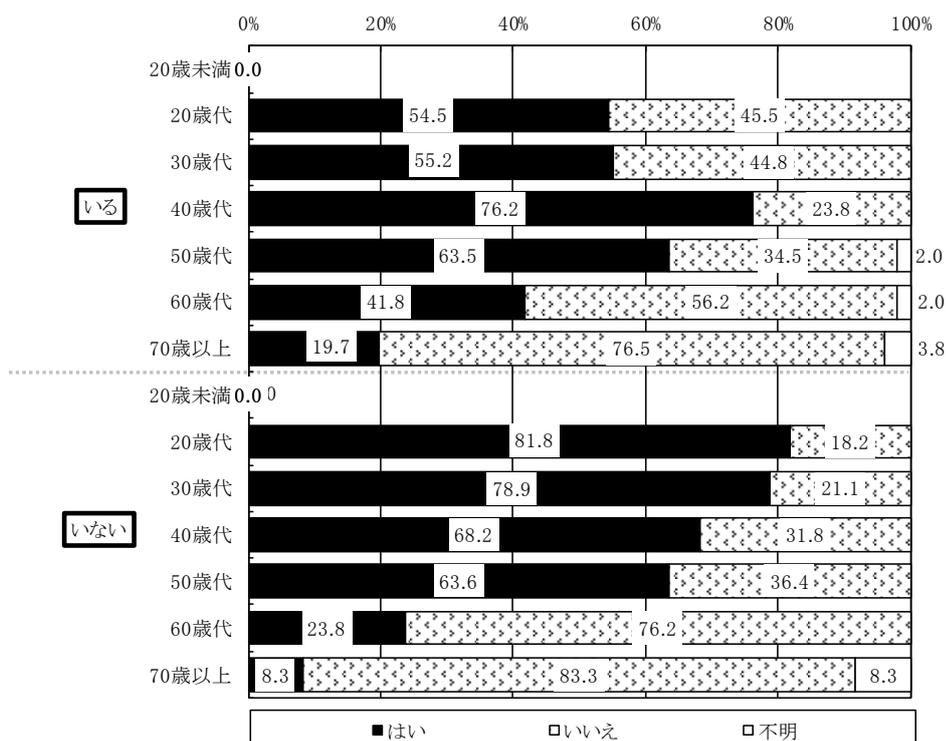
2-(2)共働きの状況 [n=882] 前回共通

問4 あなたと配偶者は共働きですか。(1つ)

- ◆「既婚」の人の共働きの状況は、「共働き」でない方が「共働き」の方を上回っている。
- ◆年齢・子どもの有無別で共働きをしている割合をみると、同じ年代で子どものいる・いないによる差が大きいのは、「20歳代」の27.3ポイント、「30歳代」の23.7ポイントとなっており、子育てと仕事の両立が難しい状況がうかがえる。



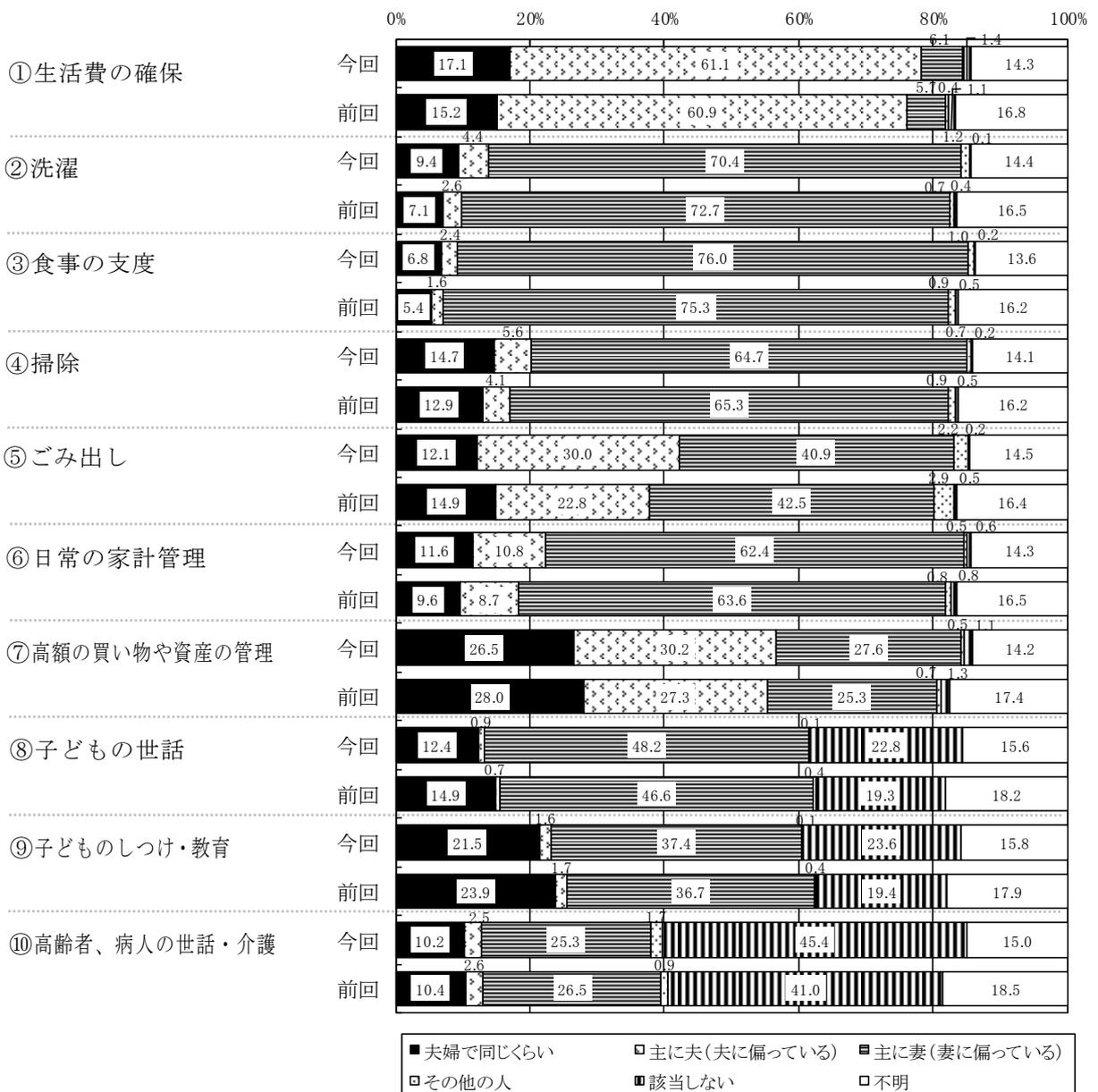
年齢・子どもの有無別



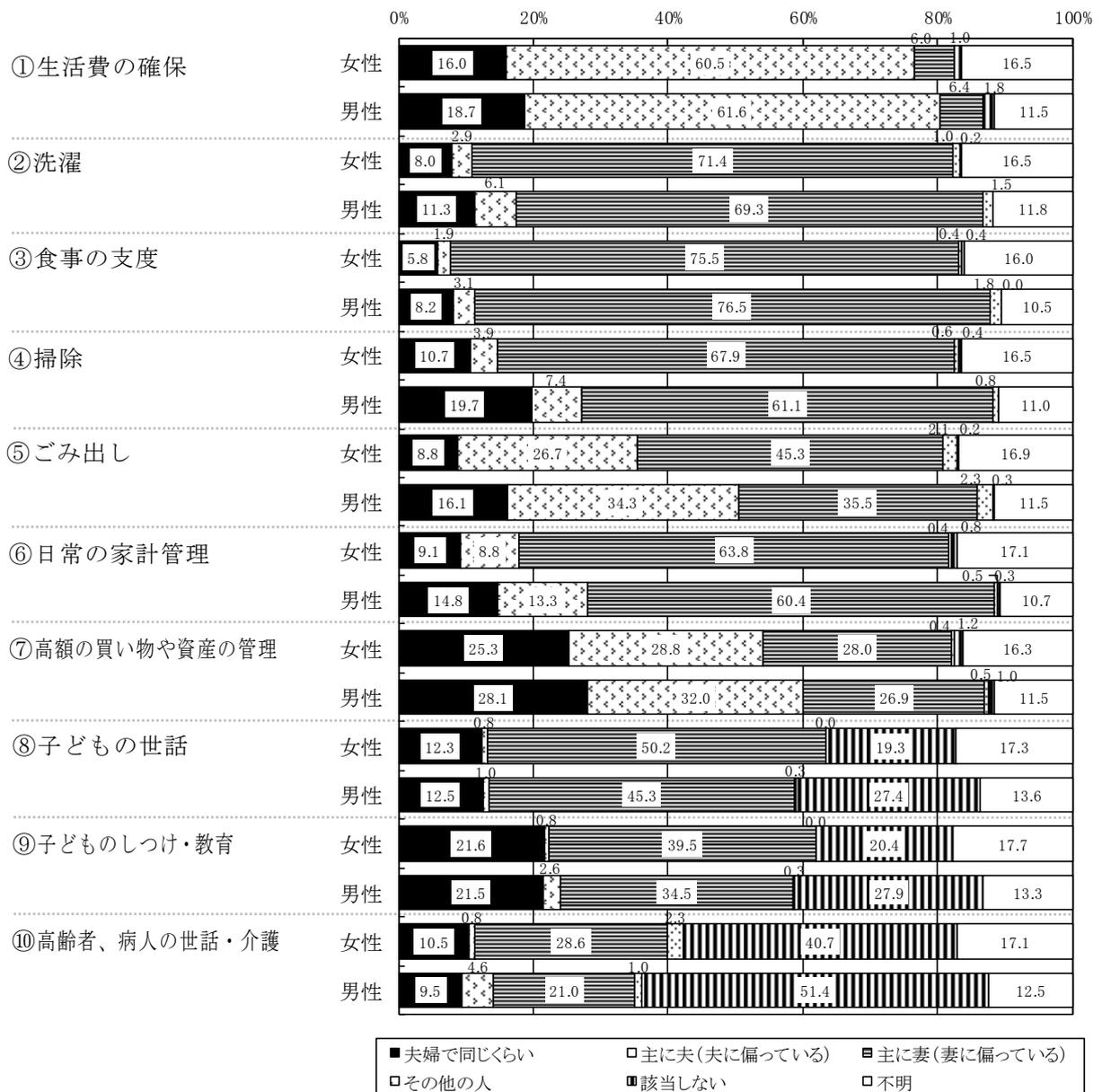
2-(3)家庭での役割分担の現状 〔n=882〕 前回共通

問5 次にあげる①～⑩の家庭の中での仕事は、夫婦のどちらがしていますか。
(1つ)

- ◆ 「既婚」の人の家庭での役割分担の状況は、「①生活費の確保」では、「主に夫」の割合は前回調査より増加している。
- ◆ 「主に妻」の割合が前回調査よりも下がっているのは、「②洗濯」「④掃除」「⑤ごみ出し」「⑥日常の家計管理」「⑩高齢者、病人の世話・介護」となっている。一方、「⑧子どもの世話」「⑨子どものしつけ・教育」は、今回調査の方が「主に妻」の割合が増えている。



◆性別にみると、「夫婦で同じくらい」の割合について男性の方が高い項目は、「④掃除」「⑤ごみ出し」「⑥日常の家計管理」「②洗濯」などとなっており、男性からすると同じくらい分担していると考えているものの、女性との意識差がうかがえる。



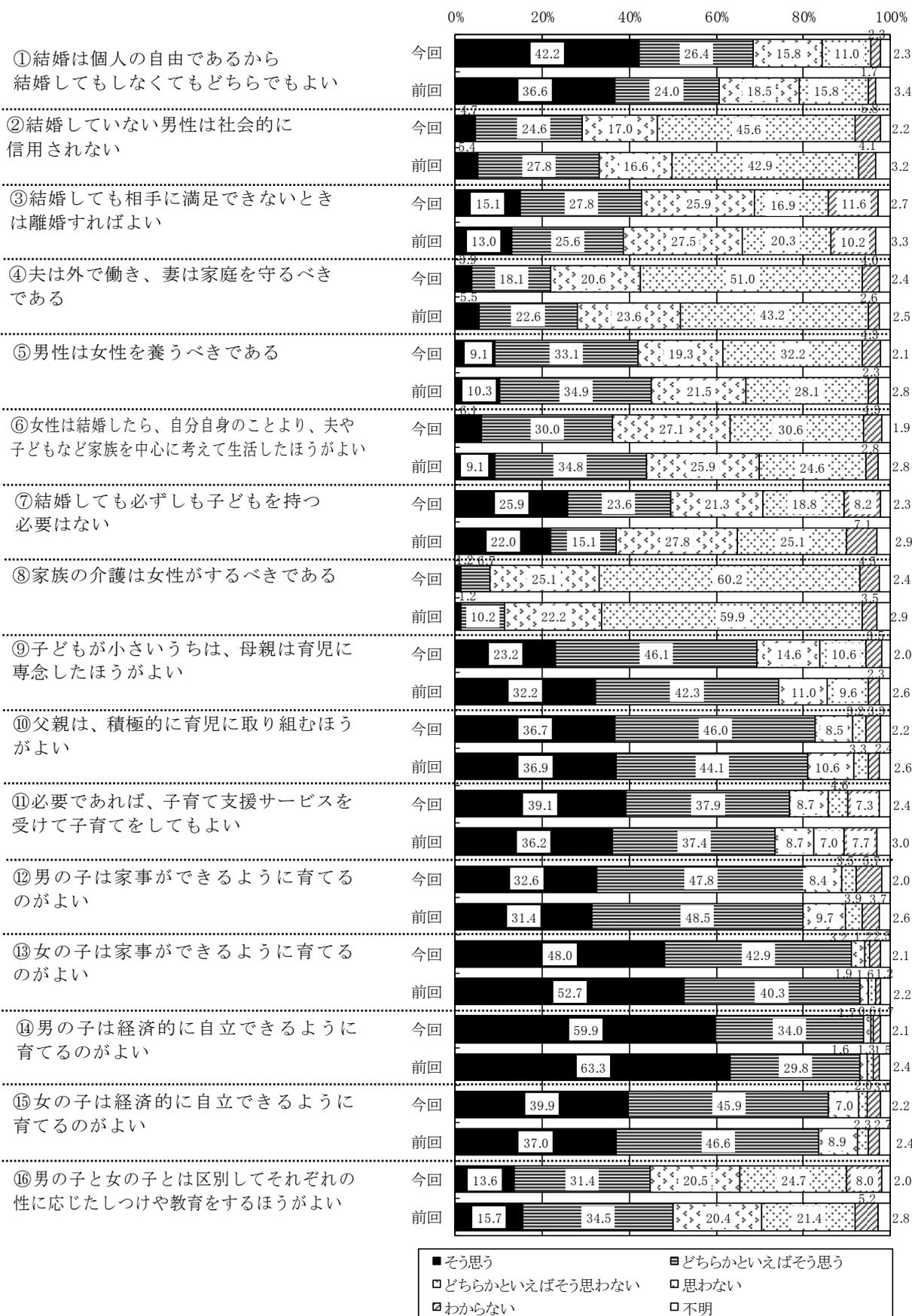
2-(4)結婚や家庭に対する考え方

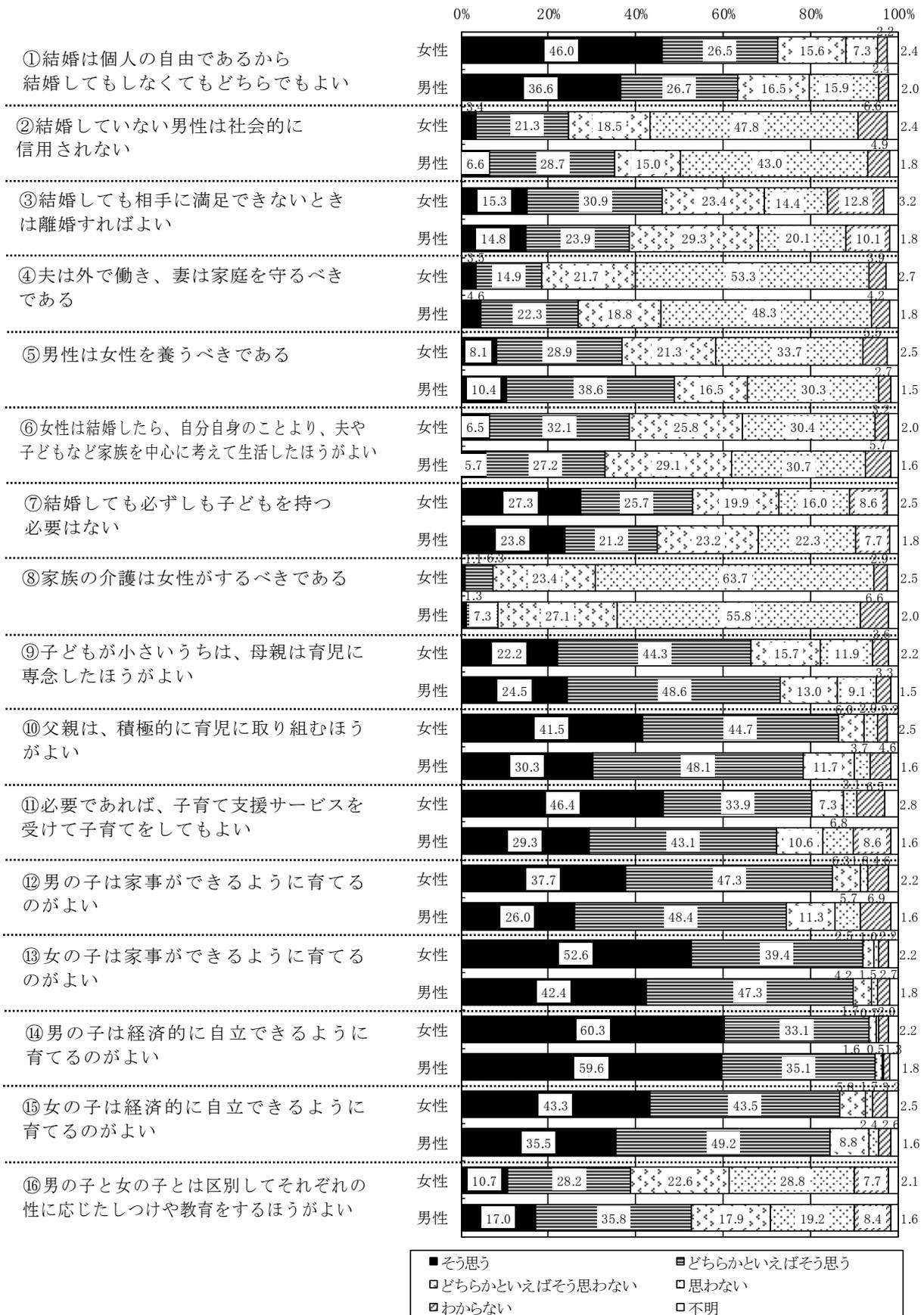
〔n=1,269〕 前回共通

問6 ①～⑯の結婚や家庭、子育てに対する考え方についてどのように思いますか。(1つ)

- ◆結婚や家庭に対する考え方についてたずねたところ、『そう思う』※2の割合が前回調査に比べ増えているのは、「⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が12.4ポイント増、「①結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」が8.0ポイント増、「③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」が4.3ポイント増となっている。
- ◆一方、『そう思う』の割合が前回調査に比べ低下しているのは、「⑥女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい」が7.8ポイント減、「④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」が6.1ポイント減、「⑯男の子と女の子とは区別してそれぞれの性に応じたしつけや教育をするほうがよい」が5.2ポイント減、「⑨子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」が5.2ポイントの減となっており、男女の固定的な役割分担意識などが少なくなっている傾向がうかがえる。
- ◆性別についてみると、『そう思う』の割合が女性の方が高いのは、「⑫男の子は家事ができるように育てるのがよい」が10.6ポイント差、「①結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」が9.2ポイント差、「⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が8.0ポイント差となっている。
- ◆一方、『そう思う』の割合が男性の方が高いのは、「⑯男の子と女の子とは区別してそれぞれの性に応じたしつけや教育をするほうがよい」が13.9ポイント差、「⑤男性は女性を養うべきである」が12.0ポイント差、「②結婚していない男性は社会的に信用されない」が10.6ポイント差となっており、男性の方が固定的な意識が強くなっている。

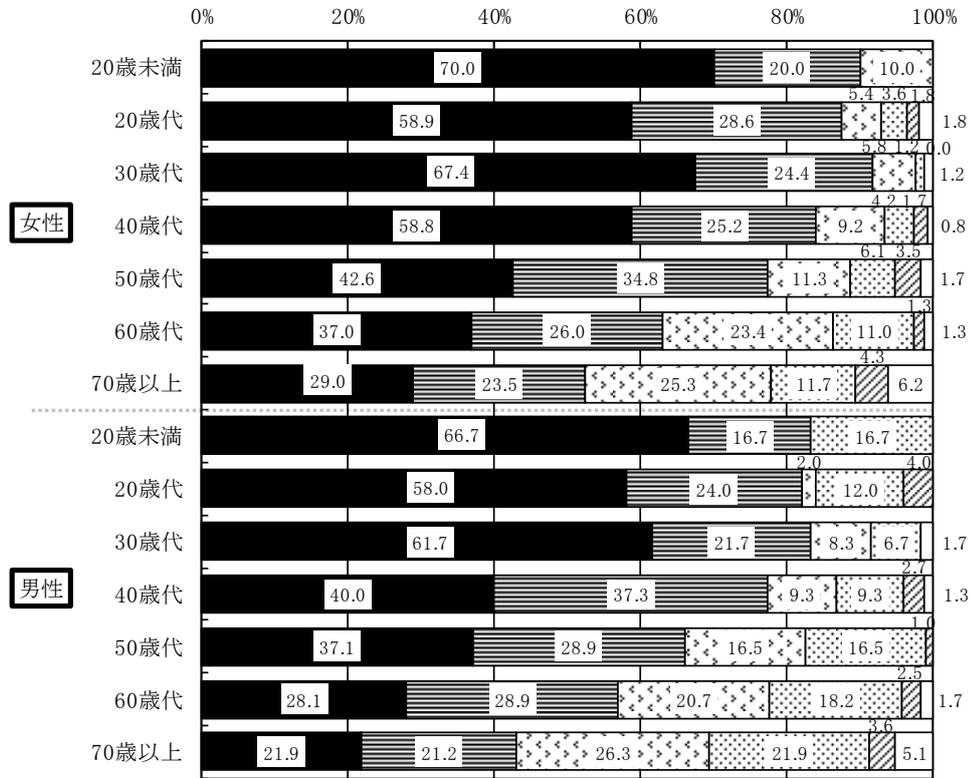
※2 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計



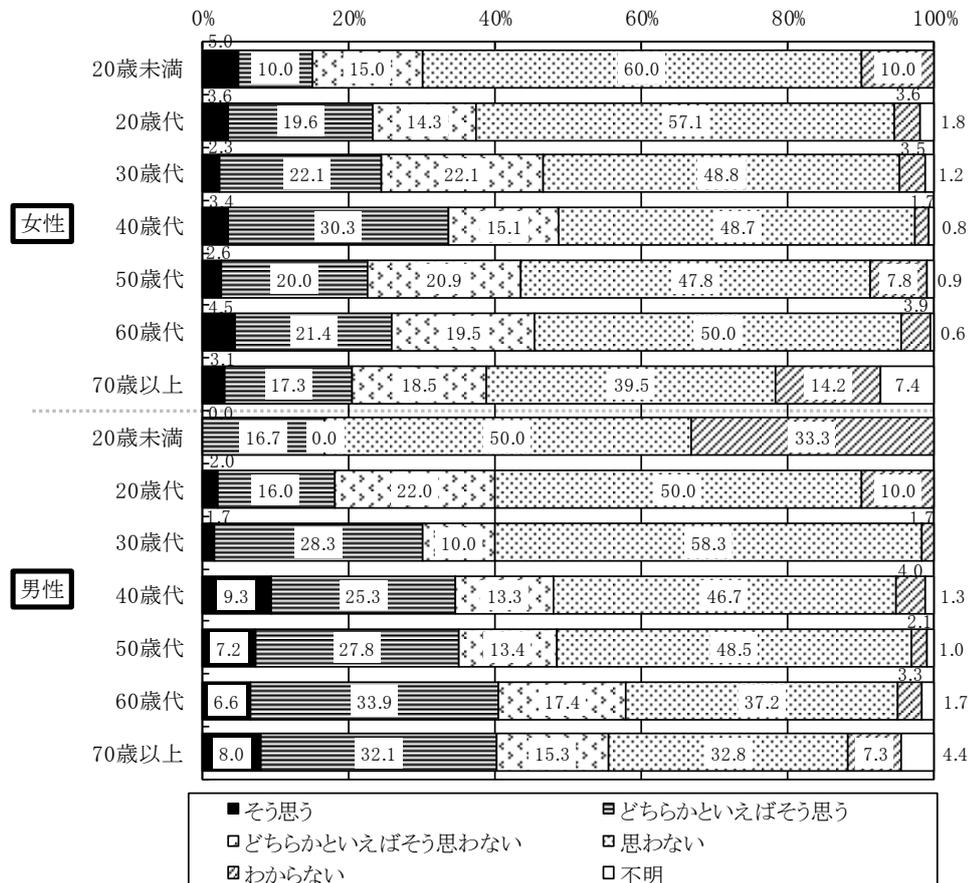


性・年齢別

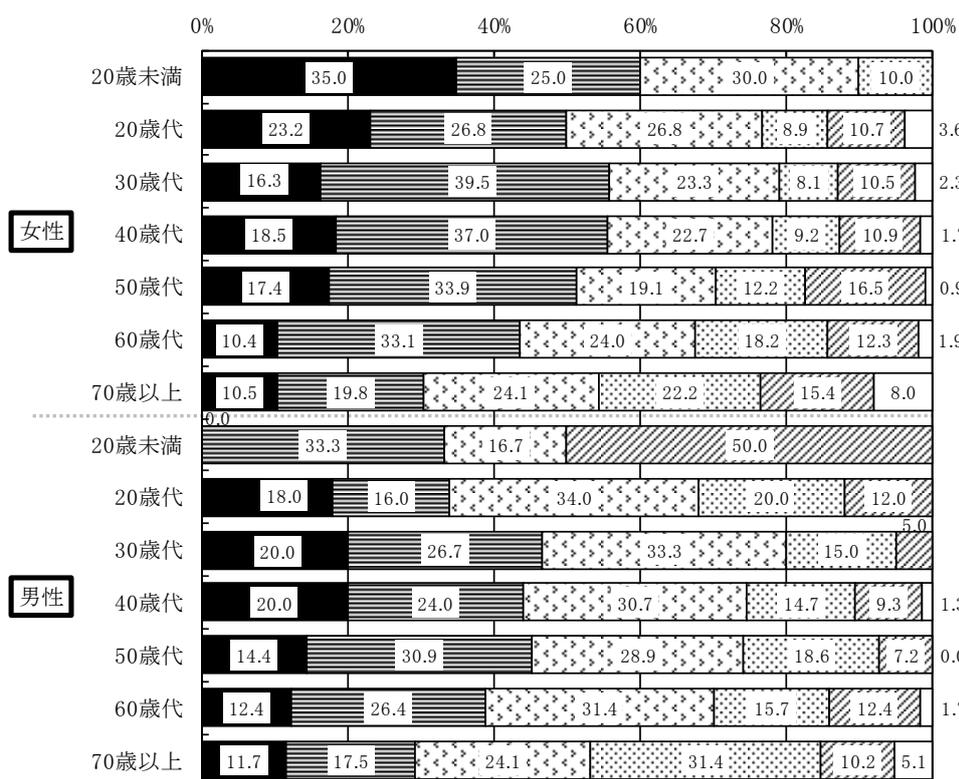
①結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい



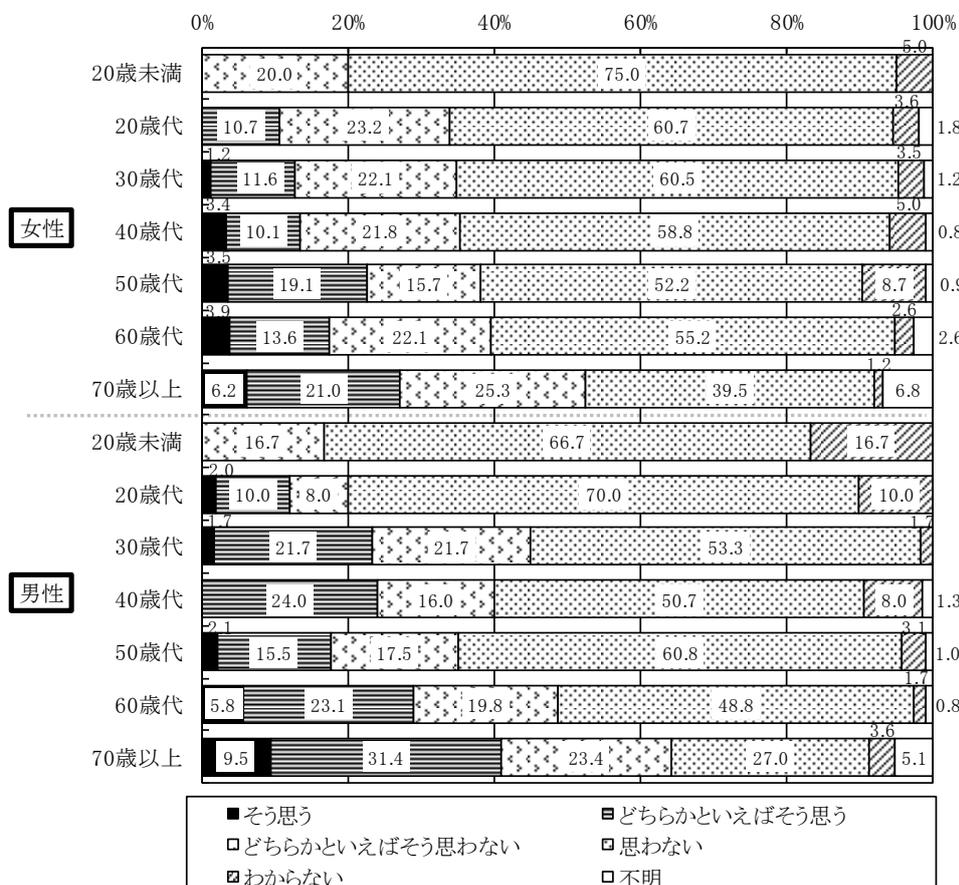
②結婚していない男性は社会的に信用されない



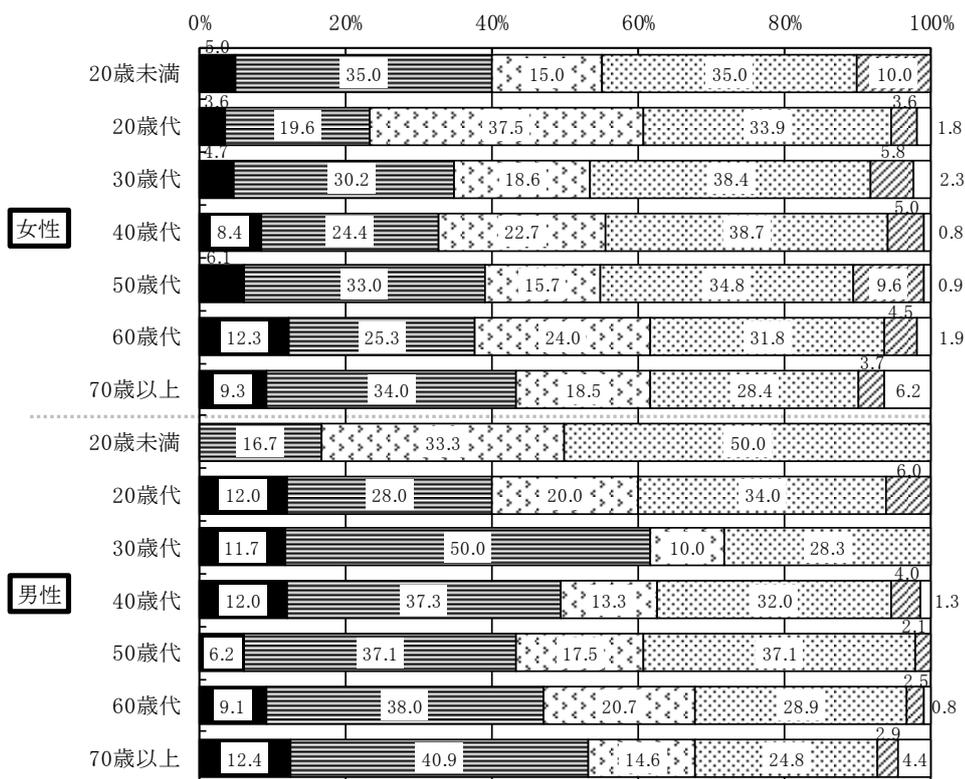
③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



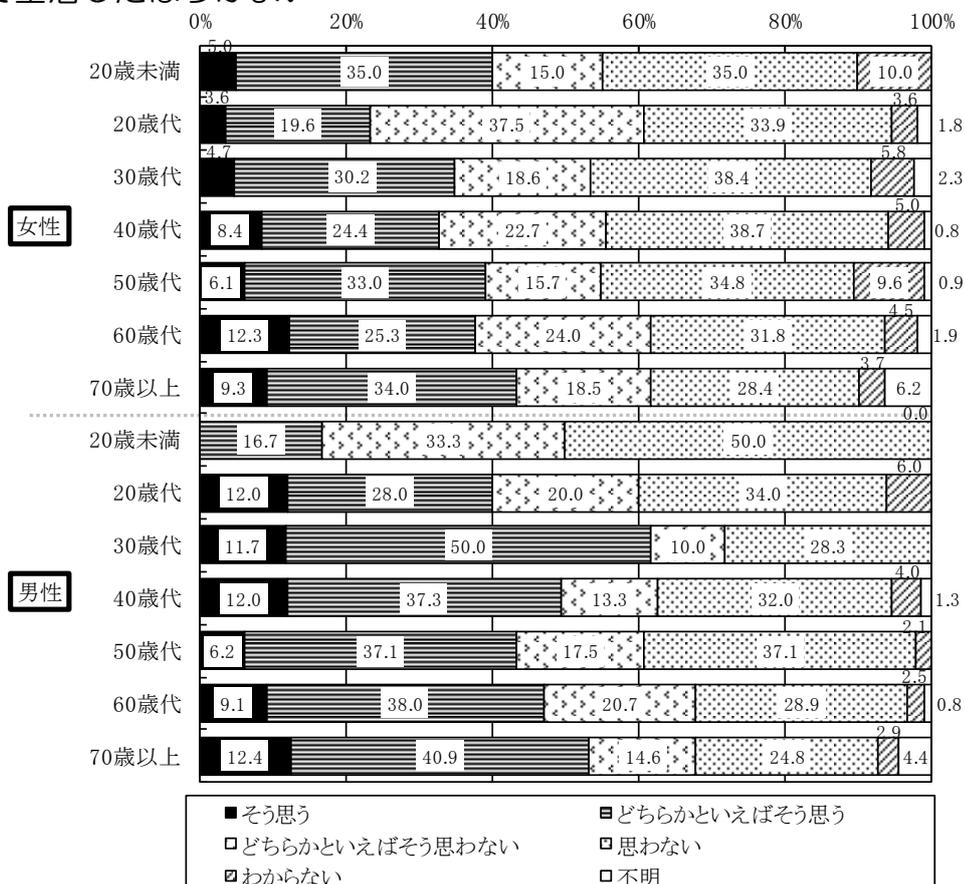
④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



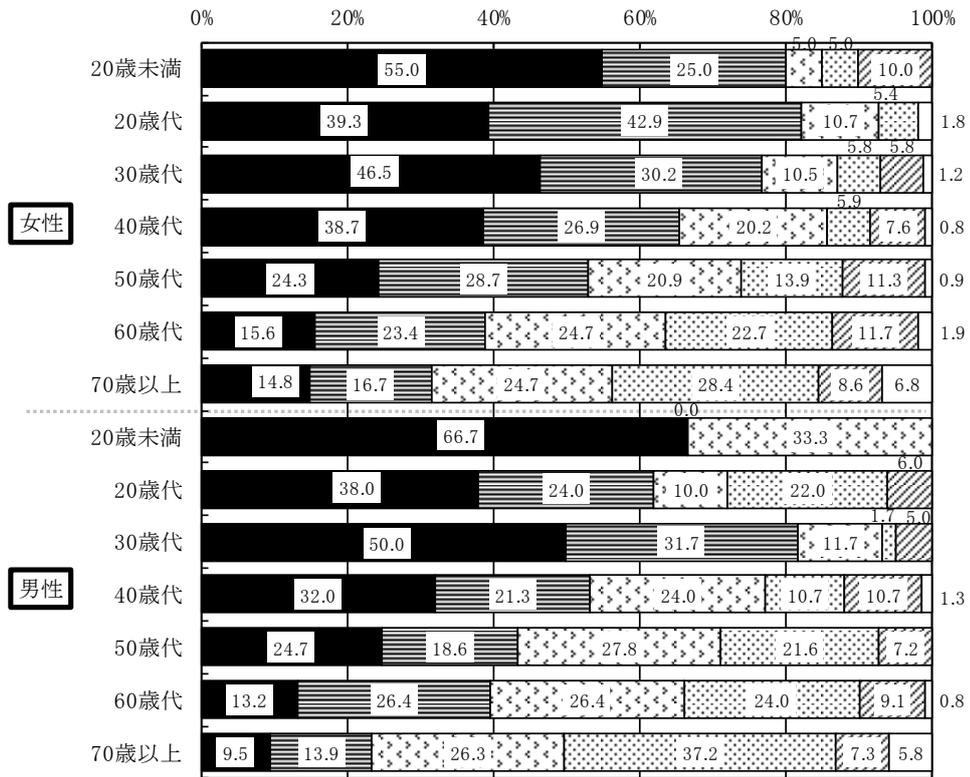
⑤男性は女性を養うべきである



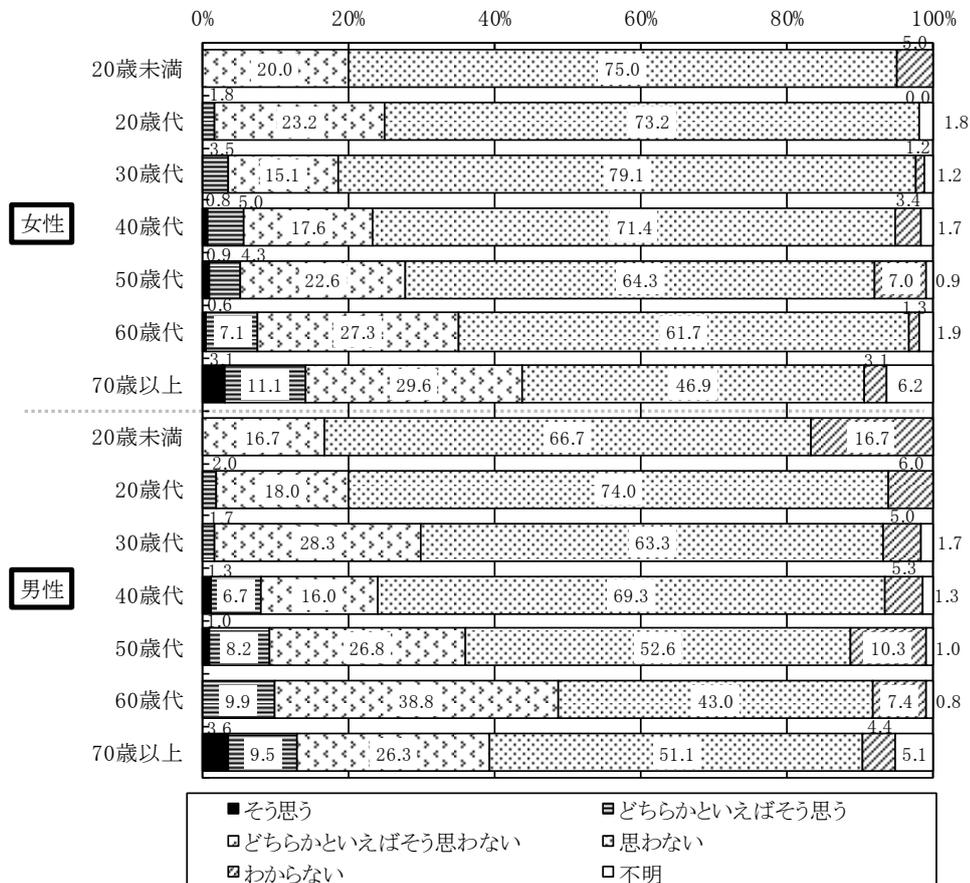
⑥女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい



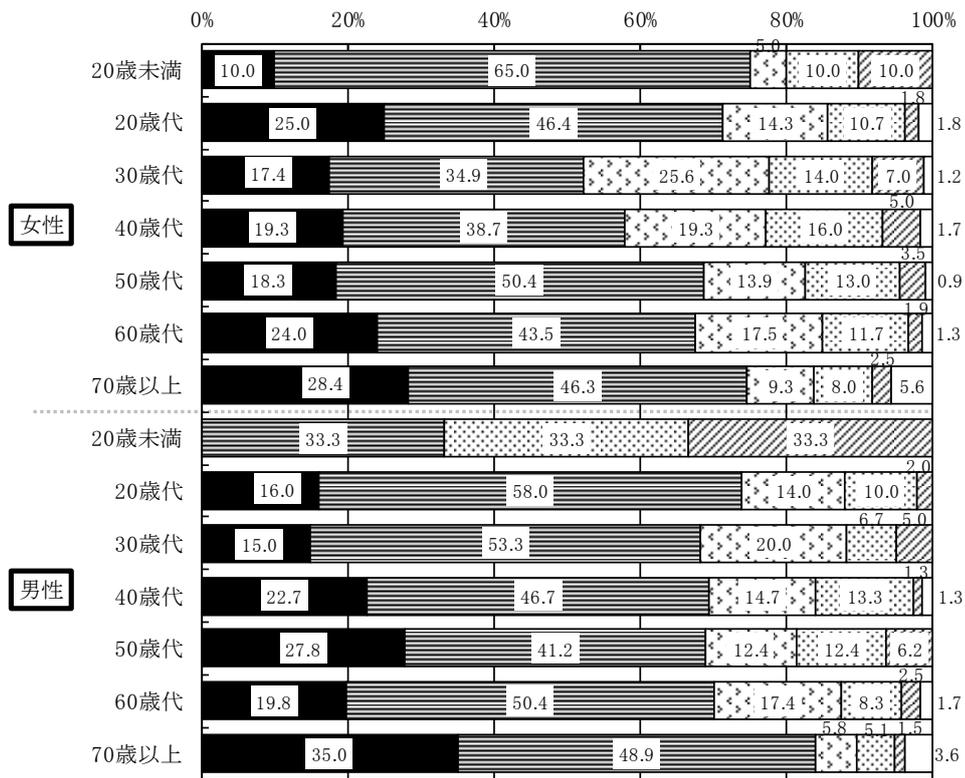
⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない



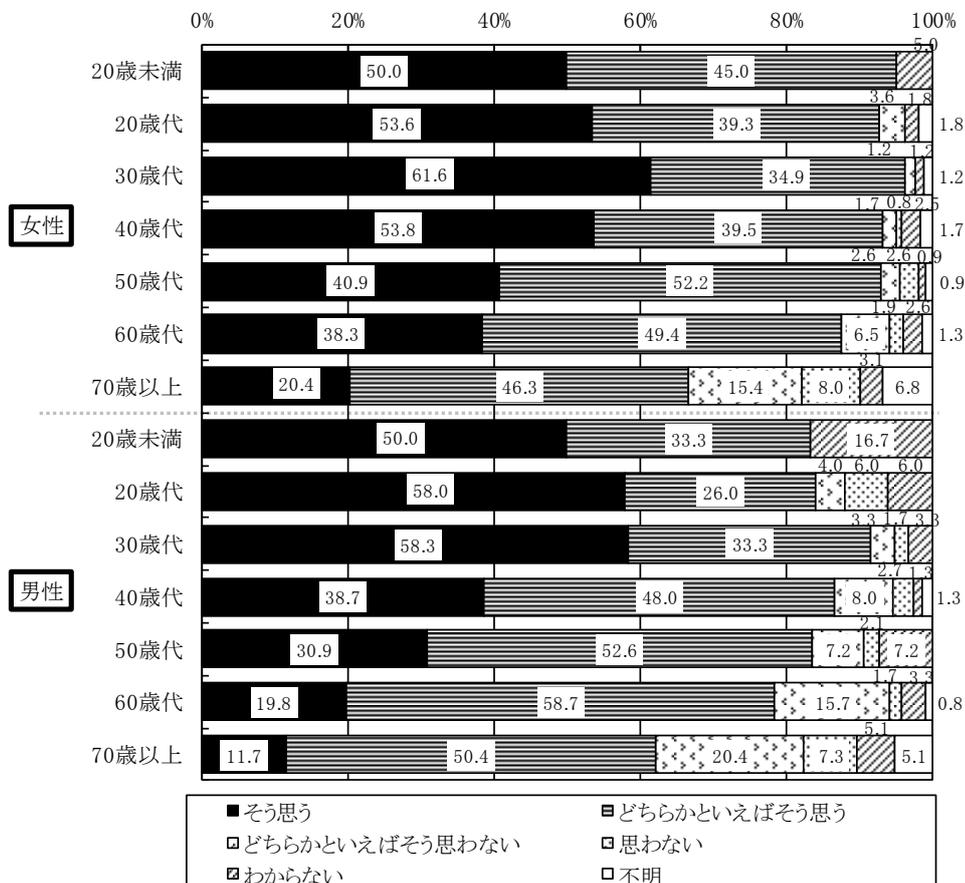
⑧家族の介護は女性がするべきである



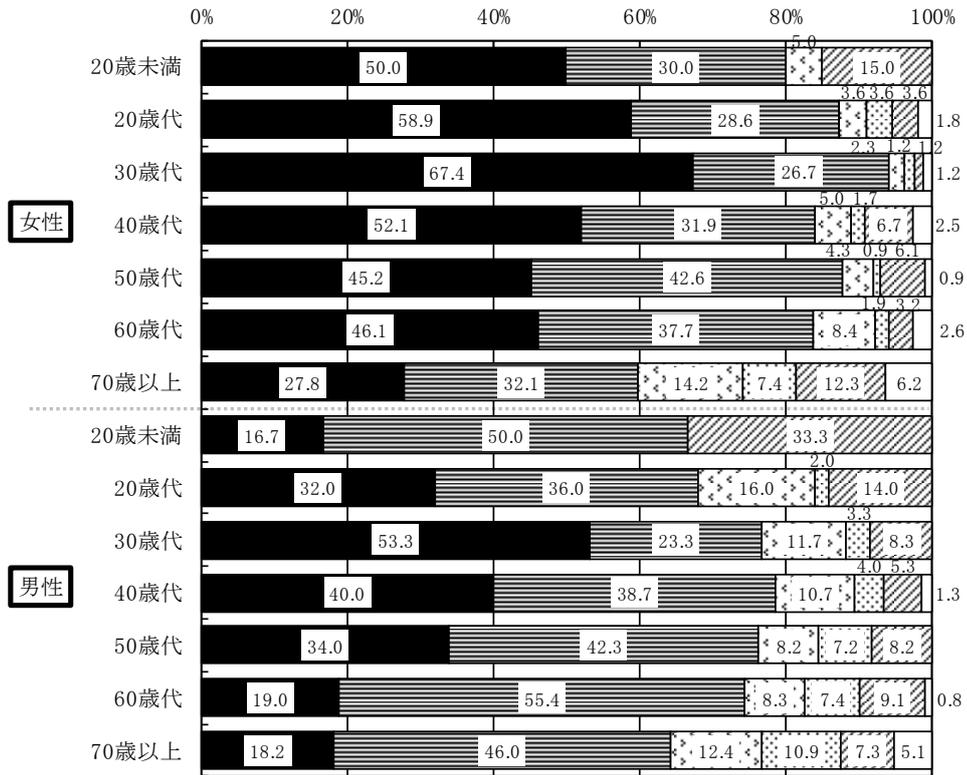
⑨子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい



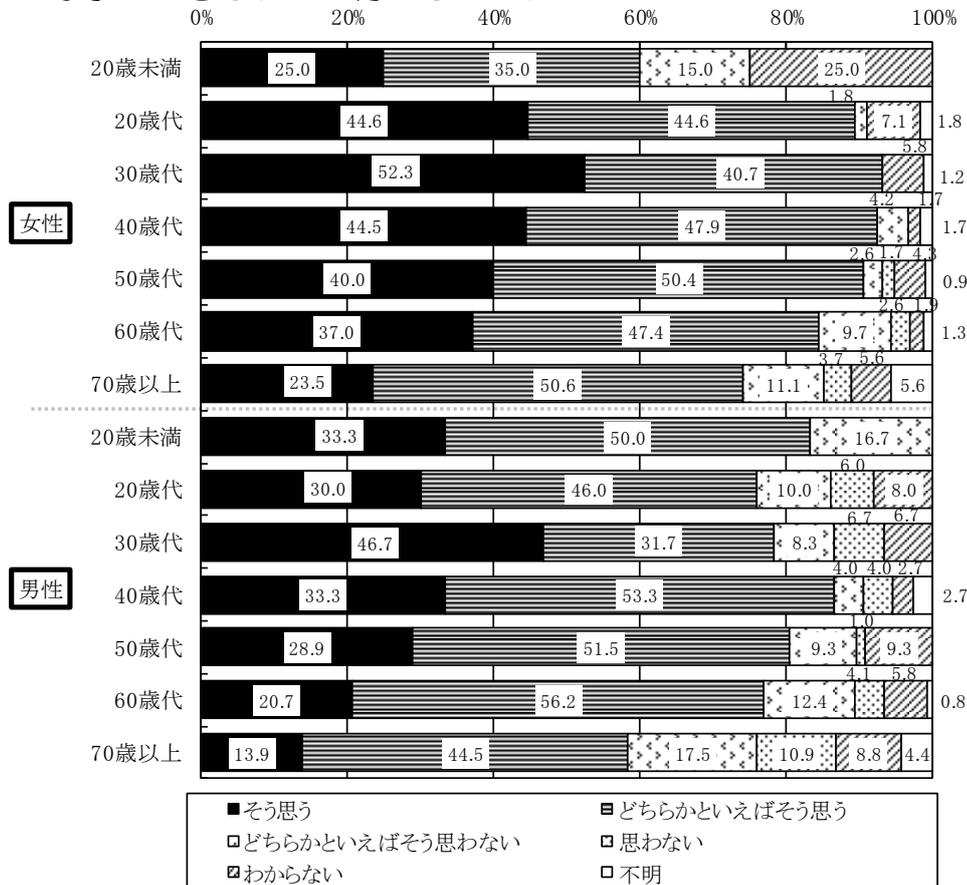
⑩父親は、積極的に育児に取り組むほうがよい



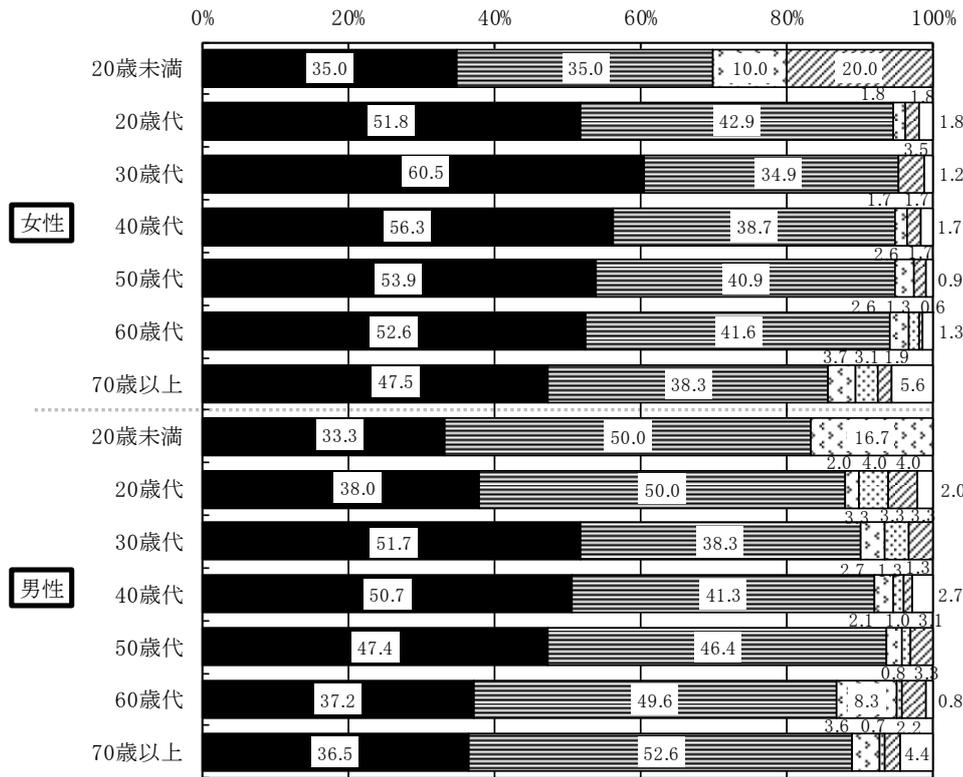
⑪必要であれば、子育て支援サービスを受けて子育てをしてもよい



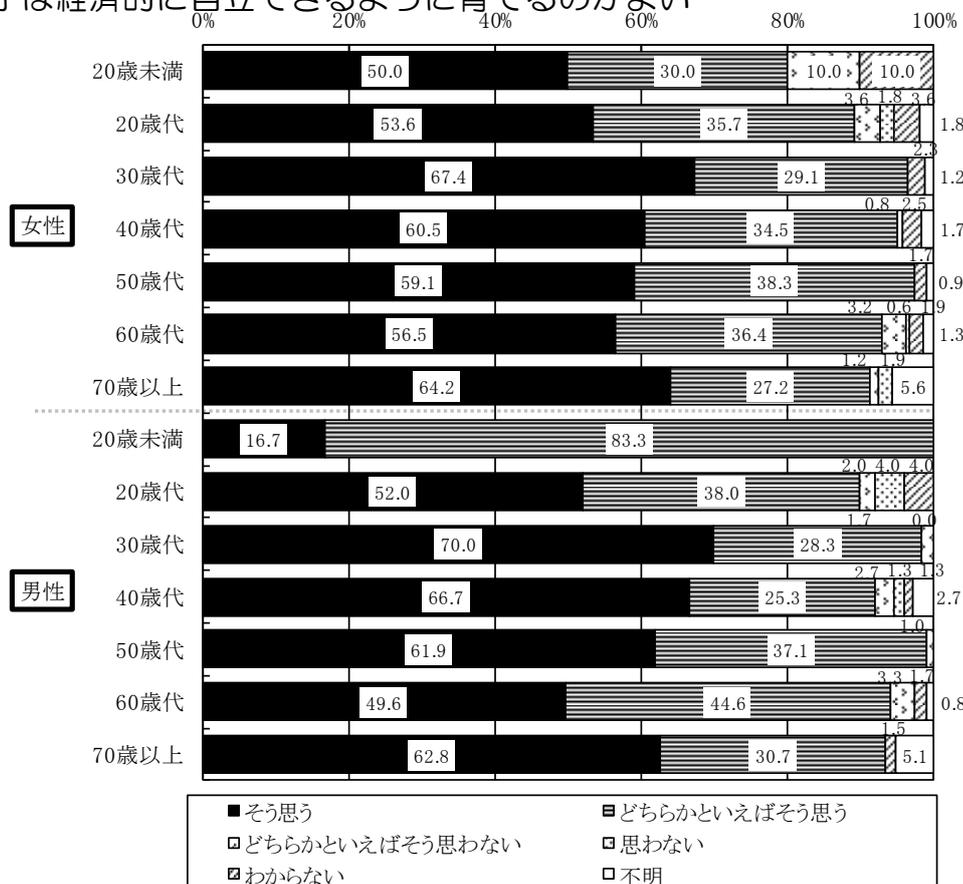
⑫男の子は家事ができるように育てるのがよい



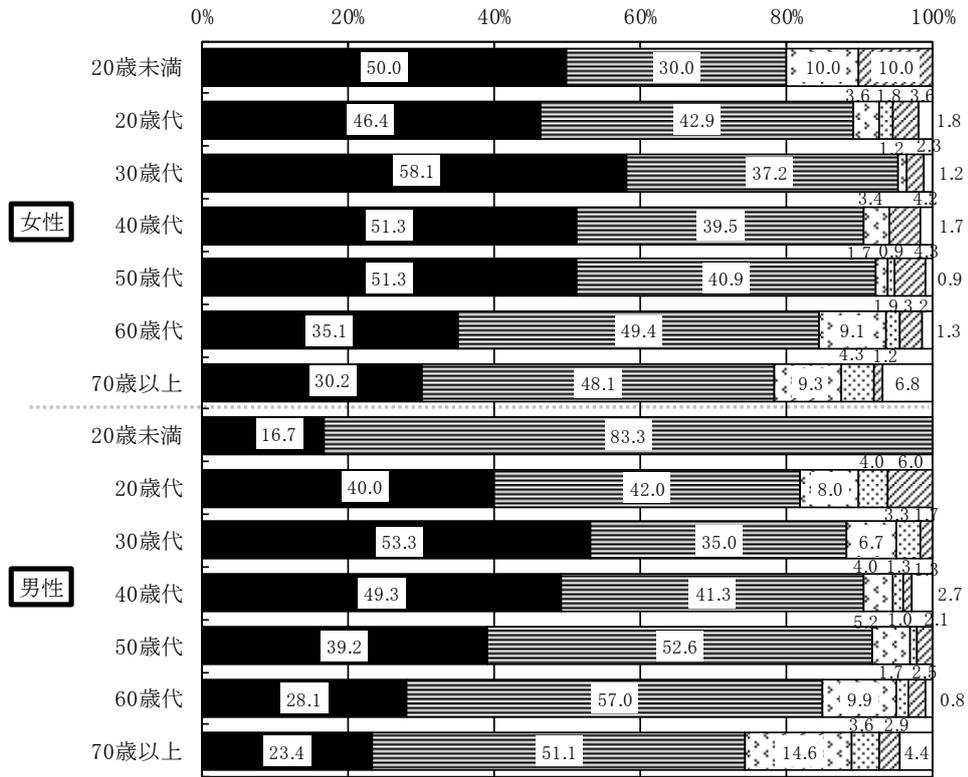
⑬女の子は家事ができるように育てるのがよい



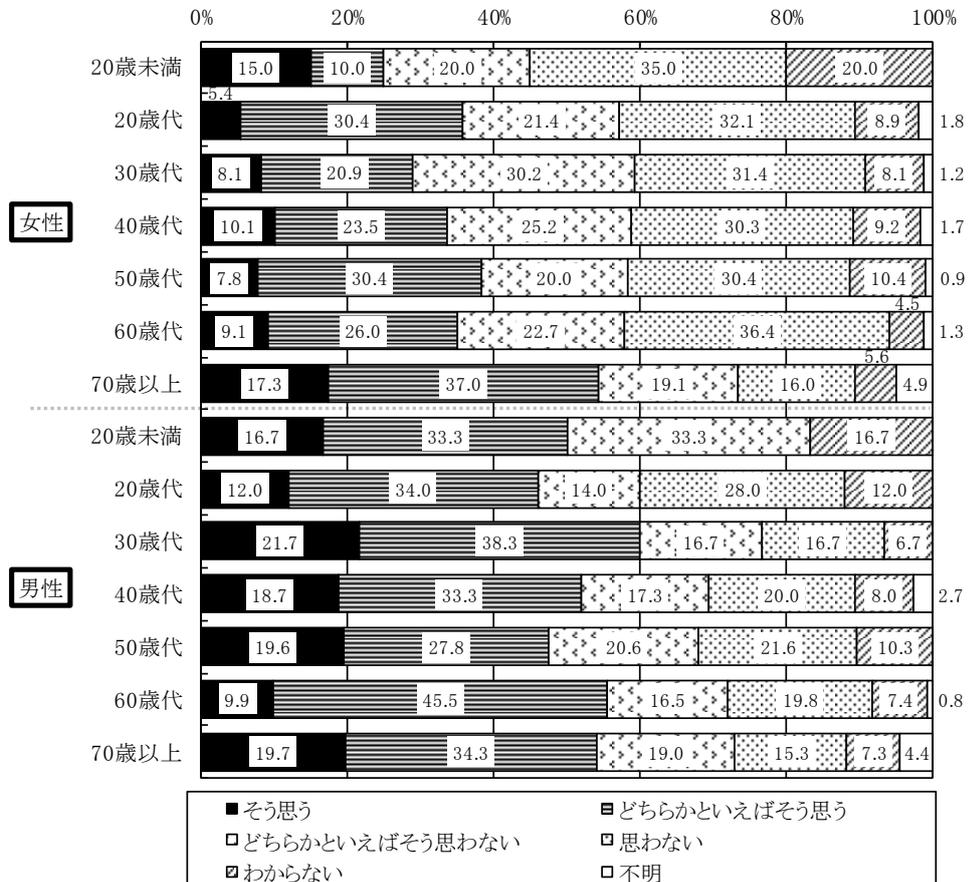
⑭男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



⑮女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



⑯男の子と女の子とは区別してそれぞれの性に合ったしつけや教育をするほうがよい

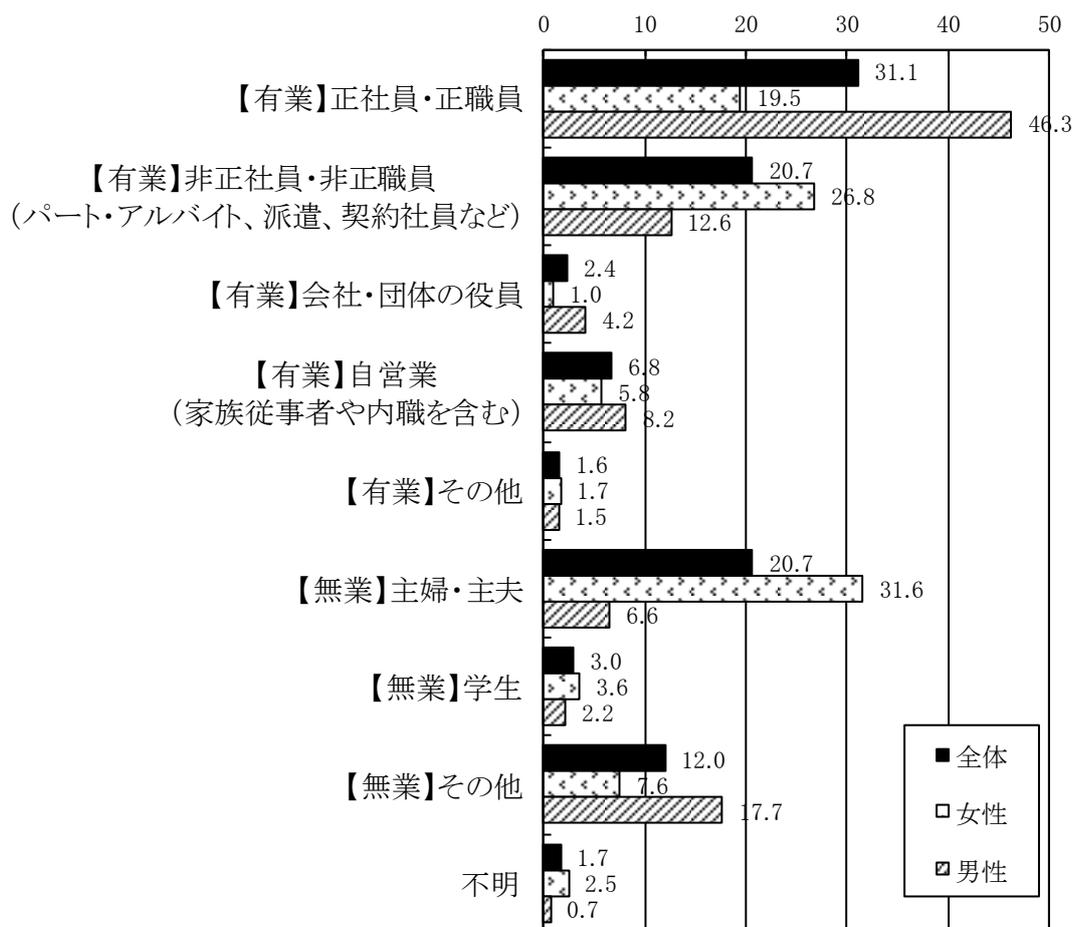


3 職業生活について

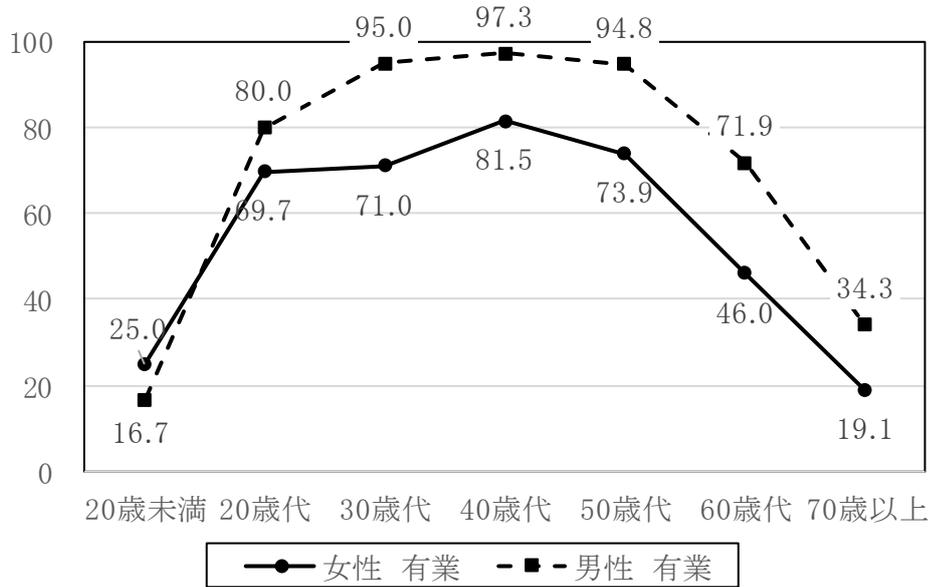
3-(1)現状の就業形態 [n=1,269]

問7 あなたの現状における主な就業形態はどのようなものですか。(1つ)

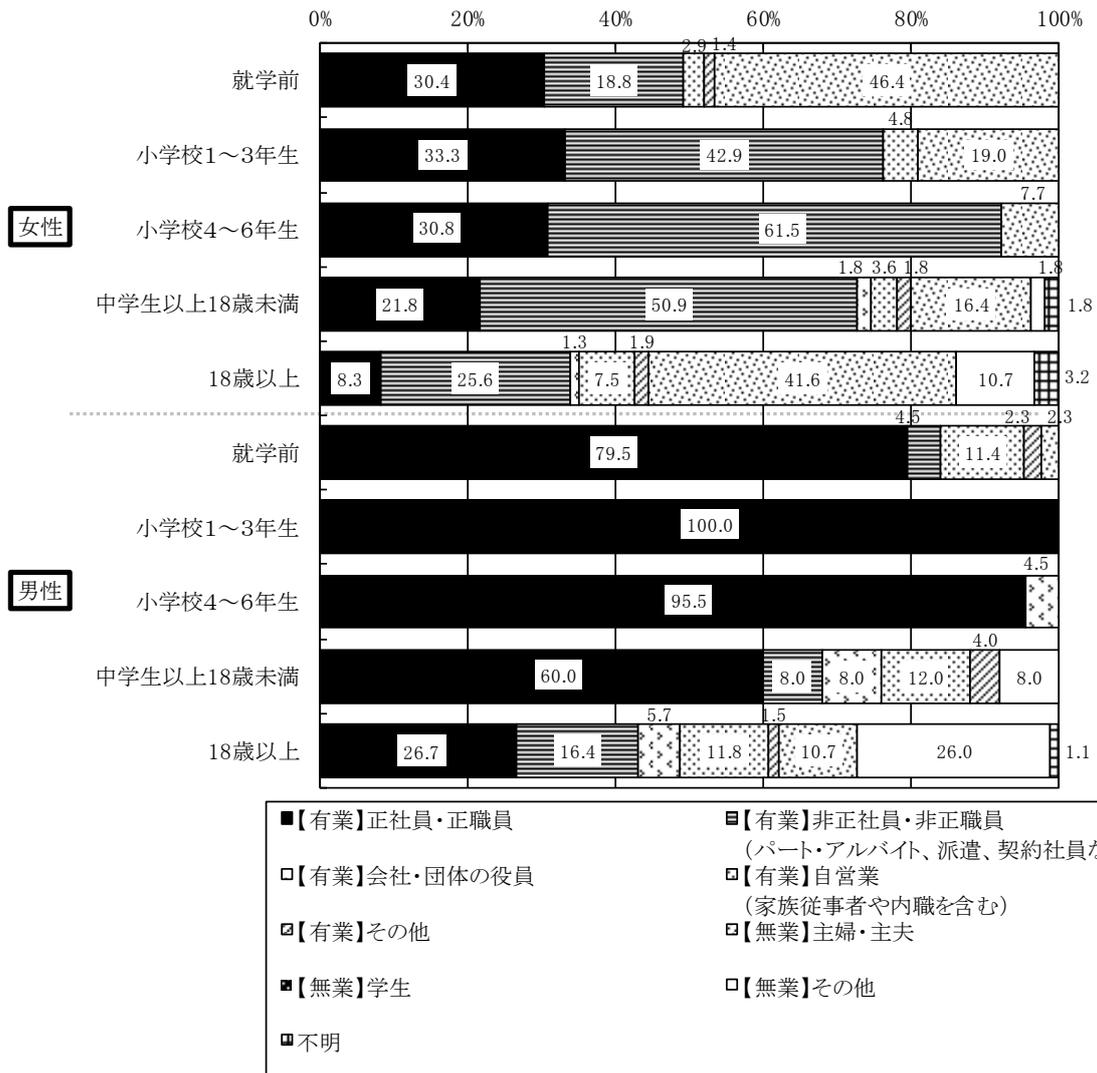
- ◆【有業】の人は、全体で62.6%、男性で72.8%、女性で54.8%となっている。
- ◆【有業】の割合を性・年齢別でみると、男性は40歳代を頂点にした「逆U字型」の傾向がみられ、女性は「20歳代」から「30歳代」の間で【有業】の割合が横ばいになっている。
- ◆【有業】の割合を性・子どもの年代（一番下の子ども）別でみると、「子どもが就学前」では女性が53.5%、男性が97.7%となっており、男女間での差が大きくなっている。



性・年齢別



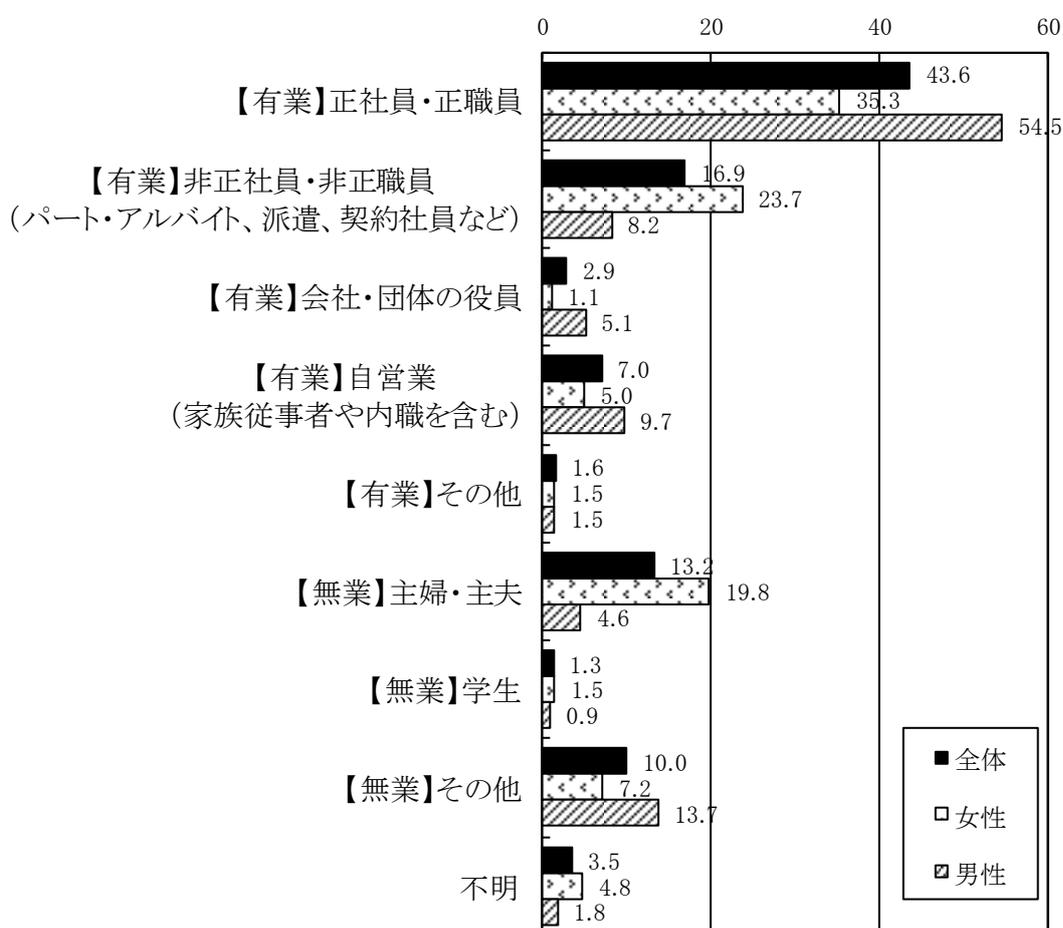
性・子どもの年代（一番下の子ども）別



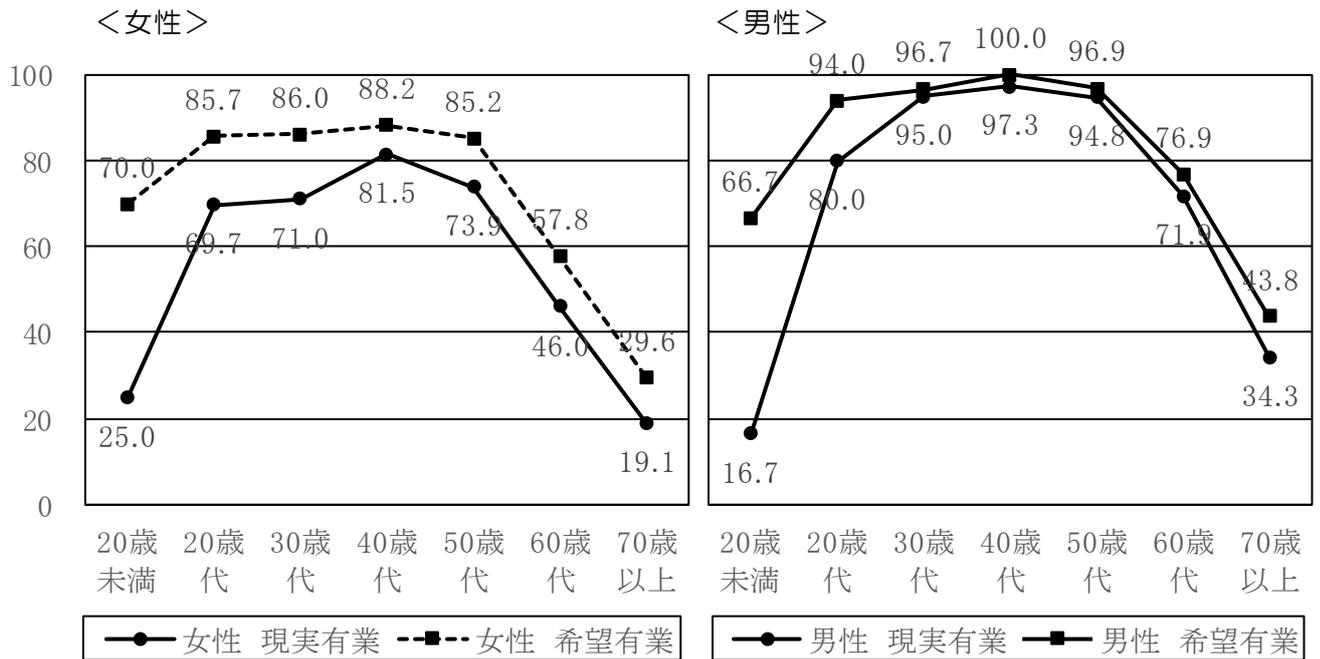
3-(2)希望の就業形態 〔n=1,269〕

問8 あなたの希望する就業形態はどのようなものですか。(1つ)

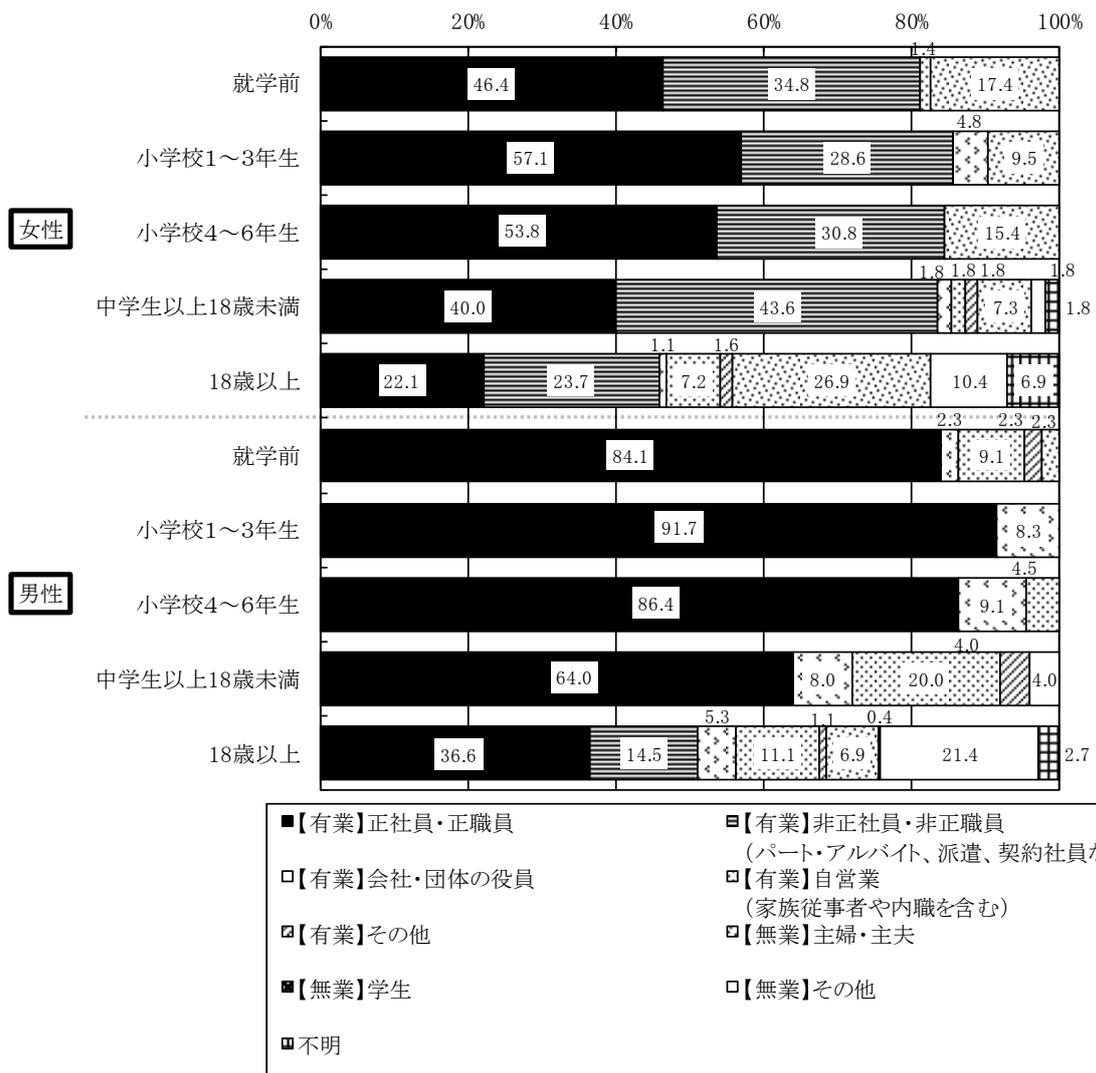
- ◆【有業】を希望する人は、全体で72.0%、女性で66.6%、男性で79.0%となっている。
- ◆性・年齢別ごとに、【有業】を希望している割合と、現状で【有業】である割合の差をみると、20歳代・女性で16.0ポイント、30歳代・女性で15.0ポイント、希望の方が高くなっている。30歳代・男性の差が1.7ポイントであることをみても、若年層の女性で就業形態の希望と現状にズレが出ている。



性・年齢別 <現実有業と希望有業の比較>



性・子どもの年代（一番下の子ども）別

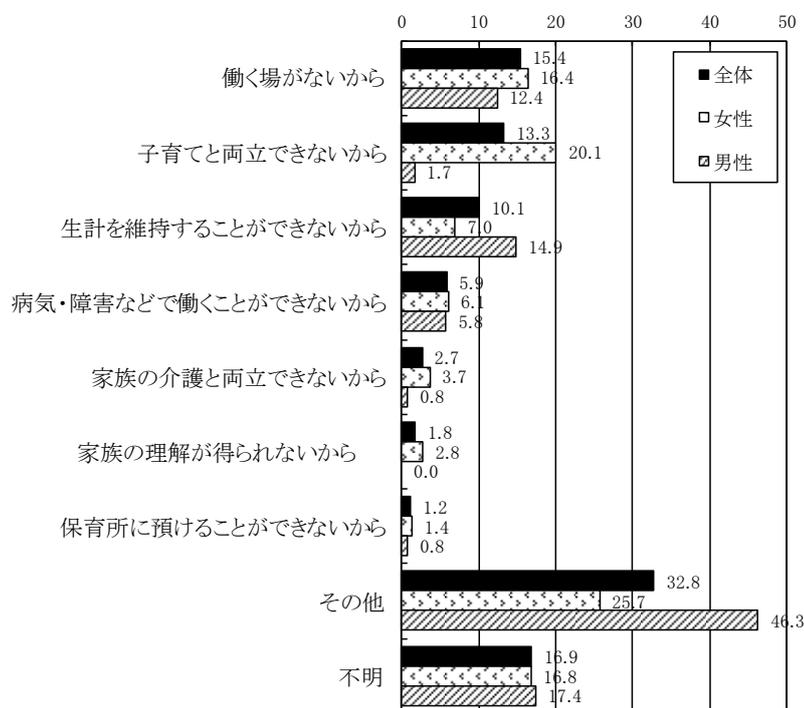


3-(3)就業形態の現状と希望があっていない理由

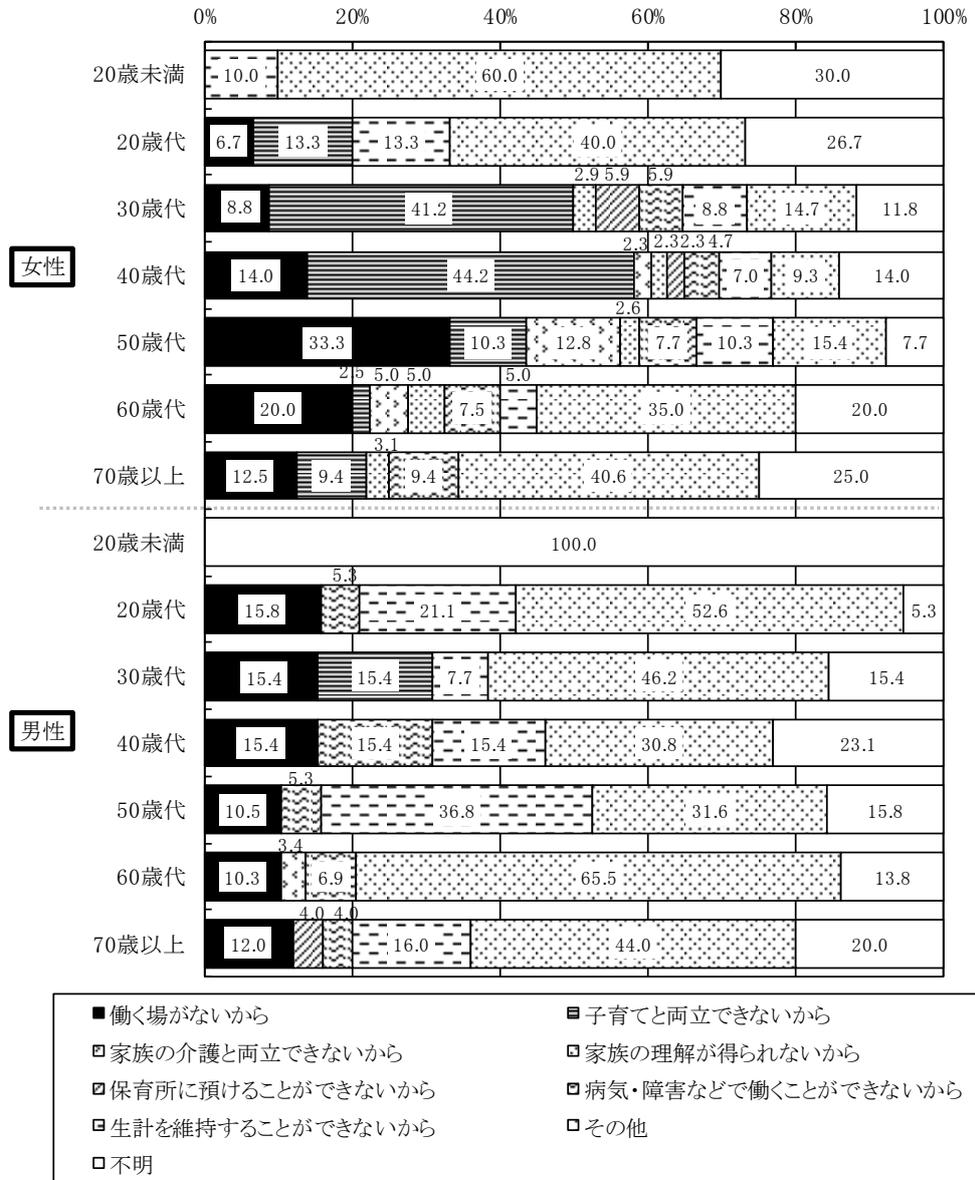
〔n=339〕

問9 【問7と問8で回答が異なった方】就業についての希望と現状があっていないのは、どのような理由からですか。（1つ）

- ◆就業についての希望と現状があっていない理由としては、「働く場がないから」「子育てと両立できないから」「生計を維持することができないから」などが多くなっている。
- ◆性別でみると、「子育てと両立できないから」は女性で多く挙げられており、「生計を維持することができないから」は男性で多く挙げられている。
- ◆性・年齢別でみると、「子育てと両立できないから」について、30歳代・女性および40歳代・女性では4割以上が挙げている。
- ◆なお、「その他」の割合が多くなっているが、「その他」を挙げた人の半数ほどは「高齢だから、定年退職したから」「学生だから」となっている。「正社員を希望したがなれない」といった意見も4件あった。



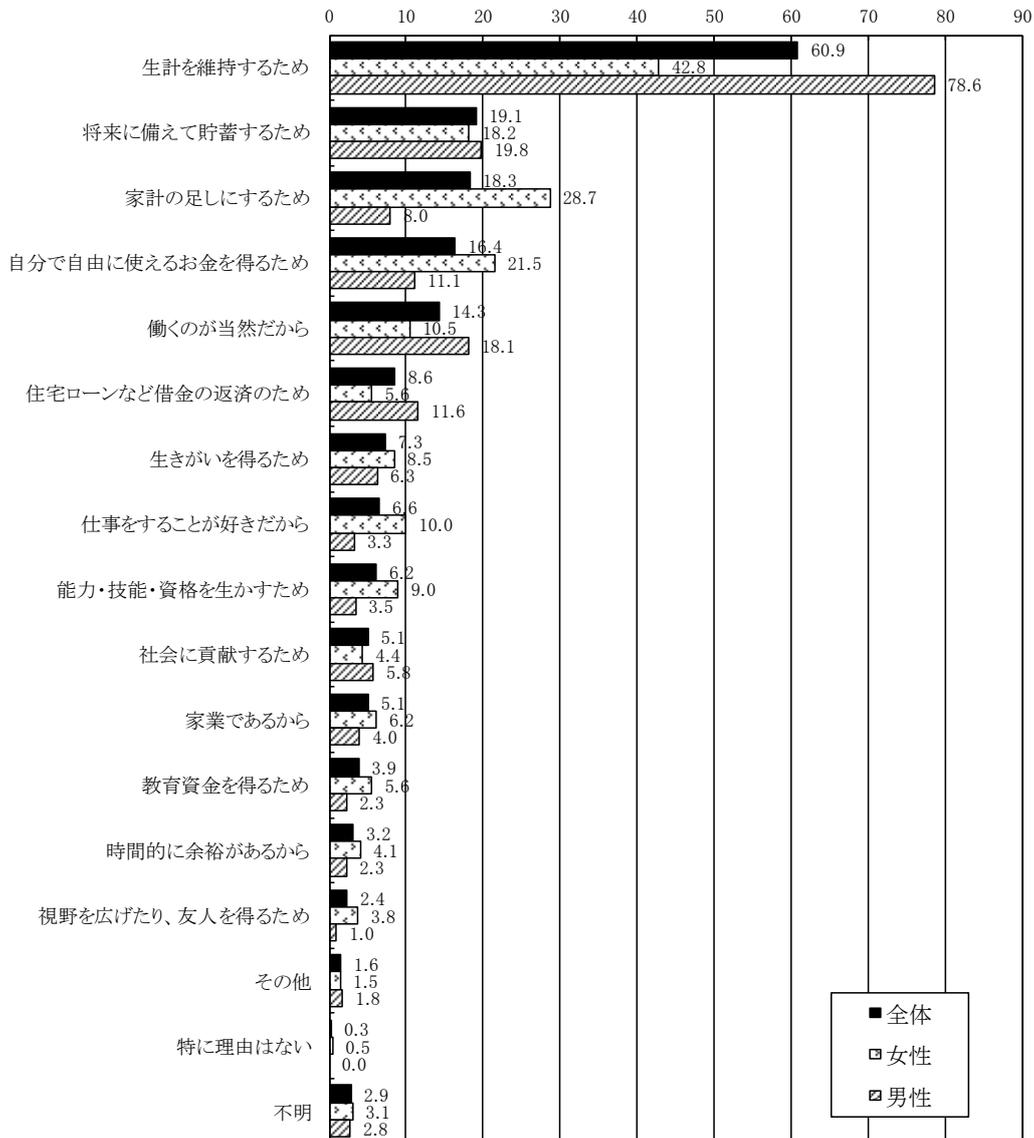
性・年齢別



3-(4)働いている理由 〔n=795〕 前回共通

問10 【収入を得る仕事をしている方（問7で「有業」と回答された方）】あなたが入収入をとる仕事をしているのはどのような理由からですか。（2つまで）

- ◆働いている理由は、「生計を維持するため」が一番多く、二番目に、「将来に備えて貯蓄するため」となっている。なお、前回調査では、一番目は同じで、二番目は「家計の足しにするため」となっていた。
- ◆性別にみると、男性では「生計を維持するため」が最も多くなっており、「将来に備えて貯蓄するため」が続いている。女性でも「生計を維持するため」が最も多くなっており、次いで「家計の足しにするため」「自分で自由に使えるお金を得るため」が続いている。



性・年齢別

女 性	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	女性全体
生計を維持するため	20.0%	48.7%	47.5%	51.5%	42.4%	33.8%	25.8%	42.9%
家計の足しにするため	0.0%	12.8%	32.8%	34.0%	31.8%	33.8%	9.7%	28.8%
住宅ローンなど借金の返済のため	0.0%	2.6%	6.6%	9.3%	8.2%	1.4%	0.0%	5.7%
教育資金を得るため	0.0%	2.6%	4.9%	13.4%	4.7%	0.0%	3.2%	5.7%
将来に備えて貯蓄するため	20.0%	28.2%	21.3%	17.5%	20.0%	11.3%	12.9%	18.3%
自分で自由に使えるお金を得るため	60.0%	43.6%	21.3%	14.4%	28.2%	15.5%	6.5%	21.6%
生きがいを得るため	0.0%	5.1%	6.6%	5.2%	7.1%	14.1%	19.4%	8.5%
能力・技能・資格を生かすため	0.0%	7.7%	8.2%	12.4%	8.2%	5.6%	12.9%	9.0%
視野を広げたり、友人を得るため	0.0%	7.7%	1.6%	3.1%	3.5%	7.0%	0.0%	3.9%
社会に貢献するため	0.0%	7.7%	4.9%	3.1%	2.4%	7.0%	3.2%	4.4%
仕事をすることが好きだから	0.0%	10.3%	8.2%	7.2%	5.9%	9.9%	35.5%	10.0%
働くのが当然だから	20.0%	20.5%	18.0%	8.2%	10.6%	5.6%	0.0%	10.5%
時間的に余裕があるから	0.0%	0.0%	1.6%	3.1%	5.9%	9.9%	0.0%	4.1%
家業であるから	0.0%	0.0%	1.6%	1.0%	3.5%	16.9%	22.6%	6.2%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	3.5%	1.4%	0.0%	1.5%
特に理由はない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	3.2%	0.5%
不明	20.0%	0.0%	3.3%	3.1%	1.2%	2.8%	6.5%	2.8%

男 性	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	男性全体
生計を維持するため	100.0%	80.0%	89.5%	91.8%	95.7%	66.7%	31.9%	78.6%
家計の足しにするため	0.0%	7.5%	5.3%	4.1%	4.3%	12.6%	17.0%	8.1%
住宅ローンなど借金の返済のため	0.0%	12.5%	19.3%	15.1%	15.2%	5.7%	0.0%	11.6%
教育資金を得るため	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%	3.3%	1.1%	0.0%	2.3%
将来に備えて貯蓄するため	100.0%	42.5%	28.1%	21.9%	18.5%	12.6%	2.1%	19.9%
自分で自由に使えるお金を得るため	0.0%	22.5%	5.3%	8.2%	4.3%	18.4%	10.6%	10.8%
生きがいを得るため	0.0%	0.0%	5.3%	1.4%	4.3%	11.5%	14.9%	6.3%
能力・技能・資格を生かすため	0.0%	0.0%	5.3%	1.4%	2.2%	9.2%	0.0%	3.5%
視野を広げたり、友人を得るため	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	6.4%	1.0%
社会に貢献するため	0.0%	0.0%	3.5%	5.5%	10.9%	5.7%	4.3%	5.8%
仕事をすることが好きだから	0.0%	5.0%	3.5%	0.0%	3.3%	2.3%	8.5%	3.3%
働くのが当然だから	0.0%	15.0%	22.8%	20.5%	22.8%	10.3%	17.0%	18.1%
時間的に余裕があるから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%	10.6%	2.3%
家業であるから	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	3.3%	4.6%	14.9%	4.0%
その他	0.0%	7.5%	1.8%	1.4%	0.0%	0.0%	4.3%	1.8%
特に理由はない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	0.0%	0.0%	1.8%	2.7%	0.0%	3.4%	10.6%	2.8%

性・婚姻状況別

	女 性				男 性			
	既婚	離婚、死別等により配偶者なし	未婚	女性全体	既婚	離婚、死別等により配偶者なし	未婚	男性全体
生計を維持するため	35.2%	69.2%	52.2%	41.8%	79.6%	82.6%	78.0%	79.5%
家計の足しにするため	36.7%	12.8%	7.2%	28.8%	8.9%	8.7%	6.1%	8.3%
住宅ローンなど借金の返済のため	5.9%	10.3%	1.4%	5.6%	13.2%	13.0%	7.3%	11.9%
教育資金を得るため	6.7%	5.1%	0.0%	5.3%	2.5%	4.3%	0.0%	2.1%
将来に備えて貯蓄するため	18.1%	17.9%	21.7%	18.8%	16.1%	8.7%	35.4%	19.7%
自分で自由に使えるお金を得るため	18.1%	7.7%	42.0%	21.4%	6.8%	13.0%	26.8%	11.4%
生きがいを得るため	9.3%	7.7%	5.8%	8.5%	7.9%	0.0%	2.4%	6.2%
能力・技能・資格を生かすため	8.9%	12.8%	7.2%	9.0%	4.3%	0.0%	2.4%	3.6%
視野を広げたり、友人を得るため	4.8%	0.0%	1.4%	3.7%	1.4%	0.0%	0.0%	1.0%
社会に貢献するため	4.1%	2.6%	7.2%	4.5%	6.1%	8.7%	3.7%	5.7%
仕事をするのが好きだから	8.9%	20.5%	8.7%	10.1%	3.2%	0.0%	3.7%	3.1%
働くのが当然だから	7.0%	7.7%	24.6%	10.3%	17.5%	26.1%	18.3%	18.2%
時間的に余裕があるから	5.2%	5.1%	0.0%	4.2%	2.5%	4.3%	1.2%	2.3%
家業であるから	8.1%	5.1%	0.0%	6.3%	5.4%	0.0%	0.0%	3.9%
その他	1.9%	2.6%	0.0%	1.6%	1.4%	0.0%	2.4%	1.6%
特に理由はない	0.7%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不明	3.7%	0.0%	2.9%	3.2%	2.5%	4.3%	1.2%	2.3%

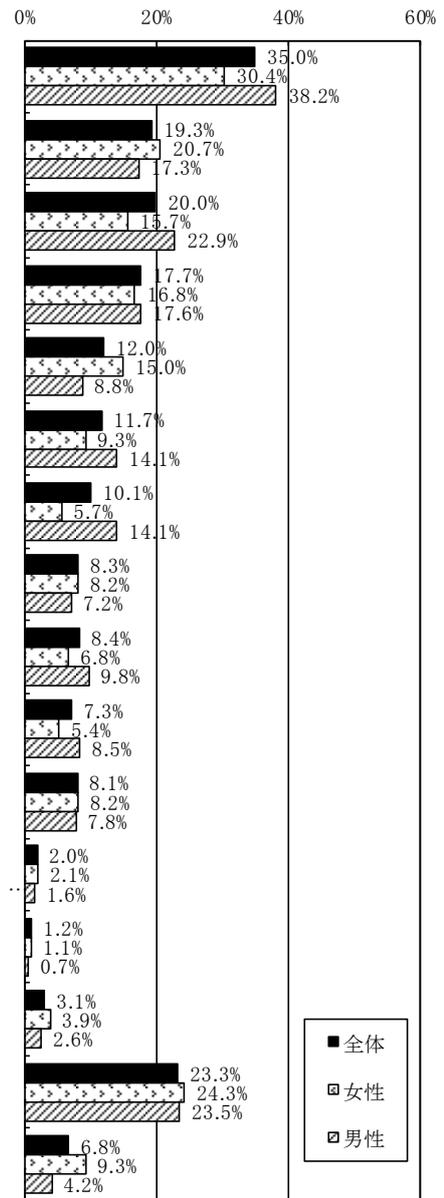
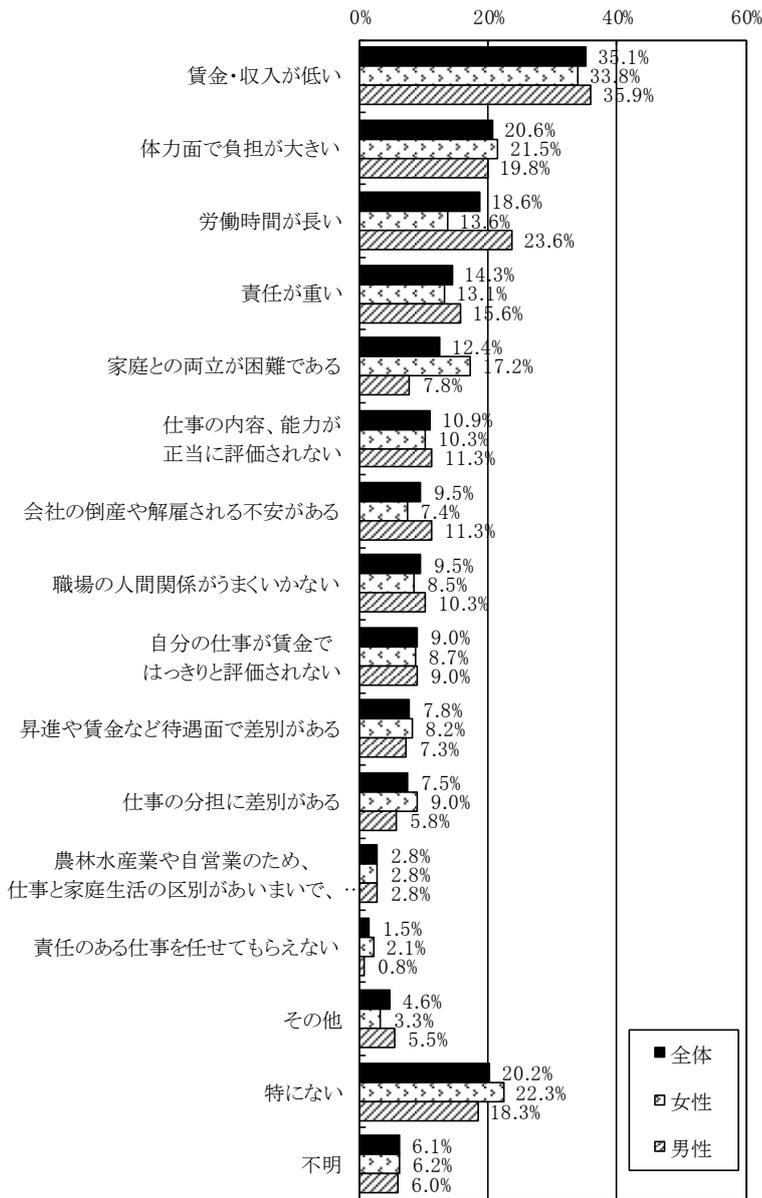
3-(5)仕事についての悩みや不安 [n=795] **前回共通**

問11 【収入を得る仕事をしている方（問7で「有業」と回答された方）】あなたは、仕事について悩みや不安がありますか。（すべて）

- ◆仕事についての悩みや不安についてたずねたところ、「賃金・収入が低い」が最も多く、次いで、「体力面での負担が大きい」が続いている。
- ◆前回調査と比較すると、「体力面での負担が大きい」「職場の人間関係がうまくいかない」などで増加している。
- ◆性別にみると、女性の方が多く挙げられているのは、「家庭と両立が困難である」（9.4ポイント差）、「仕事の分担に差別がある」（3.2ポイント差）などがあり、男性の方が多く挙げられているのは、「労働時間が長い」（10.0ポイント差）、「会社の倒産や解雇される心配がある」（3.9ポイント差）などとなっている。

【今回調査】

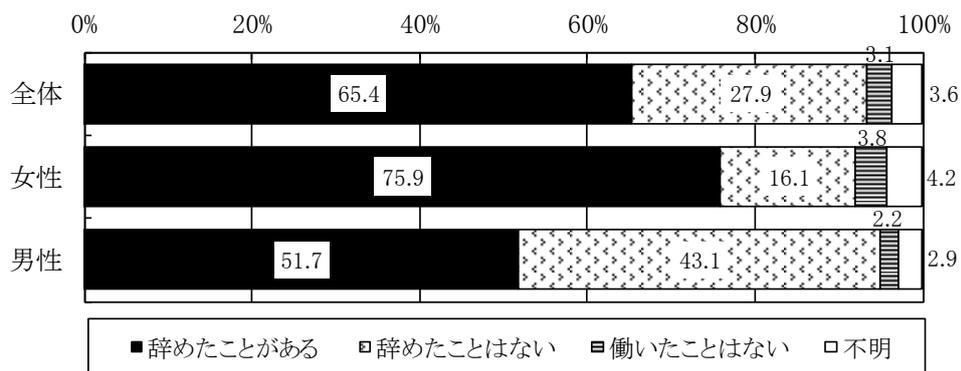
【前回調査】



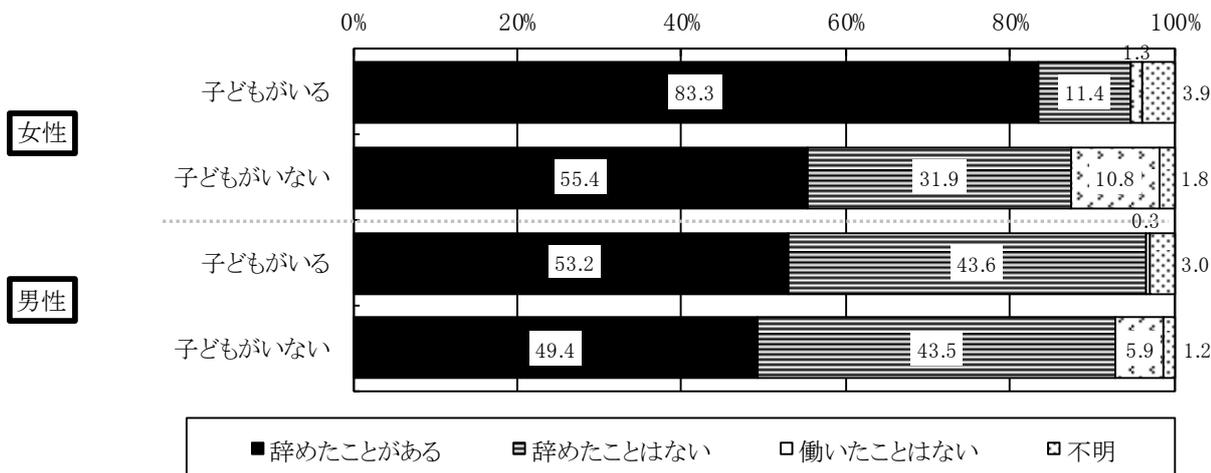
3-(6)離職の有無 [n=1,269]

問12 あなたは、これまでに仕事を辞めたことがありますか。(1つ)

- ◆ 離職の有無について、全体では65.4%が離職した経験があるものの、男女間で24.2ポイントの差が生じている。
- ◆ 性・子どもの有無別でみると、子どものいる女性では離職したことがある割合が83.3%と非常に高い割合となっている。



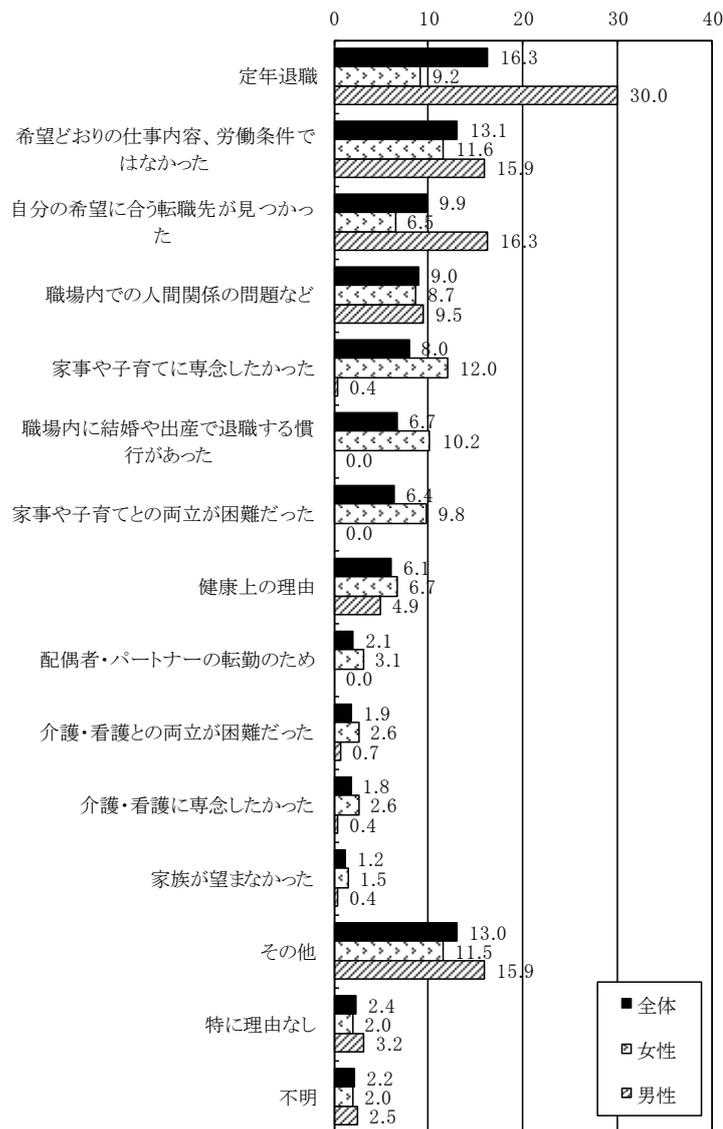
性・子どもの有無別



3-(7)離職の理由 [n=829]

問13 【問12で辞めたことがあると回答された方】前職を辞めたのはなぜですか。(1つ)

- ◆ 離職の理由として、全体では「定年退職」が一番多く、次いで「希望どおりの仕事内容、労働条件ではなかった」「自分の希望に合う転職先が見つかった」となっている。
- ◆ 性別で見ると、女性の離職の理由として多かったのは、「家事や子育てに専念したかった」の12.0%、「希望どおりの仕事内容、労働条件ではなかった」の11.6%などとなっている。一方、男性の離職の理由として多かったのは、「定年退職」の30.0%、「自分の希望に合う転職先が見つかった」の16.3%、「希望どおりの仕事内容、労働条件ではなかった」の15.9%などとなっている。



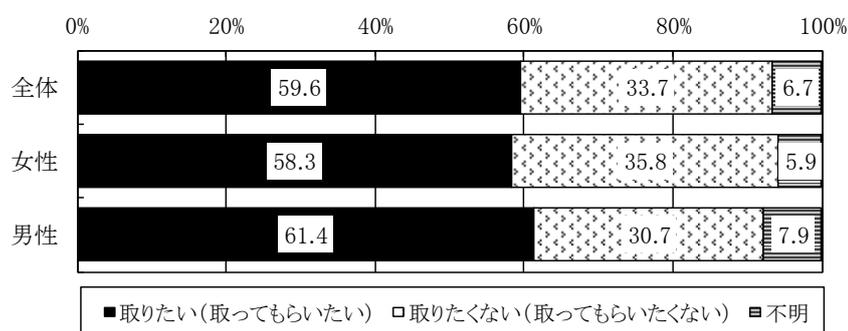
性・子どもの有無別

	女 性			男 性		
	子どもが いる	子どもが いない	女性全体	子どもが いる	子どもが いない	男性全体
自分の希望に合う転職先が見つかった	5.4%	12.0%	6.5%	16.5%	15.5%	16.2%
健康上の理由	6.1%	9.8%	6.7%	4.1%	4.8%	4.3%
定年退職	9.9%	5.4%	9.1%	36.1%	17.9%	30.6%
家事や子育てとの両立が困難だった	11.3%	3.3%	9.9%	0.0%	0.0%	0.0%
介護・看護との両立が困難だった	2.9%	1.1%	2.6%	0.5%	1.2%	0.7%
配偶者・パートナーの転勤のため	2.7%	5.4%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%
家族が望まなかった	1.8%	0.0%	1.5%	0.5%	0.0%	0.4%
職場内に結婚や出産で退職する慣行があった	11.5%	4.3%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%
職場内での人間関係の問題など	7.0%	16.3%	8.6%	7.2%	15.5%	9.7%
希望どおりの仕事内容、労働条件ではなかった	10.6%	17.4%	11.8%	14.4%	20.2%	16.2%
家事や子育てに専念したかった	13.7%	2.2%	11.8%	0.5%	0.0%	0.4%
介護・看護に専念したかった	3.2%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	10.4%	17.4%	11.6%	14.4%	19.0%	15.8%
特に理由なし	1.6%	4.3%	2.1%	2.1%	6.0%	3.2%
不明	2.0%	1.1%	1.9%	3.6%	0.0%	2.5%

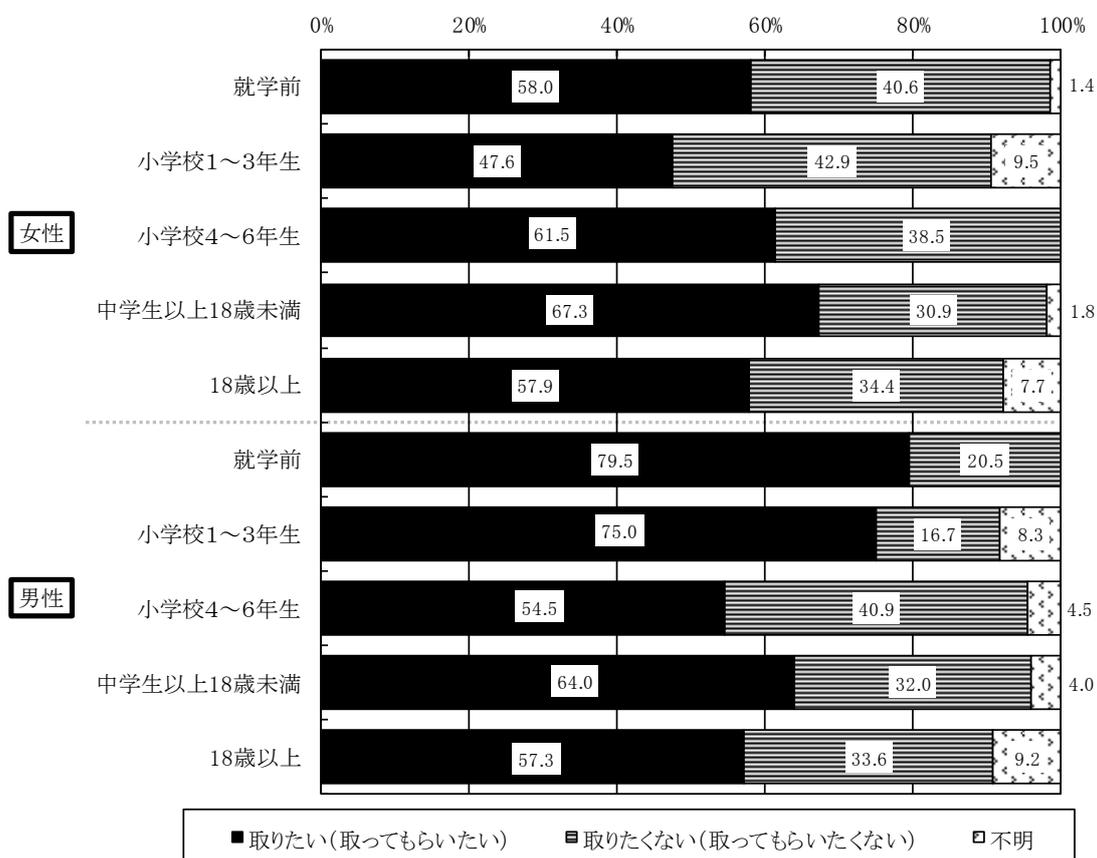
3-(8)男性の育児休業についての意向 [n=1,269]

問14 もし、子どもが生まれたら、あなたは（夫に）育児休業を取りたい（取ってもらいたい）ですか。（1つ）

- ◆全体では59.6%が「取りたい（取ってもらいたい）」としており、男女差はあまりみられない。
- ◆性・子どもの年代（一番下の子ども）別でみると、「男性・就学前」および「男性・小学校1～3年生」で7割を超えており、男性の若年層では育児休業を取得したいという意識が広まっている。



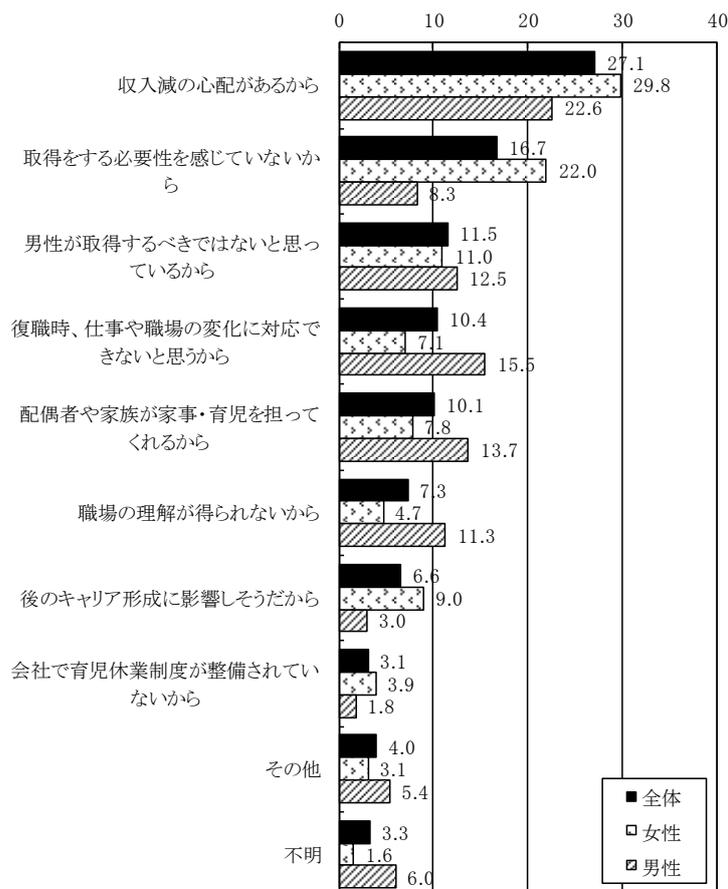
性・子どもの年代（一番下の子ども）別



3-(9)男性の育児休業に否定的な理由 [n=427]

問15 【問14で取りたくない（取ってもらいたくない）と回答された方】
取りたくない（取ってもらいたくない）と回答されたのはどのような理由
からですか。（1つ）

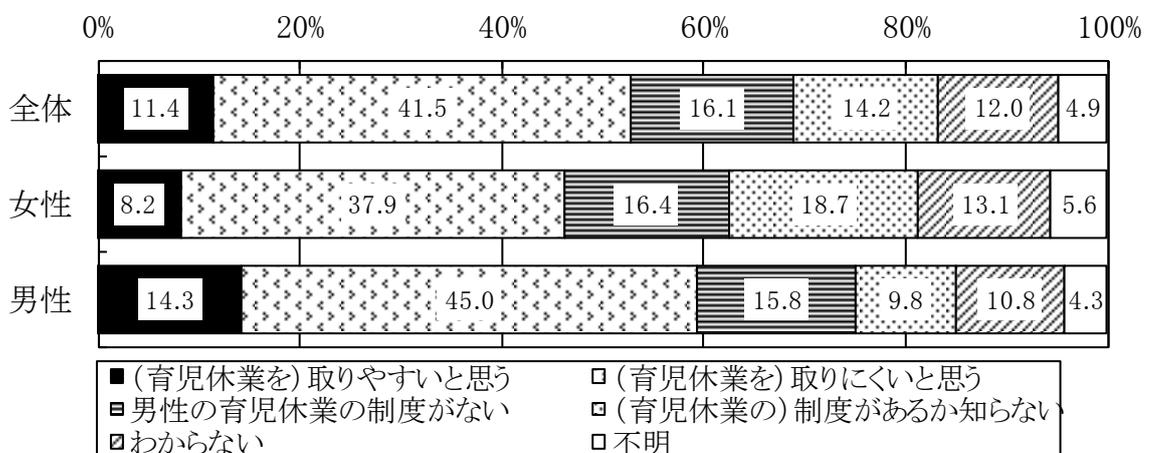
- ◆「取りたくない（取ってもらいたくない）」理由として、多く挙げられているのは「収入減の心配があるから」「取得をする必要性を感じていないから」「男性が取得するべきではないと思っているから」などとなっている。
- ◆性別にみると、男性の方が多く挙げているのは「復職時、仕事や職場の変化に対応できないと思うから」「職場の理解が得られないから」「配偶者や家族が家事・育児を担ってくれるから」などである一方、女性の方が多く挙げているのは「取得をする必要性を感じていないから」「収入減の心配があるから」「後のキャリア形成に影響しそうだから」などとなっている。



3-(10)職場における男性の育児休業のとりやすさ [n=795]

問16 【収入を得る仕事をしている方（問7で「有業」と回答された方）】あなたの職場では、男性は育児休業を取りやすいと思いますか。（1つ）

- ◆「取りやすいと思う」と感じているのは、全体の11.4%となっており、「取りにくいと思う」と感じているのは41.5%となっている。
- ◆性別でみると、「取りやすいと思う」と感じている割合、「取りにくいと思う」と感じている割合ともに男性の方が多くなっている。女性では「制度があるか知らない」の割合が高くなっている。

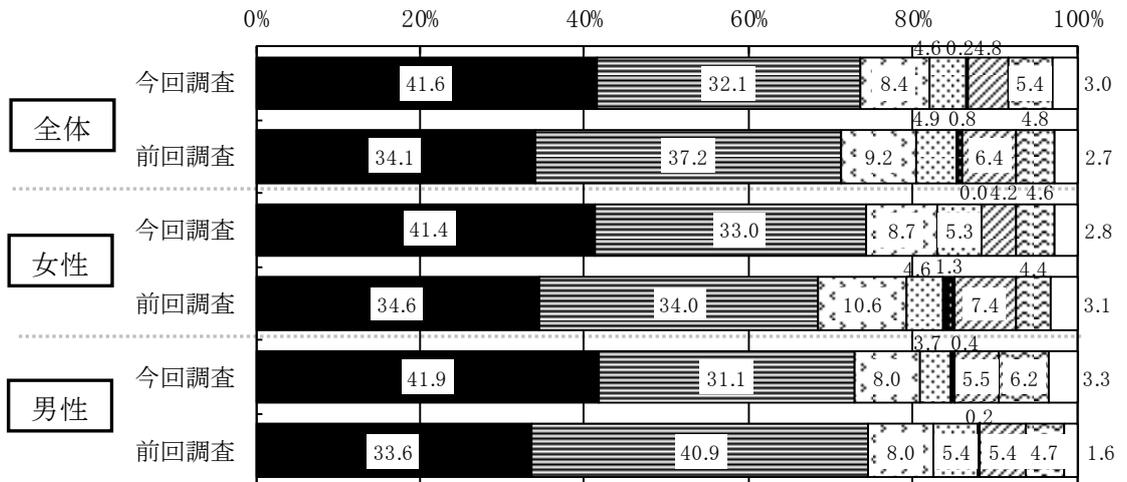


3-(11)女性が職業を持つことについての考え方

〔n=1,269〕**前回共通**

問17 女性が職業を持つことについてあなたはどのようにお考えですか。（1つ）

- ◆女性が仕事を持つことについての考え方は、前回調査では「子どもができれば辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」といった『中断再就職型』が最も多かったが、今回調査では「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」といった『職業継続型』が最も多くなっており、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」の割合は前回調査に比べて7.5ポイント増加している。
- ◆上記の傾向は、性別にみても同じであり、男女とも「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」が最も多くなっており、前回調査に比べ女性で6.8ポイント、男性で8.3ポイント上がっている。男性では「子どもができれば辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が前回調査に比べて9.8ポイント低下している。

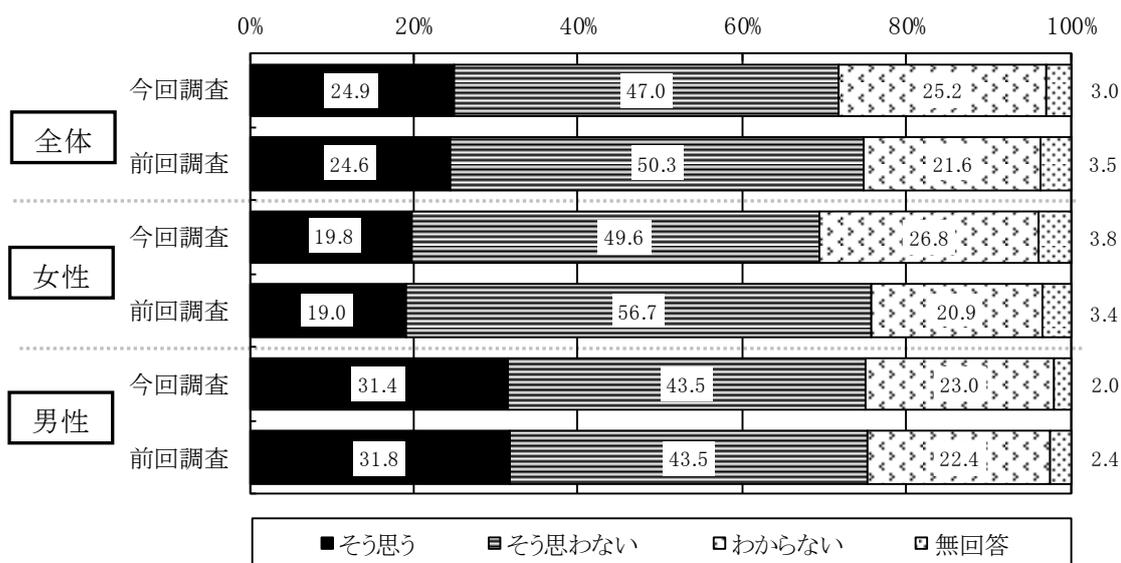


- 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい
- ▣ 子どもができれば辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 女性には職業を持たないほうがよい
- ▣ その他
- ▣ わからない
- 不明

3-(12)女性の働きやすさ [n=1,269] 前回共通

問18 あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。(1つ)

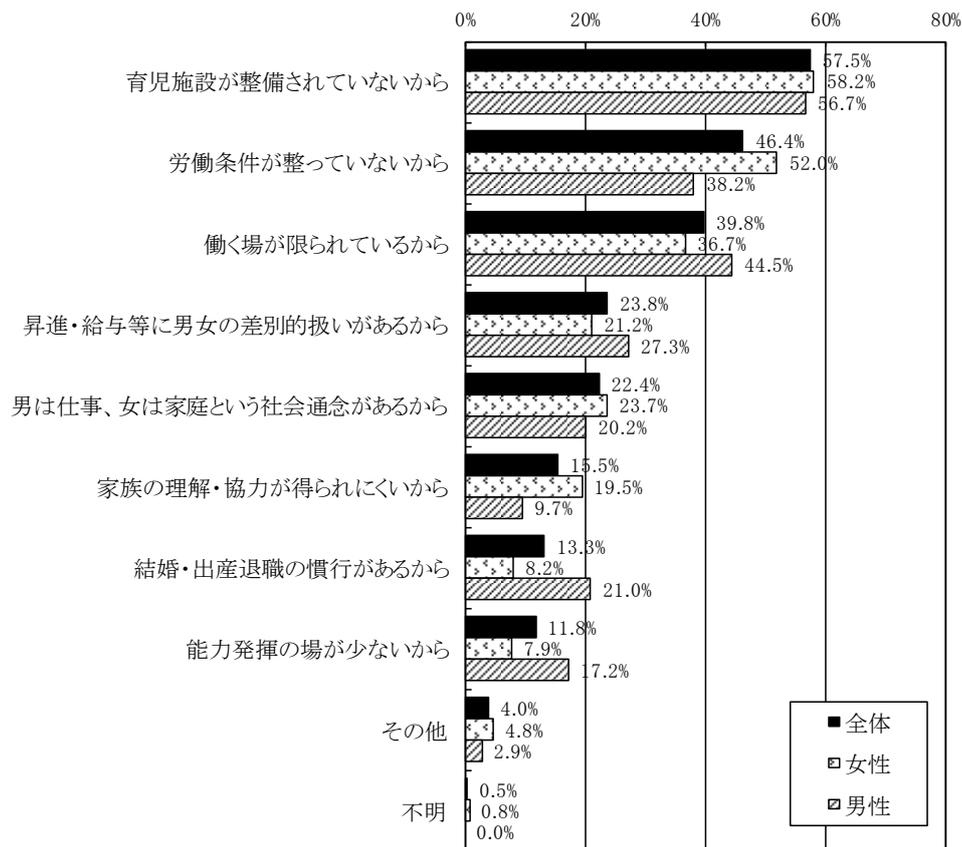
- ◆「女性は働きやすい状況にあると思う」の割合は24.9%となっており、「女性は働きやすい状況にあると思わない」の割合は47.0%となっている。
- ◆性別にみると、「女性は働きやすい状況にあると思う」は女性より男性の方が多く、11.6ポイントの開きとなっている。
- ◆前回調査の結果と比較すると、全体では「女性は働きやすい状況にあると思う」の割合は0.3ポイントの上昇となっている。性別では、「女性は働きやすい状況にあると思う」の割合は、女性では0.8ポイント上がったものの、男性では0.4ポイント下がっている。



3-(13)女性が働きやすいと思わない理由 〔n=595〕 前回共通

問19 【問18で「そう思わない」と回答された方】 そう思わない理由は何ですか。（3つまで）

- ◆女性が働きやすいと思わない理由は、「育児施設が整備されていないから」が最も多く、次いで、「労働条件が整っていないから」、「働く場が限られているから」と続いている。この順番は前回調査も同様であった。
- ◆性別にみると、女性の方が多く挙げられているのは、「労働条件が整っていないから」「家族の理解・協力が得られにくいから」などであり、一方、男性の方が多く挙げられているのは、「結婚・出産退職の慣行があるから」「能力発揮の場が少ないから」「働く場が限られているから」などとなっている。



3-(14)女性が職業をもち続けていくうえで障害と思うこと

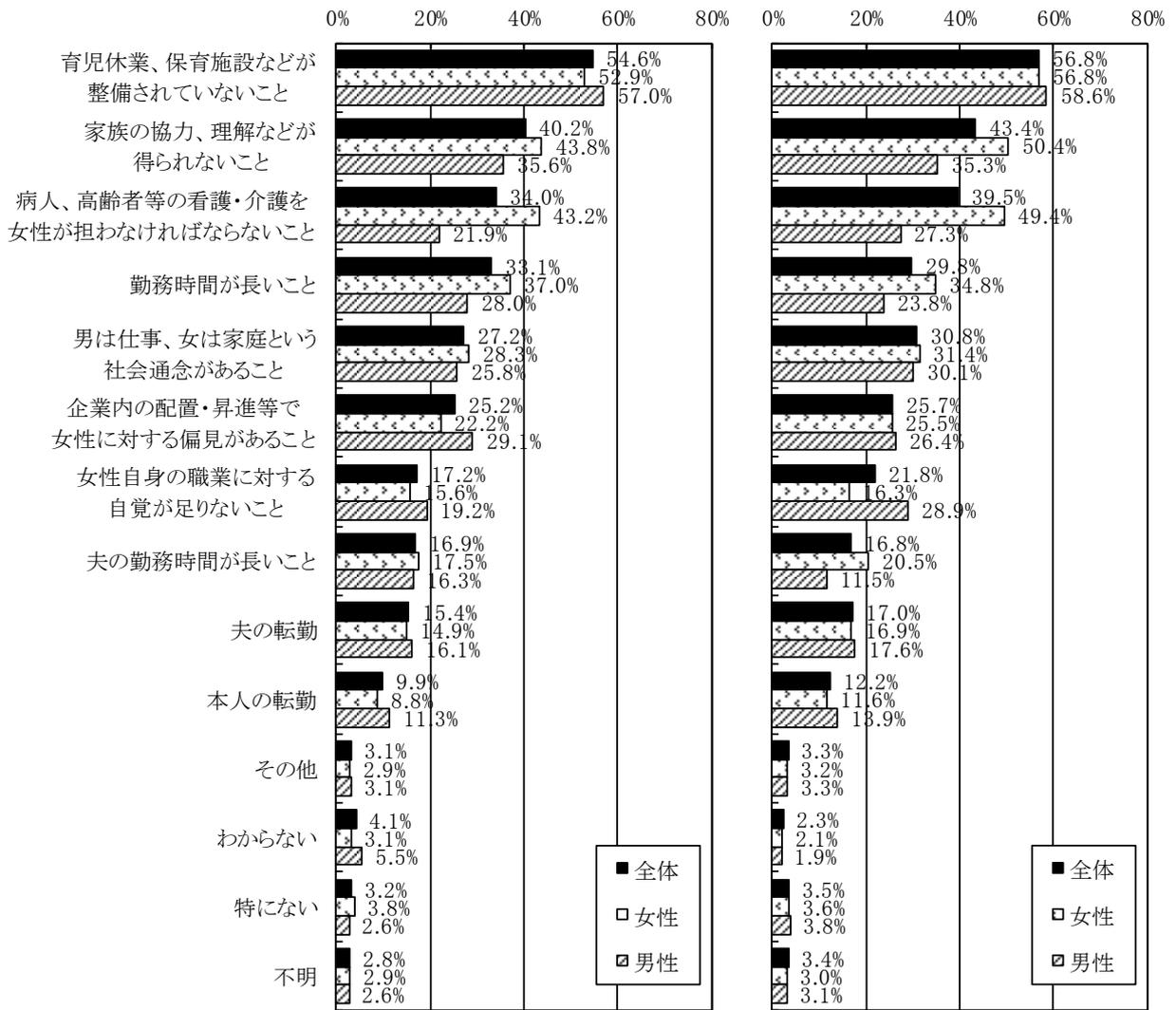
〔n=1,269〕 前回共通

問20 女性が職業を持ち続ける上で障害となるものは、あなたは何だと思えますか。（すべて）

- ◆女性が職業を持ち続けていくうえで障害と思うことは、「育児休業、保育施設などが整備されていないこと」が最も多く、次いで、「家族の協力、理解などが得られないこと」、「病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと」と続いている。この順番は前回調査も同様であった。
- ◆前回調査と比較すると、「勤務時間が長いこと」などは増えており、一方、「病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと」「女性自身の職業に対する自覚が足りないこと」「男は仕事、女は家庭という社会通念があること」などでは減っている。
- ◆性別にみると、女性の方が多く挙げられているのは、「家族の協力、理解などが得られないこと」「病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと」「勤務時間が長いこと」などであり、特に「病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと」は21.3ポイント差と、男性を大きく上回っている。一方、「企業内の配置・昇進等で女性に対する偏見があること」「女性自身の職業に対する自覚が足りないこと」などは男性に多くなっている。

【今回調査】

【前回調査】

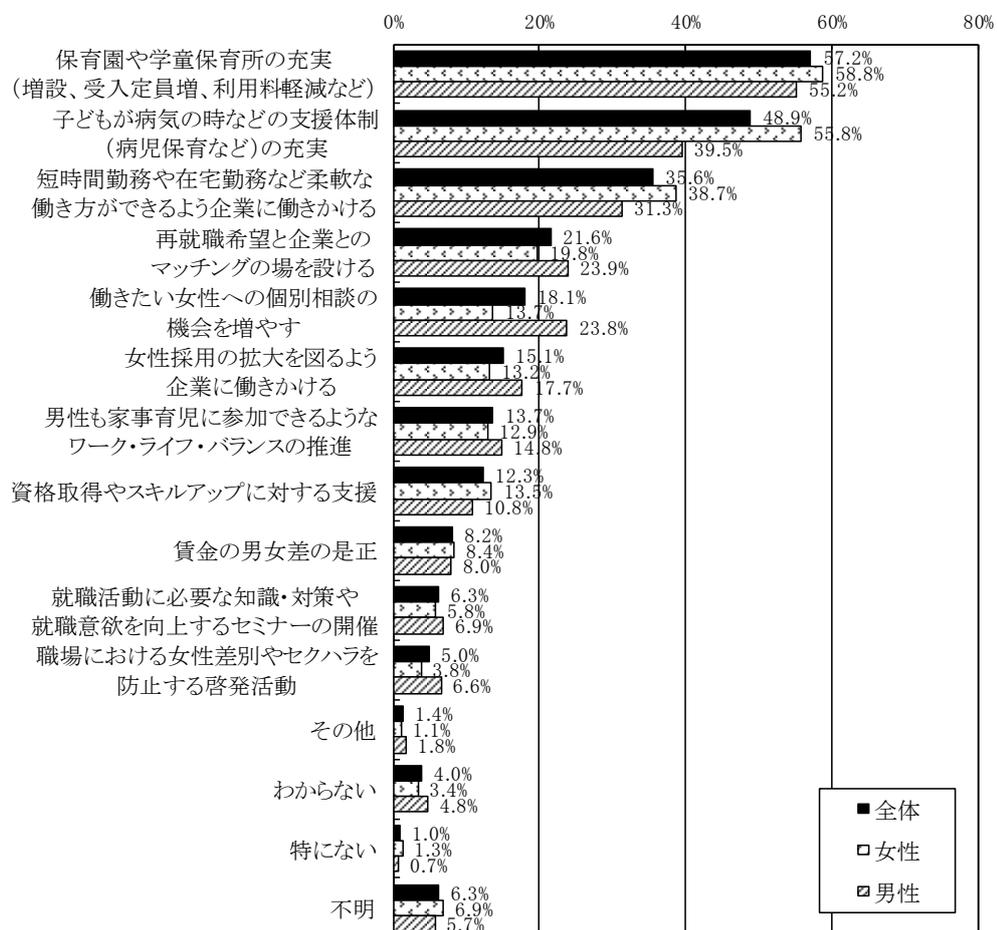


3-(15)子育て中の女性の再就職のために必要な施策・対策

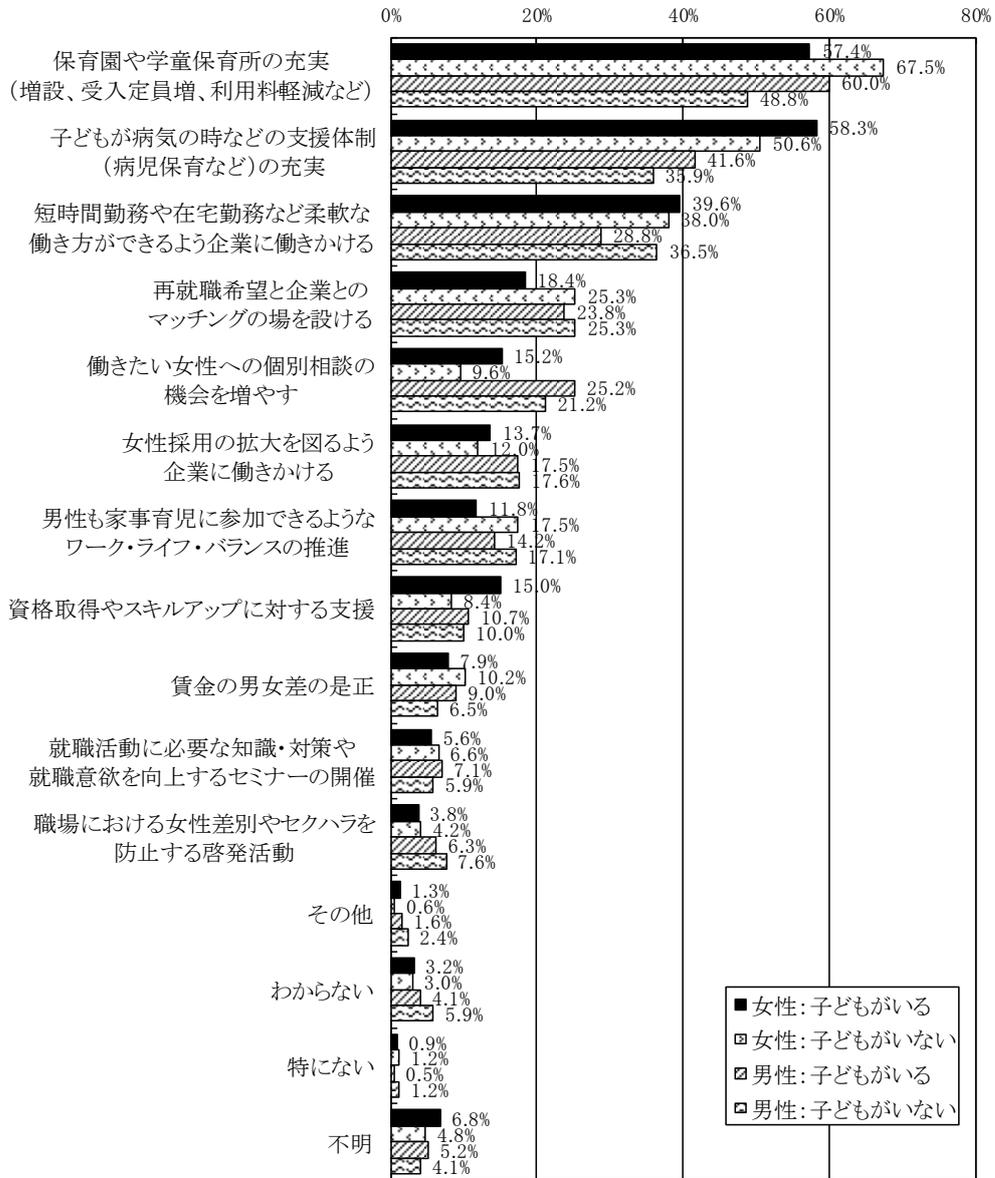
〔n=1,269〕 前回共通(一部変更)

問21 子育て中の女性が再就職するために、どのような施策や対策が必要だと思いますか。(3つまで)

- ◆子育て中の女性の再就職のために必要な施策・対策は、「保育園の増設や学童保育所の充実（増設、受入定員増、利用料軽減など）」が最も多く、次いで、「子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実」「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける」と続いている。
- ◆性別にみると、女性の方が多く挙げているのは「子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実」「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける」などとなっており、特に「子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実」は男性を16.3ポイント上回っている。
- ◆性・子どもの有無別において、子どもがいる女性、子どものいない女性で差をみると、子どものいる女性の方が多く挙げているのは、「子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実」「資格取得やスキルアップに対する支援」「働きたい女性への個別相談の機会を増やす」などとなっている。



性・子どもの有無別



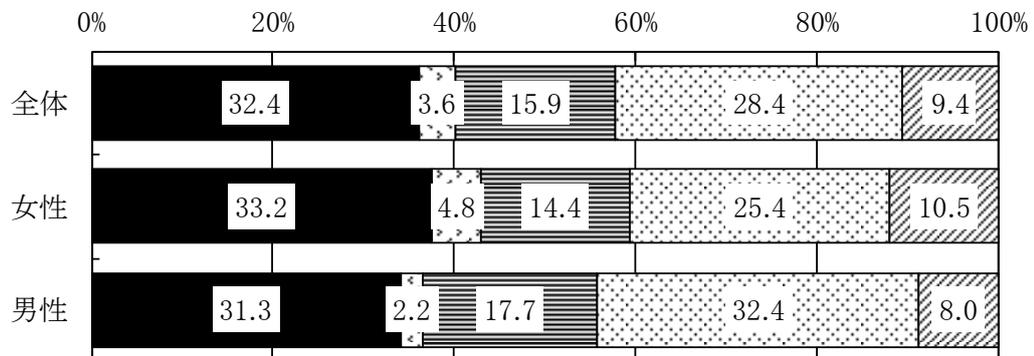
4 ワーク・ライフ・バランスについて

4-(1)ワーク・ライフ・バランスが実現できているか

〔n=1,269〕

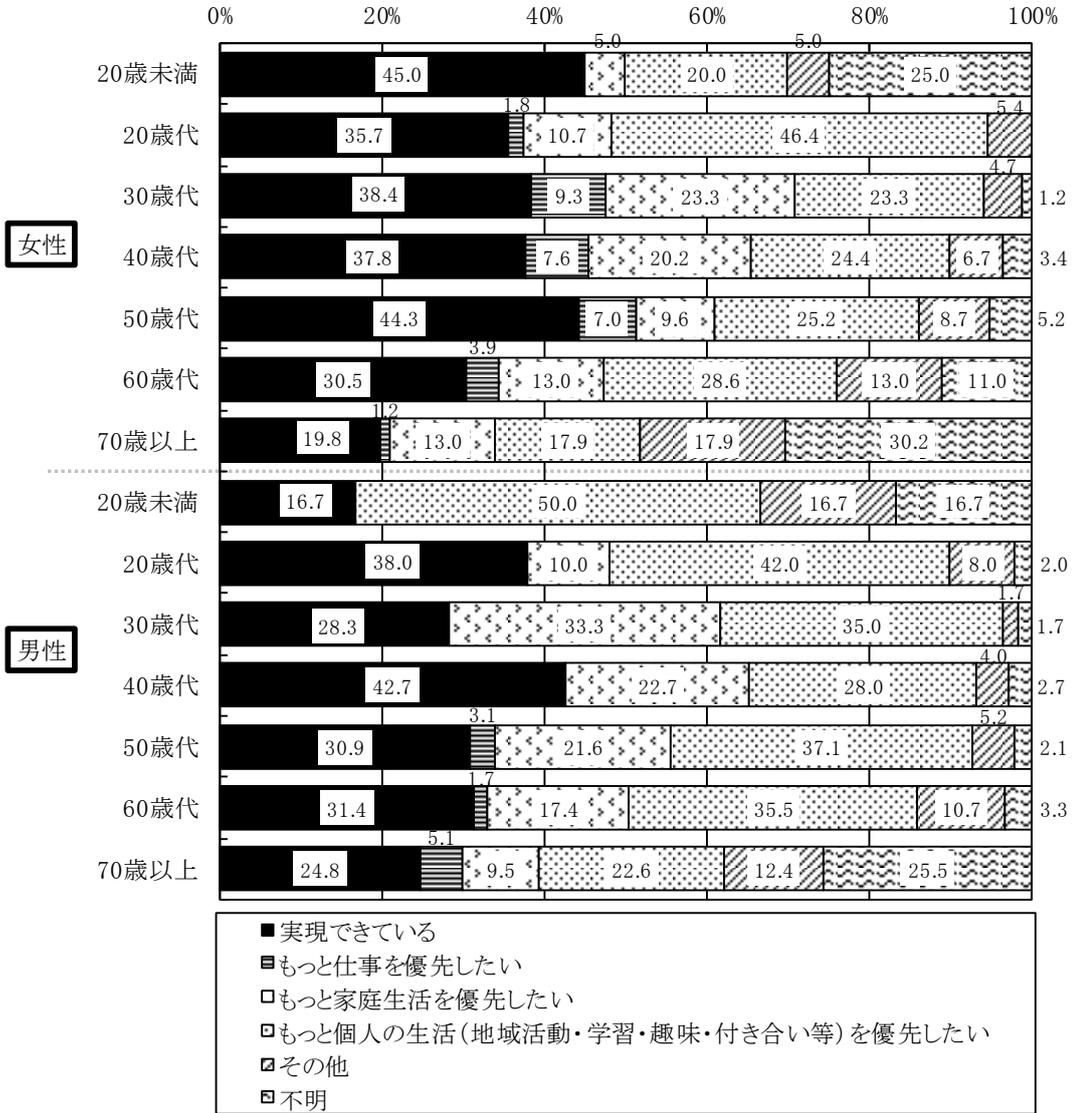
問22 ワーク・ライフ・バランスに関して、現在あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。（1つ）

- ◆仕事と生活のバランスについて「実現できている」の割合は32.4%で、男女間で若干の差はあるもののほぼ同じであった。男性では「もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」の割合が高くなっている。
- ◆性・年齢別でみると、男女ともに「実現できている」の割合は、若い年代で高く、高齢の年代で低くなる傾向がみられる。ただし、女性の「20歳代」、男性の「20歳未満」および「30歳代」はこの傾向から外れ、「実現できている」の割合が低くなっている。



- 実現できている
- もっと仕事を優先したい
- ▨ もっと家庭生活を優先したい
- ▨ もっと個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)を優先したい
- ▨ その他

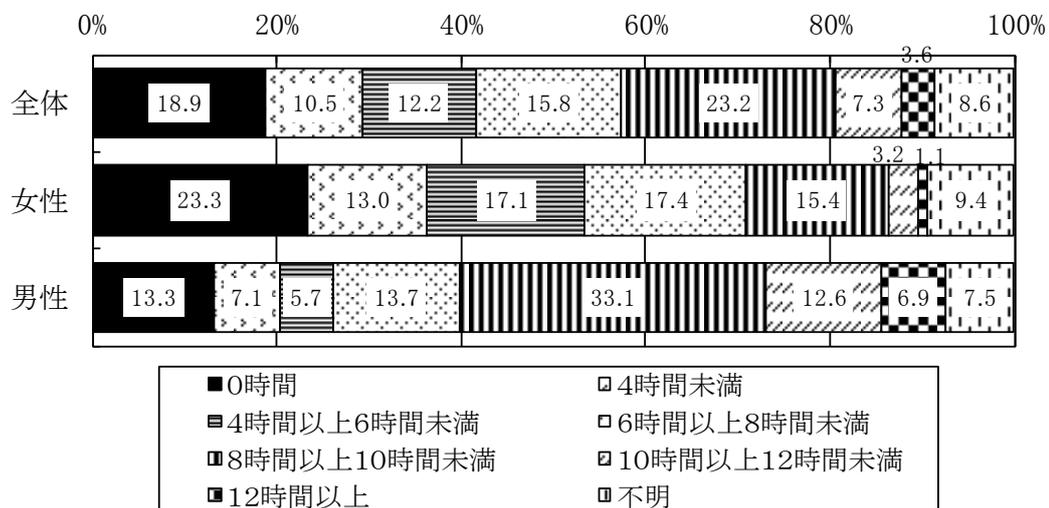
性・年齢別



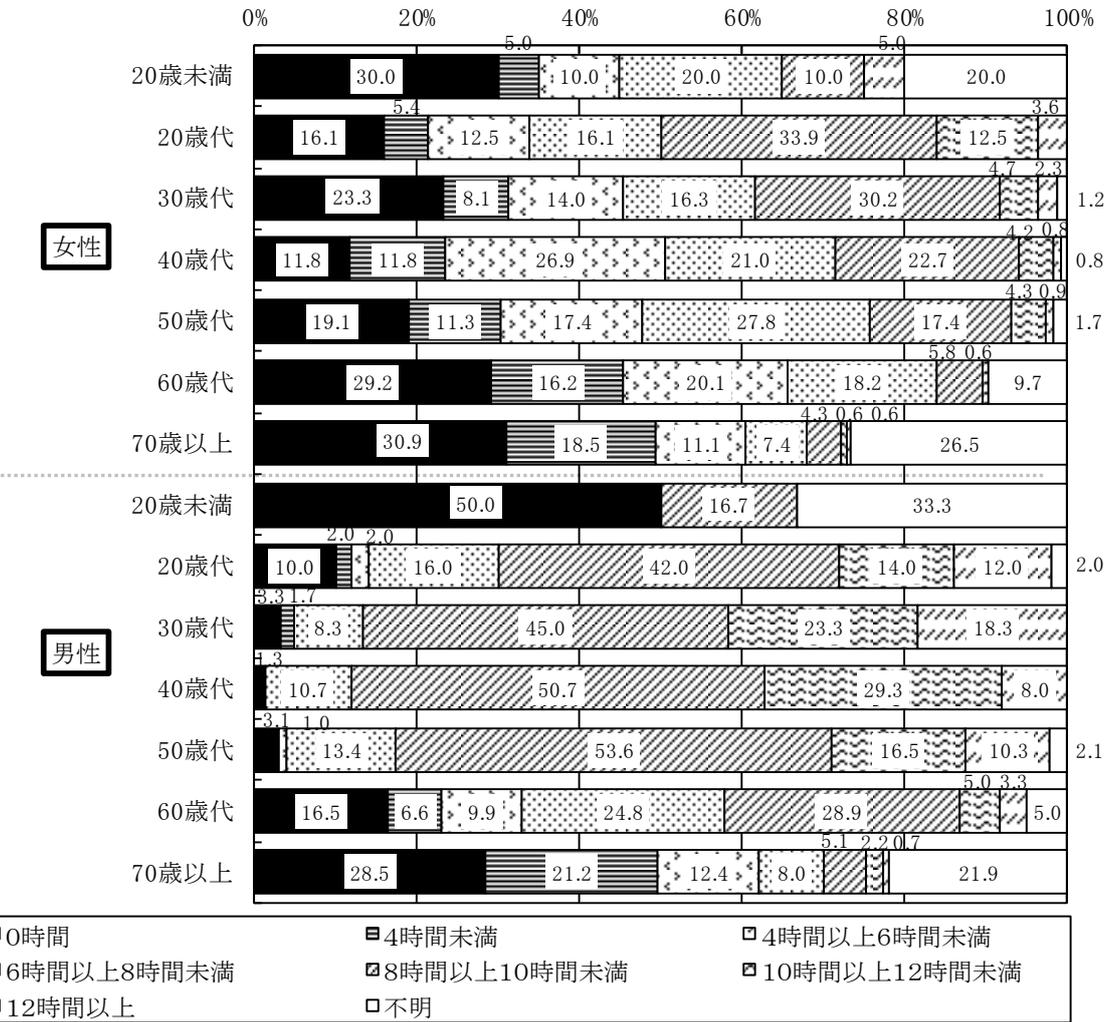
4-(2)平日に仕事に費やす時間 [n=1,269]

問23 あなたは、平日に仕事に費やす時間は平均でどれくらいですか。(1つ)

- ◆全体では「8～10時間」が23.2%と最も多くなっている。
- ◆男性では「8～10時間」が33.1%と全体よりも割合が高くなっている。女性では、「0時間」が23.3%で最も多く、「4時間未満」13.0%、「4～6時間」17.1%、「6～8時間」17.4%、「8～10時間」15.4%と、分散している。
- ◆性・年齢別でみると、女性で最も多かった「0時間」は「20歳代」および「40歳代」では低くなっている。男性では定年退職前と定年退職後で傾向が分かれる。



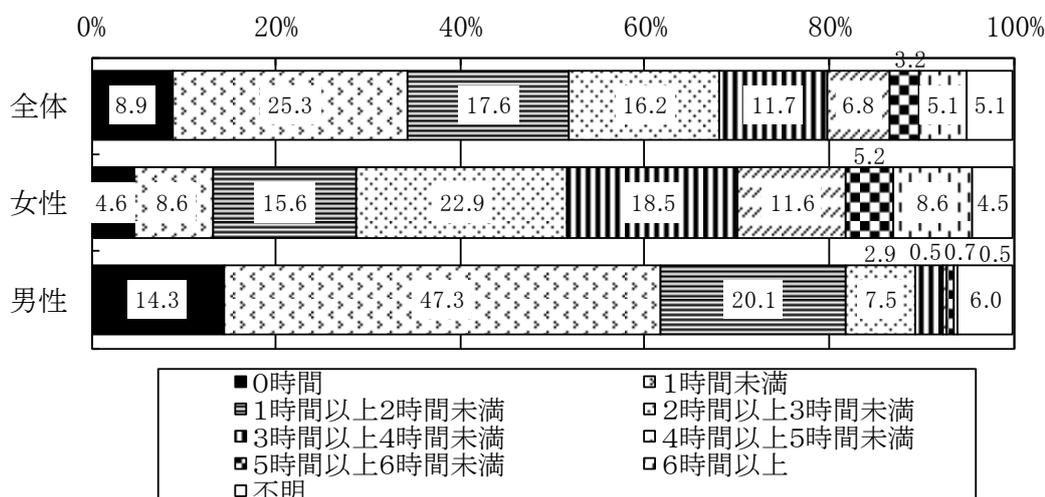
性・年齢別



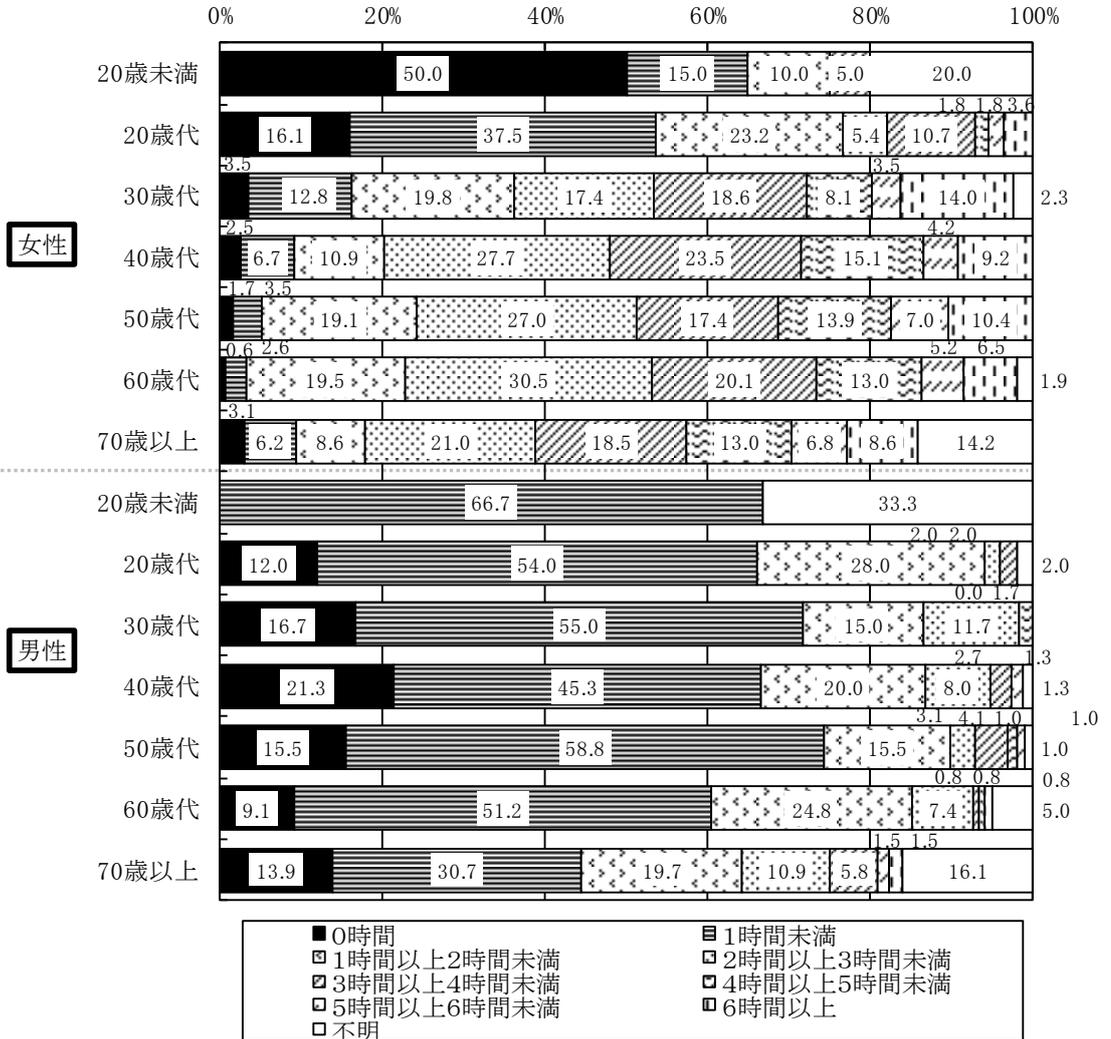
4-(3) 平日に家事に費やす時間 [n=1,269]

問24 あなたは、平日に家事に費やす時間は平均でどれくらいですか。(1つ)

- ◆ 全体では「1時間未満」が25.3%で最も多くなっている。
- ◆ 男性では「0時間」14.3%、「1時間未満」47.3%、「1～2時間」20.1%と、『2時間未満』で8割を超える。一方、女性では、「2～3時間」が22.9%で最も多く、次いで「3～4時間」となっており、『2時間未満』は28.8%と男性より50%以上低くなっている。
- ◆ 性・年齢別でみると、女性の40歳以上はいずれの年代も「2～3時間」が最も多く、女性の「30歳代」は「1～2時間」、女性の「20歳代」は「1時間未満」が最も多くなっている。



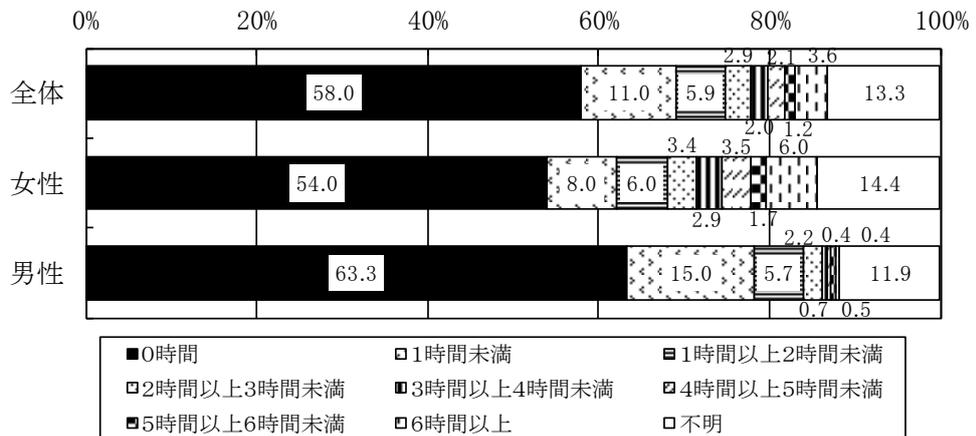
性・年齢別



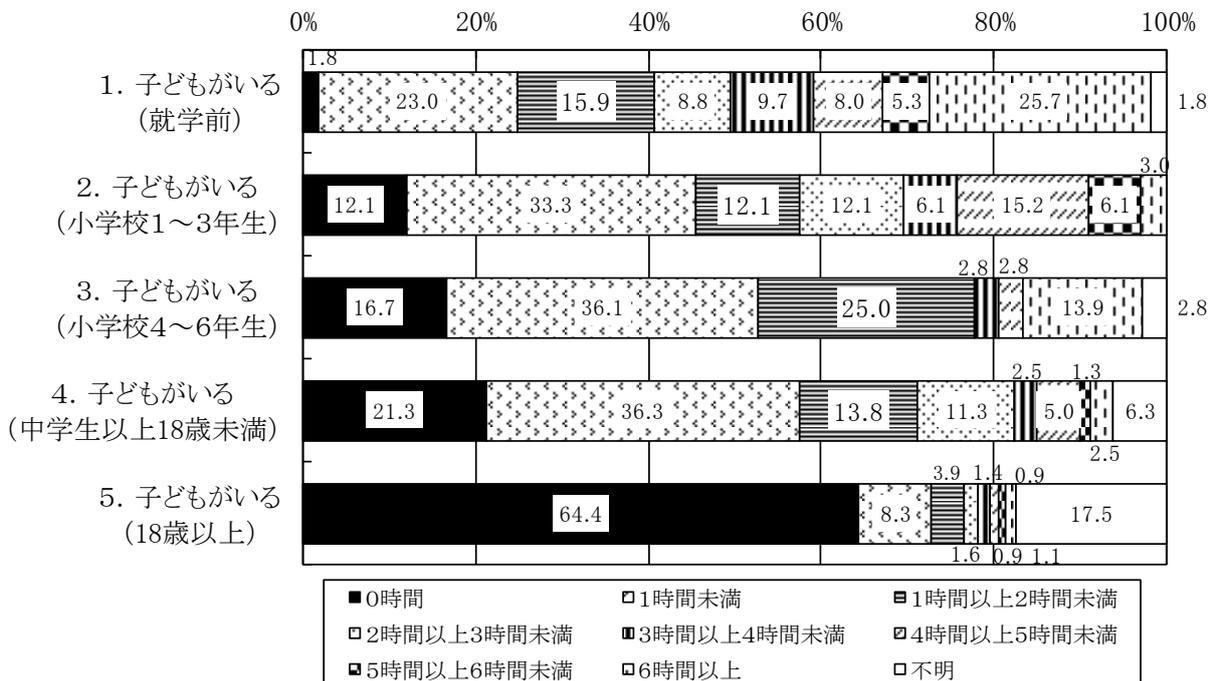
4-(4)平日に育児（家事を除く）に費やす時間 [n=1,269]

問25 あなたは、平日に育児（家事を除く）に費やす時間は平均でどれぐらいですか。（1つ）

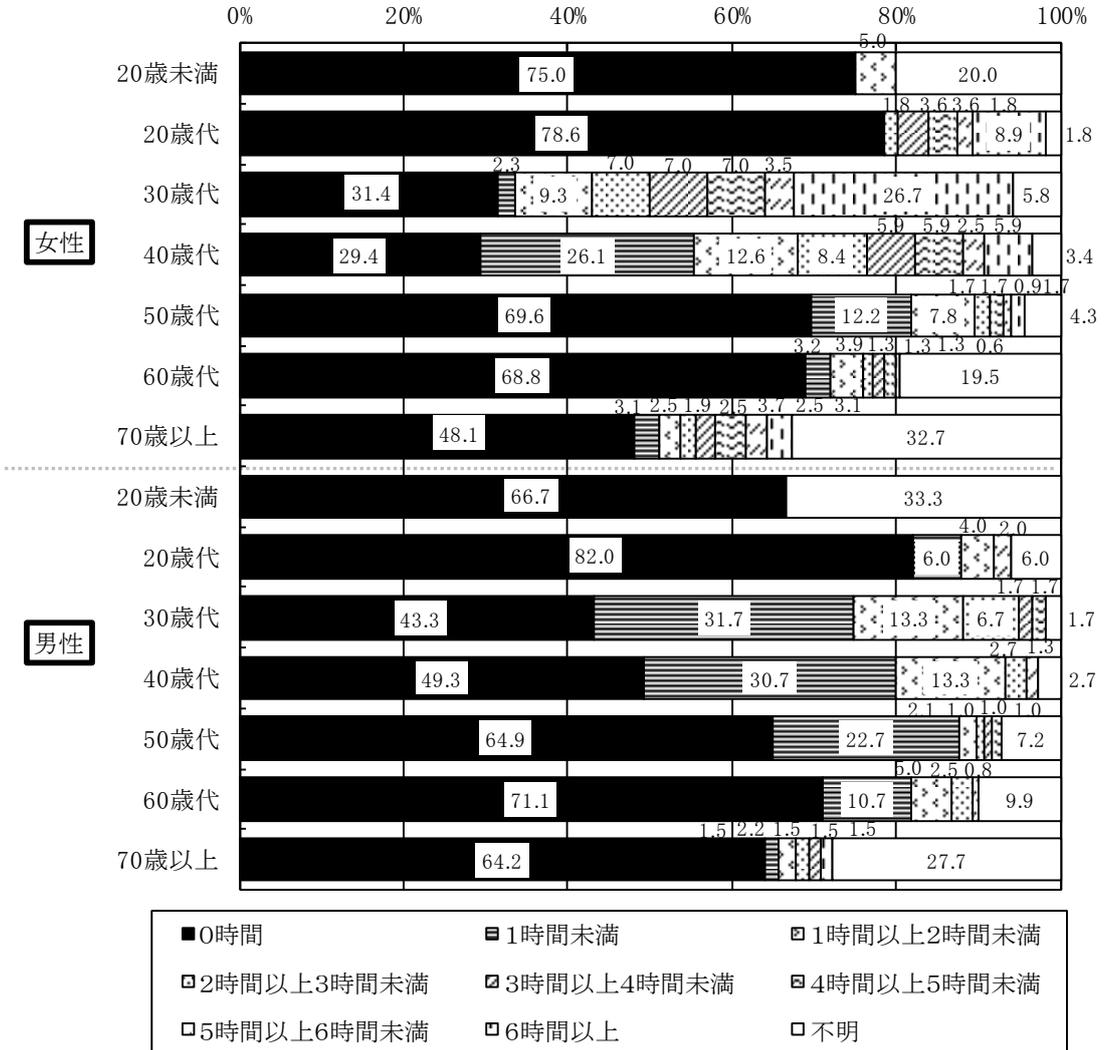
- ◆全体では「0時間未満」が58.0%で最も多くなっている。
- ◆子どもの年代（一番下の子ども）別でみると、『2時間以上』育児に時間を費やしている割合は、「就学前」では57.5%、「小学校1～3年生」では42.5%と高くなっているが、「小学校4～6年生」では19.5%、「中学生以上18歳未満」では22.6%、「18歳以上」では5.9%と低くなっている。
- ◆性・年齢別でみると、女性の「30歳代」では「6時間以上」26.7%と非常に高くなっており、同じ「30歳代」の男性は『1時間未満』が75.0%であり、男女での育児に費やす時間に大きな差が生じている。



子どもの年代（一番下の子ども）別



性・年齢別

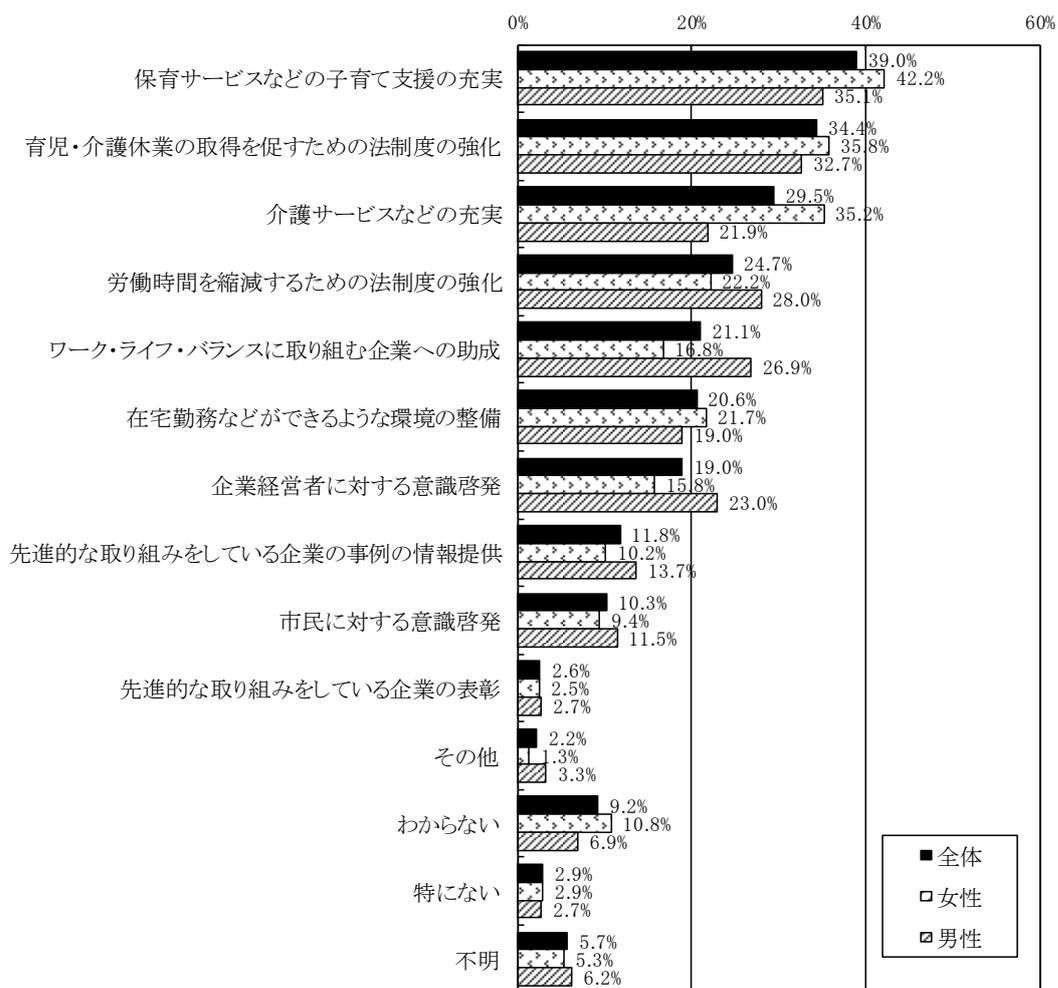


4-(5)ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なこと

〔n=1,269〕 前回共通

問26 あなたは、男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が重要だと思いますか。（3つまで）

- ◆ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なことをたずねたところ、「保育サービスなどの子育て支援の充実」が最も多く、次いで、「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」が続いている。この順番は前回調査も同様であった。
- ◆性別にみると、男女とも「保育サービスなどの子育て支援の充実」が最も多くなっている。女性の方が多く挙げているのは、「介護サービスなどの充実」が13.3ポイント差、「保育サービスなどの子育て支援の充実」が7.1ポイント差などとなっている。一方、男性の方が多く挙げているのは、「ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成」が10.1ポイント差、「企業経営者に対する意識啓発」が7.2ポイント差となっている。
- ◆性・年齢別にみると、女性の大半の年代では「保育サービスなどの子育て支援の充実」を最も多く挙げており、「20歳未満」では「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」、「70歳以上」では「介護サービスなどの充実」が最も多くなっている。男性でも「保育サービスなどの子育て支援の充実」を最も多く挙げる世代が多いが、「20歳代未満」「30歳代」では「労働時間を縮減するための法制度の強化」、「40歳代」では「ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成」、「70歳以上」では「介護サービスなどの充実」が多くなっている。



性・年齢別

女 性	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	女性全体
保育サービスなどの子育て支援の充実	35.0%	58.9%	66.3%	41.2%	47.0%	45.5%	19.1%	42.3%
育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化	50.0%	53.6%	44.2%	31.9%	37.4%	41.6%	19.1%	35.7%
介護サービスなどの充実	0.0%	16.1%	19.8%	34.5%	47.0%	42.2%	39.5%	35.1%
労働時間を縮減するための法制度の強化	20.0%	35.7%	38.4%	35.3%	13.9%	14.9%	12.3%	22.2%
ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成	30.0%	25.0%	18.6%	19.3%	18.3%	14.9%	10.5%	16.9%
在宅勤務などができるような環境の整備	10.0%	25.0%	26.7%	31.1%	21.7%	20.1%	14.2%	21.8%
企業経営者に対する意識啓発	0.0%	17.9%	14.0%	26.1%	16.5%	16.2%	9.9%	15.9%
先進的な取り組みをしている企業の事例の情報提供	5.0%	1.8%	14.0%	11.8%	8.7%	9.1%	13.0%	10.3%
市民に対する意識啓発	0.0%	3.6%	7.0%	10.1%	7.0%	11.7%	12.3%	9.3%
先進的な取り組みをしている企業の表彰	5.0%	3.6%	2.3%	0.8%	2.6%	1.9%	3.7%	2.5%
その他	0.0%	0.0%	1.2%	1.7%	0.9%	1.9%	1.2%	1.3%
わからない	25.0%	7.1%	7.0%	6.7%	12.2%	9.1%	16.0%	10.8%
特にない	0.0%	1.8%	0.0%	2.5%	2.6%	3.2%	5.6%	2.9%
不明	20.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	3.9%	16.7%	5.3%

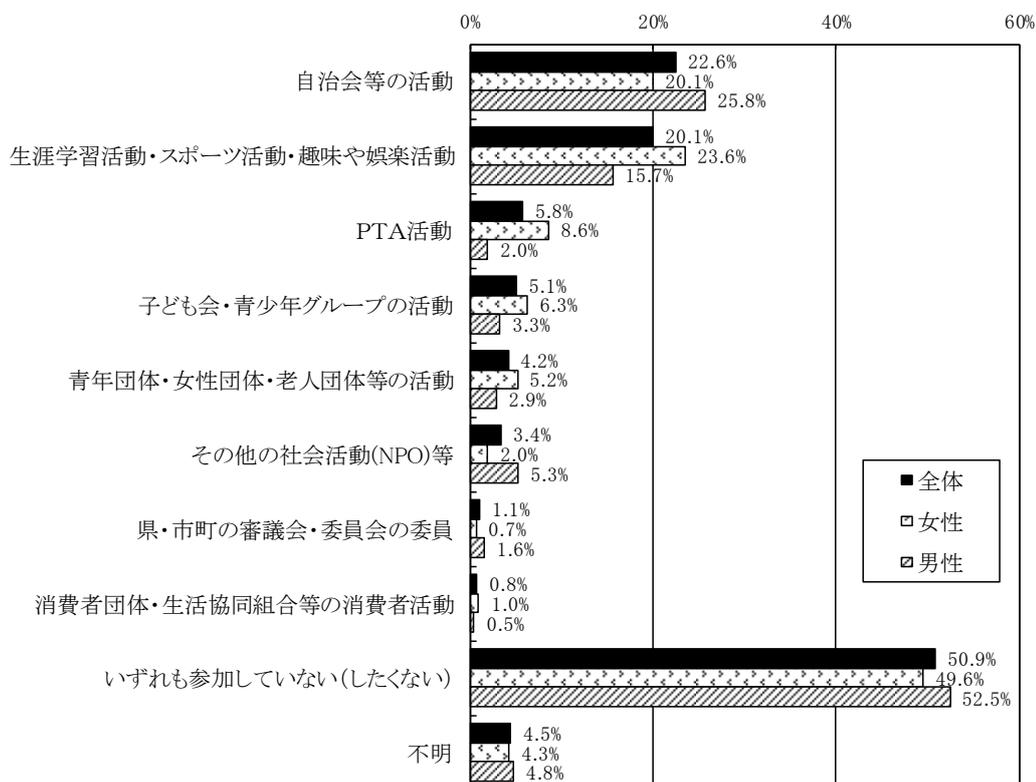
男 性	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	男性全体
保育サービスなどの子育て支援の充実	16.7%	16.0%	41.7%	36.0%	37.1%	47.1%	27.7%	35.2%
育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化	0.0%	40.0%	30.0%	26.7%	27.8%	48.8%	25.5%	32.8%
介護サービスなどの充実	0.0%	12.0%	3.3%	16.0%	27.8%	26.4%	29.9%	22.0%
労働時間を縮減するための法制度の強化	33.3%	48.0%	41.7%	30.7%	29.9%	24.0%	14.6%	27.8%
ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成	0.0%	40.0%	30.0%	36.0%	35.1%	22.3%	14.6%	26.7%
在宅勤務などができるような環境の整備	0.0%	18.0%	23.3%	17.3%	20.6%	19.8%	17.5%	19.0%
企業経営者に対する意識啓発	0.0%	18.0%	36.7%	21.3%	20.6%	30.6%	16.1%	23.1%
先進的な取り組みをしている企業の事例の情報提供	16.7%	12.0%	23.3%	17.3%	11.3%	9.1%	13.9%	13.7%
市民に対する意識啓発	0.0%	18.0%	10.0%	8.0%	9.3%	9.9%	15.3%	11.5%
先進的な取り組みをしている企業の表彰	16.7%	6.0%	1.7%	2.7%	3.1%	2.5%	1.5%	2.7%
その他	0.0%	6.0%	6.7%	4.0%	4.1%	0.8%	2.2%	3.3%
わからない	16.7%	6.0%	6.7%	5.3%	6.2%	1.7%	13.1%	7.0%
特にない	0.0%	2.0%	1.7%	2.7%	1.0%	3.3%	4.4%	2.7%
不明	50.0%	2.0%	0.0%	2.7%	3.1%	6.6%	12.4%	6.2%

5 社会活動等について

5-(1)地域活動などへの参加状況 [n=1,269] 前回共通

問27 あなたは次のような活動をしていますか。（すべて）

- ◆地域活動などへの参加状況は、「自治会等の活動」が最も多く、「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」が続いている。この順番は前回調査も同様であった。なお、「いずれも参加していない（したくない）」方は全体の5割を超えており、前回調査の41.6%から9.3ポイント増加している。
- ◆性別にみると、男性では「自治会等の活動」が最も多く、女性では「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」が最も多くなっている。
- ◆性・年齢別にみると、「自治会等の活動」は男性の30歳代以上で最も多くなっている。若年層では「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」が多くなっている。
- ◆「いずれも参加していない（したくない）」の割合が半数を超えているのは、女性では「20歳未満」「20歳代」「30歳代」「50歳代」となっている。男性では50歳代未満ではいずれの年代も半数を超えている。



性・年齢別

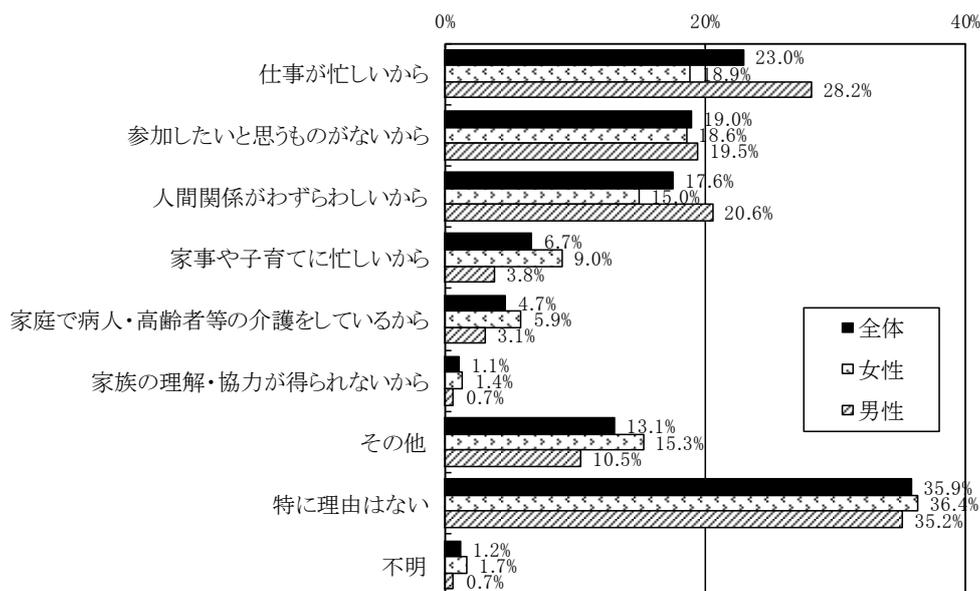
女 性	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	女性全体
自治会等の活動	5.0%	1.8%	15.1%	35.3%	24.3%	19.5%	17.3%	20.1%
生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動	25.0%	16.1%	17.4%	16.8%	21.7%	31.8%	27.2%	23.5%
P T A活動	0.0%	0.0%	22.1%	28.6%	3.5%	1.9%	0.6%	8.6%
子ども会・青少年グループの活動	0.0%	1.8%	16.3%	16.0%	5.2%	2.6%	0.6%	6.3%
青年団体・女性団体・老人団体等の活動	5.0%	3.6%	1.2%	1.7%	3.5%	5.2%	11.1%	5.1%
その他の社会活動(NPO)等	0.0%	1.8%	1.2%	0.8%	4.3%	2.6%	1.2%	2.0%
県・市町の審議会・委員会の委員	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	1.3%	0.6%	0.7%
消費者団体・生活協同組合等の消費者活動	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	2.6%	1.9%	0.0%	1.0%
いずれも参加していない(したくない)	55.0%	78.6%	52.3%	40.3%	53.0%	48.7%	43.2%	49.7%
不明	10.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	3.2%	14.2%	4.4%

男 性	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	男性全体
自治会等の活動	0.0%	4.0%	21.7%	26.7%	26.8%	35.5%	27.0%	25.8%
生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動	33.3%	22.0%	10.0%	8.0%	14.4%	19.8%	16.8%	15.8%
P T A活動	0.0%	0.0%	5.0%	2.7%	2.1%	2.5%	0.7%	2.0%
子ども会・青少年グループの活動	0.0%	0.0%	6.7%	8.0%	4.1%	2.5%	0.7%	3.3%
青年団体・女性団体・老人団体等の活動	0.0%	4.0%	3.3%	1.3%	1.0%	3.3%	4.4%	2.9%
その他の社会活動(NPO)等	0.0%	6.0%	3.3%	1.3%	7.2%	8.3%	4.4%	5.3%
県・市町の審議会・委員会の委員	0.0%	0.0%	1.7%	2.7%	0.0%	4.1%	0.7%	1.6%
消費者団体・生活協同組合等の消費者活動	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	1.0%	0.8%	0.0%	0.5%
いずれも参加していない(したくない)	50.0%	66.0%	65.0%	61.3%	55.7%	42.1%	43.8%	52.4%
不明	16.7%	0.0%	0.0%	1.3%	2.1%	4.1%	12.4%	4.8%

5-(2)地域活動等に参加していない理由 〔n=645〕 前回共通

問28 【問27で「いずれも参加していない（したくない）」と回答された方】
その理由は何ですか。（すべて）

- ◆地域活動等に参加していない理由は、「仕事が忙しいから」が最も多く、次いで、「参加したいと思うものがないから」、「人間関係がわずらわしいから」と続いている。この順番は前回調査も同様であった。
- ◆性別にみると、「仕事が忙しいから」「人間関係がわずらわしいから」が男性では多く、「仕事が忙しいから」「参加したいと思うものがないから」が女性では多くなっている。
- ◆性・年齢別にみると、男性ではいずれの年代でも「仕事が忙しいから」が多くなっている。女性では、「30歳代」は「家事や子育てに忙しいから」、「40歳代」、「50歳代」「60歳代」は「参加したいと思うものがないから」が多くなっている。



性・年齢別

女 性	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	女性全体
仕事が忙しいから	0.0%	40.9%	24.4%	16.7%	19.7%	17.3%	7.1%	18.9%
参加したいと思うものがないから	0.0%	25.0%	22.2%	25.0%	24.6%	20.0%	4.3%	18.6%
人間関係がわずらわしいから	0.0%	13.6%	20.0%	10.4%	13.1%	16.0%	18.6%	15.0%
家事や子育てに忙しいから	0.0%	11.4%	33.3%	16.7%	3.3%	1.3%	1.4%	9.0%
家庭で病人・高齢者等の介護をしているから	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	6.6%	13.3%	8.6%	5.9%
家族の理解・協力が得られないから	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	1.6%	2.7%	1.4%	1.4%
その他	9.1%	11.4%	8.9%	14.6%	13.1%	14.7%	25.7%	15.3%
特に理由はない	90.9%	31.8%	28.9%	33.3%	39.3%	36.0%	35.7%	36.4%
不明	0.0%	2.3%	2.2%	0.0%	3.3%	1.3%	1.4%	1.7%

男 性	20 歳未満	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	男性全体
仕事が忙しいから	33.3%	42.4%	46.2%	43.5%	29.6%	15.7%	6.7%	28.3%
参加したいと思うものがないから	0.0%	18.2%	20.5%	23.9%	18.5%	25.5%	11.7%	19.2%
人間関係がわずらわしいから	0.0%	18.2%	17.9%	19.6%	20.4%	35.3%	13.3%	20.6%
家事や子育てに忙しいから	0.0%	3.0%	10.3%	8.7%	1.9%	0.0%	1.7%	3.8%
家庭で病人・高齢者等の介護をしているから	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	1.9%	3.9%	8.3%	3.1%
家族の理解・協力が得られないから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	2.0%	0.0%	0.7%
その他	0.0%	6.1%	2.6%	8.7%	16.7%	7.8%	16.7%	10.5%
特に理由はない	66.7%	36.4%	23.1%	26.1%	27.8%	41.2%	50.0%	35.3%
不明	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.7%

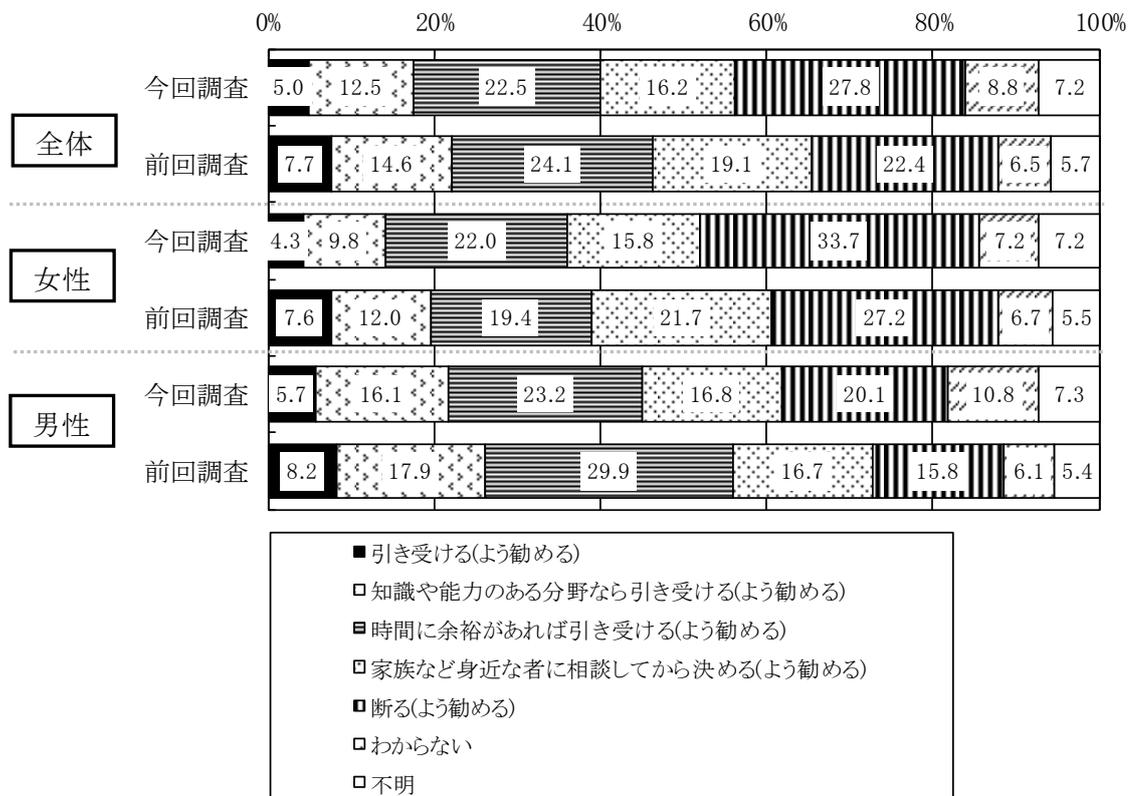
5-(3)女性が役職につくことについての考え方 〔n=1,269〕

前回共通

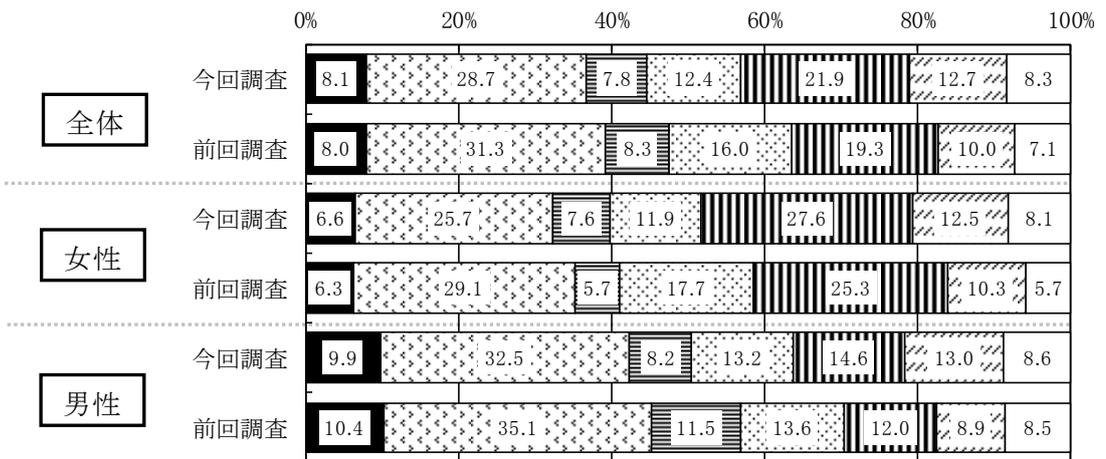
問29 女性の場合はあなたが、男性の場合は妻・母親など身近な女性が、もし次のような役職に就くことを依頼された場合、どうしますか。(1つ)

- ◆女性が役職に就くことを依頼された場合、「引き受ける(よう勧める)」と答えた方は、いずれの場合も1割未満にとどまっている。前回調査に比べ、「②職場の管理職や役員」「④市議会議員」については若干増加し、「①PTA、町内会などの代表」「③県や市町の審議会等の委員」については減少している。なお、条件付ではあるが引き受けると答えた方でみると、いずれの項目も前回を下回っている。
- ◆性別にみると、条件付であるが引き受けると答えた方は、いずれの場合も男性の方が女性よりも多くなっている。前回調査と比較すると、男女の差は「②職場の管理職や役員」では若干広がり、他の項目では差は縮まっている。

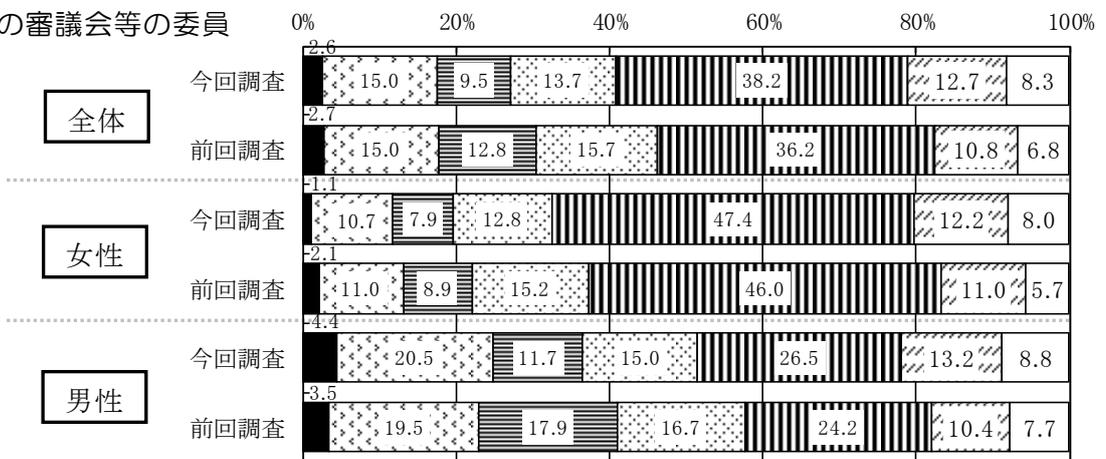
①PTA、町内会などの代表



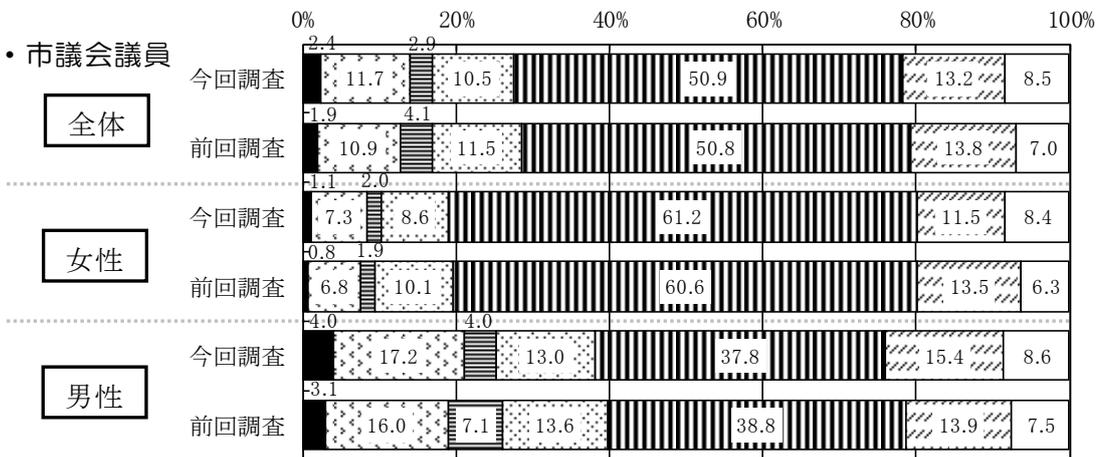
②職場の管理職や役員



③県や市町の審議会等の委員



④国会・県・市議会議員



- 引き受ける(よう勧める)
- ▣ 知識や能力のある分野なら引き受ける(よう勧める)
- ▤ 時間に余裕があれば引き受ける(よう勧める)
- ▥ 家族など身近な者に相談してから決める(よう勧める)
- ▧ 断る(よう勧める)
- ▨ わからない
- 不明

6 ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人などからの暴力）などについて

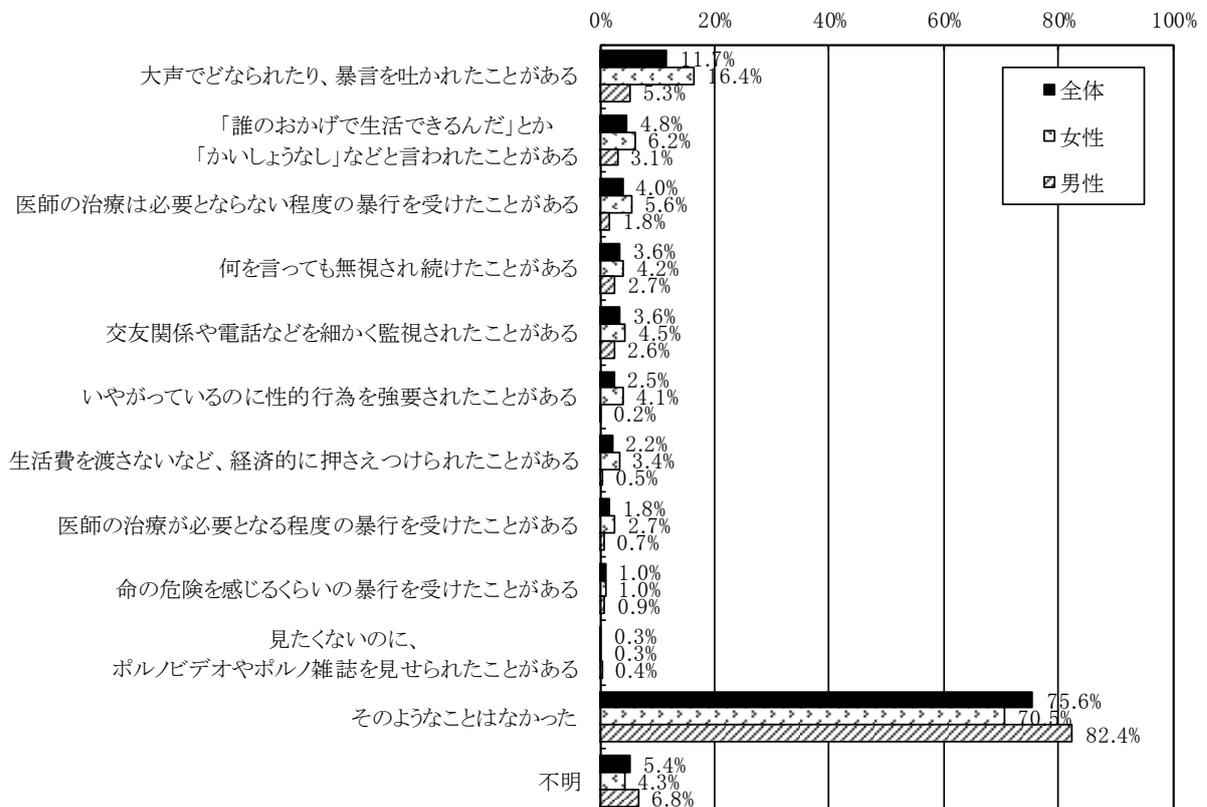
6-(1)配偶者や恋人などから暴力を受けた経験 [n=1,269]

前回共通

問30 あなたはこれまでに、配偶者や恋人などから、次のようなことをされた経験がありますか。（すべて）

- ◆配偶者や恋人などから暴力などを受けた経験が『ある』※3方の割合は19.0%であり、前回調査の17.6%から1.4ポイント増加している。また、暴力を受けた内容は、「大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある」が最も多く、次いで「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」などと言われたことがある」「医師の治療は必要とまらない程度の暴行を受けたことがある」となっている。
- ◆性別にみると、暴力を受けた経験が『ある』方の割合は、女性では25.2%で、前回調査の23.4%から1.8ポイント増、男性では10.8%で、前回調査の10.4%から0.4ポイント増となっている。

※3 「そのようなことはなかった」と答えた方と「無回答」を除いた計

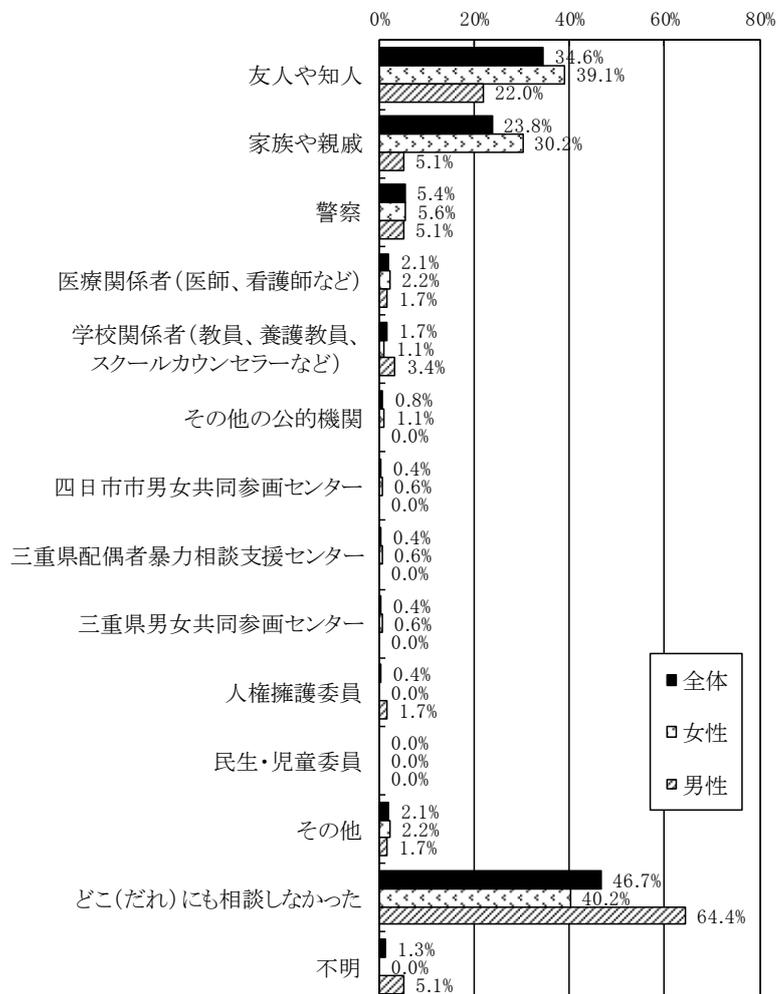


6-(2)暴力などを受けた場合に実際に相談したところ

〔n=240〕

問31 【問30で「1～10」に○をつけられた方】あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。（すべて）

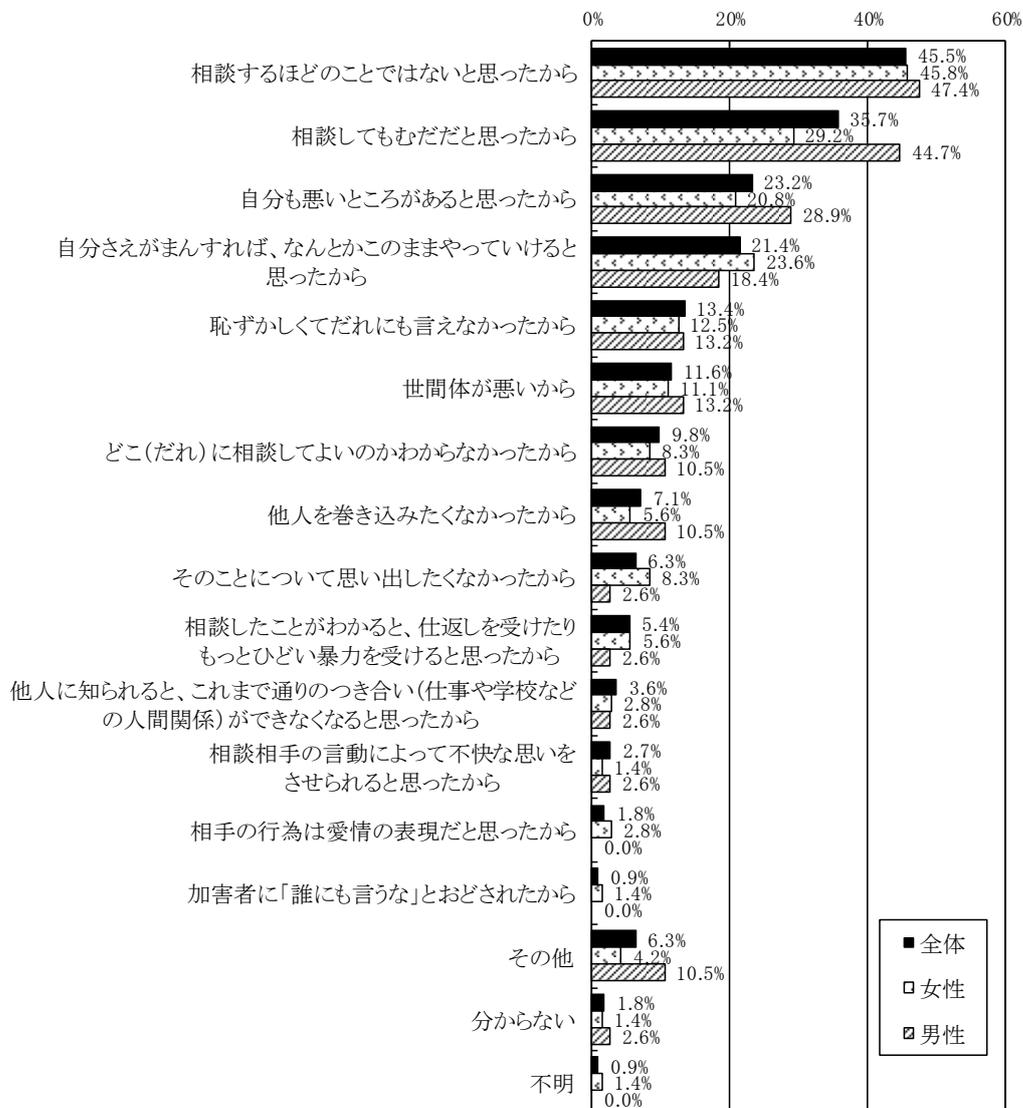
- ◆「どこ（だれ）にも相談しなかった」が全体で46.7%となっている。男性では64.4%、女性では40.2%となっており、特に男性で多くなっている。
- ◆相談した先としては「友人や知人」が34.6%、「家族や親戚」が23.8%と多くなっている。特に男性では相談した先としては「友人や知人」が大半となっている。



6-(3)相談をしなかった理由 [n=112]

問32 問31で「どこ(だれ)にも相談しなかった」に○をつけられた方】どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(すべて)

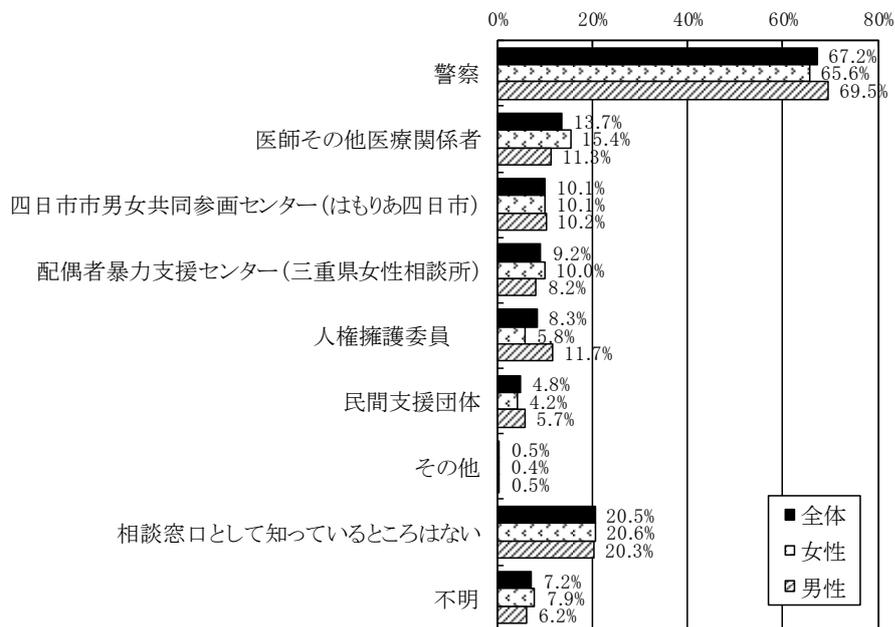
- ◆相談しなかった理由としては「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、男女とも最も多くなっている。
- ◆性別で見ると、女性で多く挙げられているのは、「そのことについて思い出したくなかったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたりもっとひどい暴力を受けると思ったから」などとなっている。



6-(4)暴力などを受けた際の相談先の認知 〔n=1,269〕

問33 配偶者や恋人などの間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関や関係者のうち知っているもの（すべて） 前回共通（一部変更）

◆ 配偶者や恋人などから暴力を受けた場合の相談窓口で知っている機関は、「警察」が最も多く、次いで、「医師その他医療関係者」「四日市市男女共同参画センター（はもりあ四日市）」と続いており、これら以外の機関の認知は1割以下となっている。

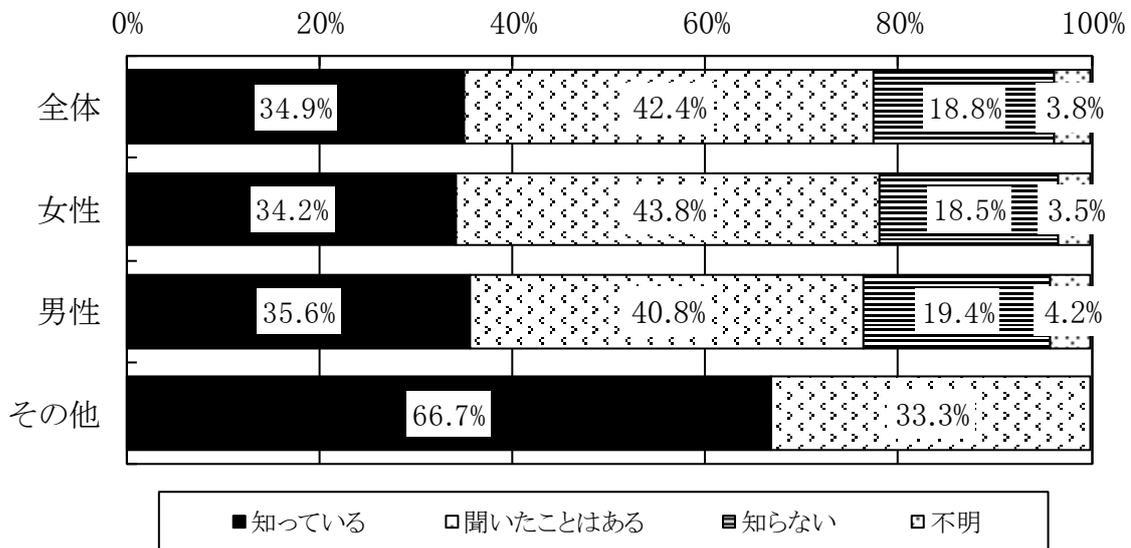


7 性的マイノリティ（性的少数者）について

7-(1)性的マイノリティ（性的少数者）の認知 〔n=1,269〕

問34 あなたは性的マイノリティ（性的少数者）について、どの程度ご存知ですか。（1つ）

◆性的マイノリティ（性的少数者）の認知状況は、「知っている」が34.9%、「聞いたことはある」が42.4%となっており、男女で大きな差はみられない。

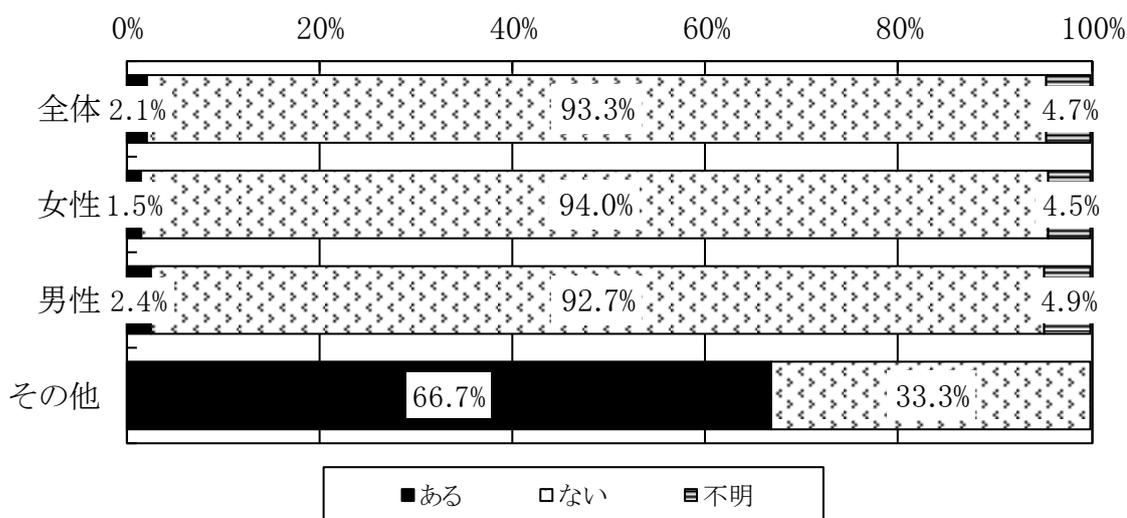


7-(2)自分の恋愛対象に悩んだり、自分の性に違和感を感じた経験

[n=1,269]

問35 あなたは、今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を感じたりしたことはありますか。(1つ)

◆今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を感じたりしたことがある人は、全体で2.1%、女性で1.5%、男性で2.4%となっている。



8 男女共同参画社会について

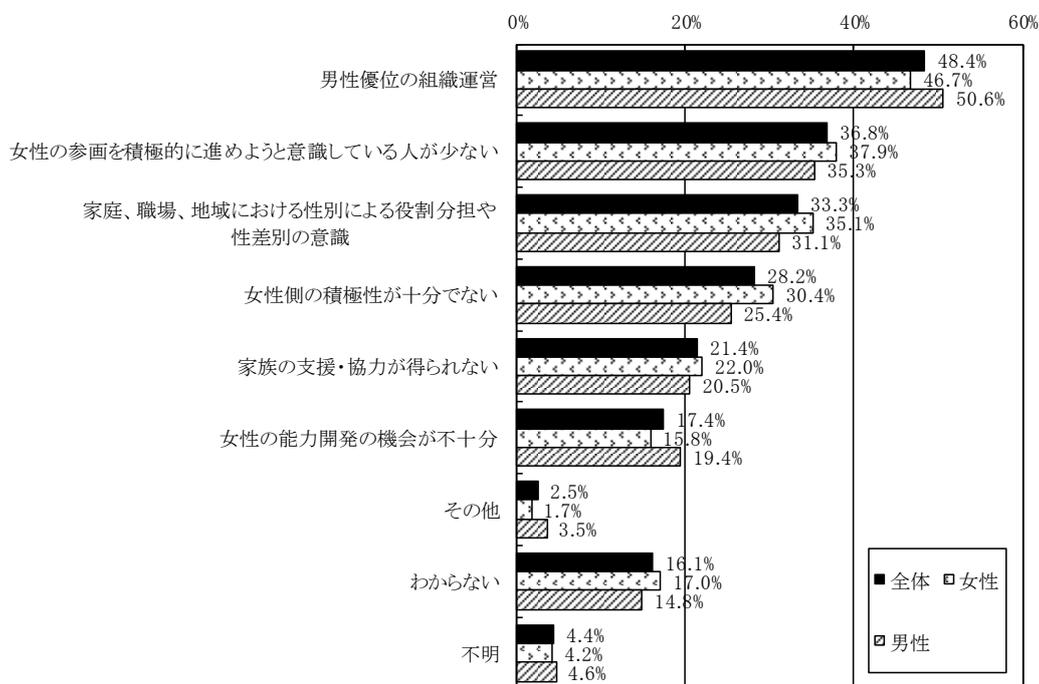
8-(1)政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由

〔n=1,269〕

前回共通

問36 あなたは、政治や行政において、政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。（すべて）

- ◆政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由についてたずねたところ、「男性優位の組織運営」が最も多く、次いで、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」と続いている。この順番は前回調査と同じであった。
- ◆性別にみると、「男性優位の組織運営」について、女性よりも男性の方が多く挙げられている。なお、前回調査では「男性優位の組織運営」は、女性52.7%、男性51.6%であり、女性では6.0ポイント下がっている。

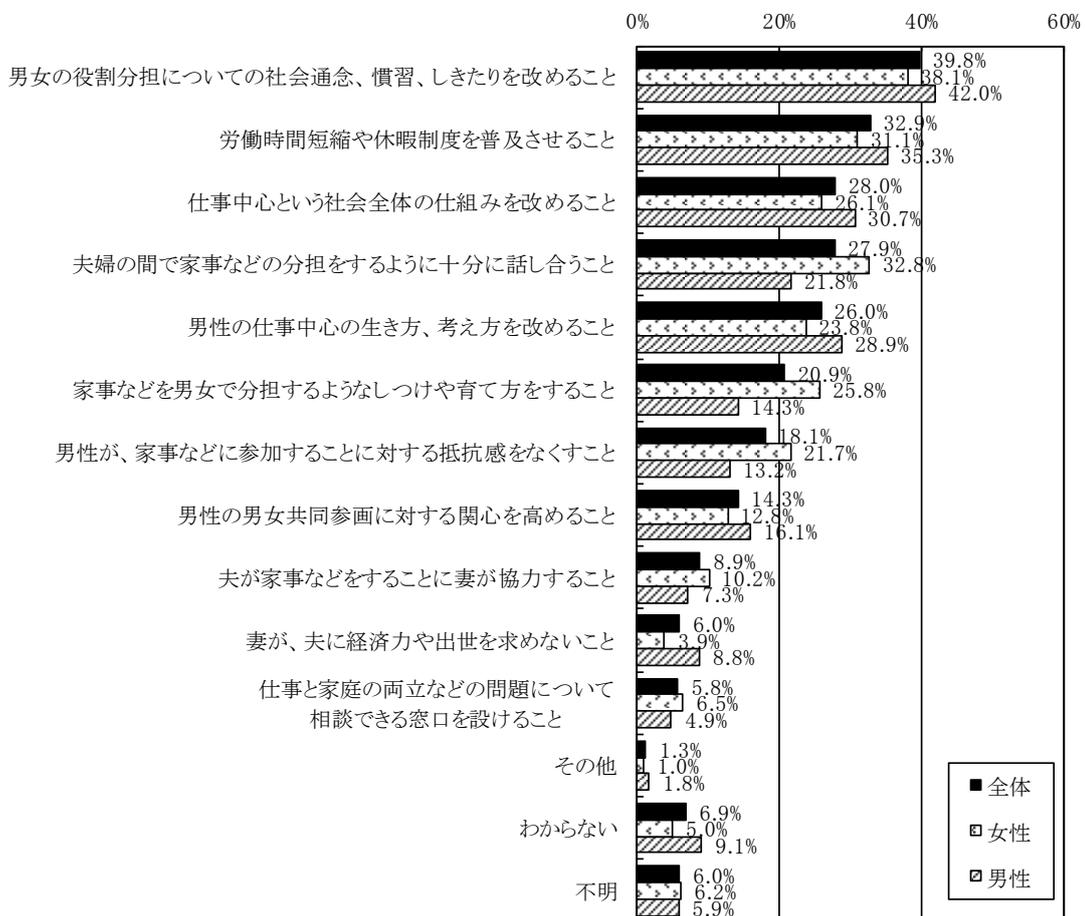


8-(2)男女がともに家庭生活や地域活動に参加していくために必要なこと

〔n=1,269〕

問37 今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまで) **前回共通**

- ◆男女がともに家庭生活や地域活動に参加していくために必要なことは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も多く、次いで、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」と続いている。この順番は前回調査と同じであった。
- ◆男女間の意識の差をみると、女性の方が多く挙げられているのは、「家事などを男女で分担するようないしつけや育て方をすること」「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」「男性が、家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」などとなっている。一方、男性の方が多く挙げられているのは、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」「妻が、夫に経済力や出世を求めないこと」「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」などとなっている。



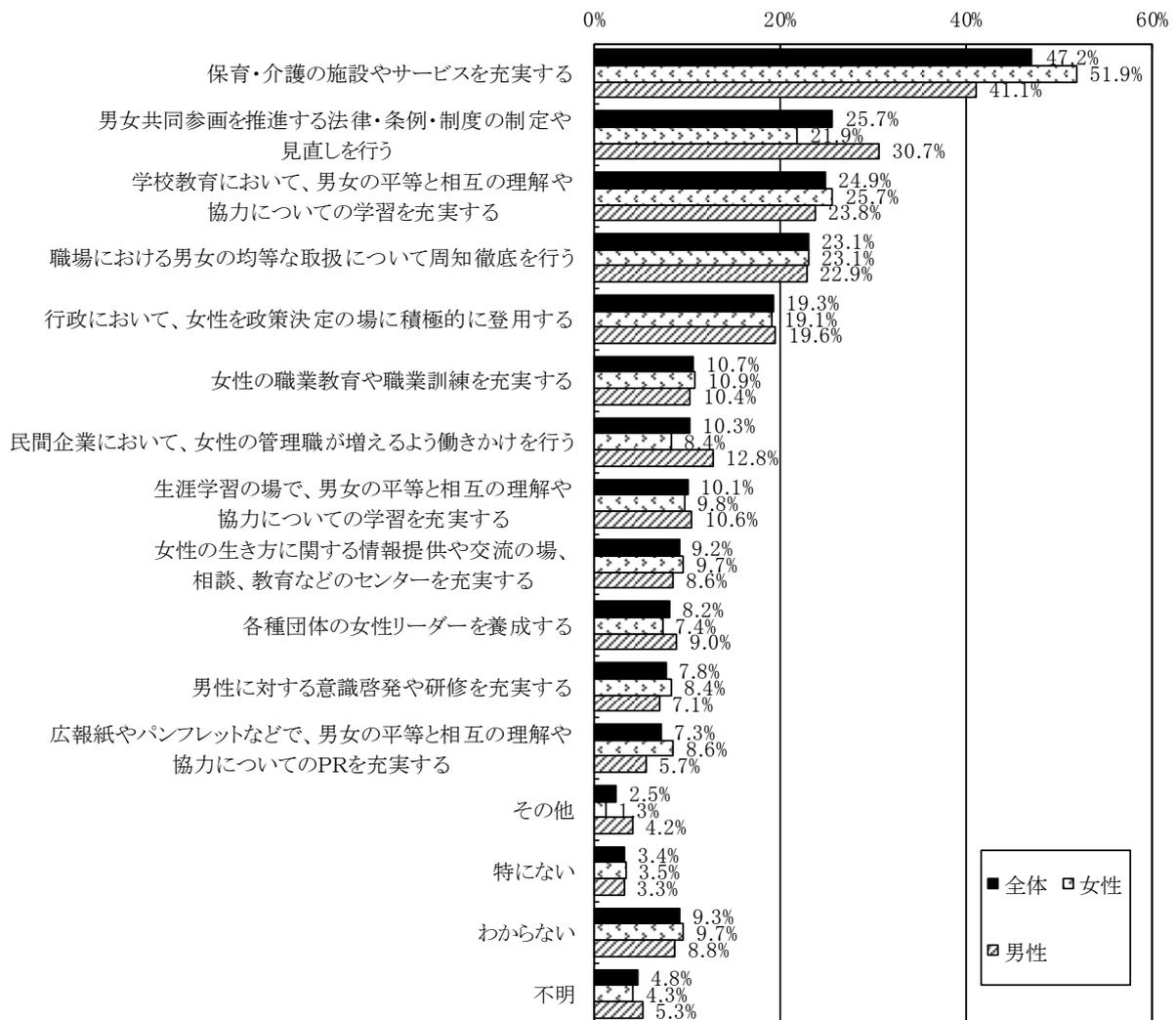
8-(3)男女共同参画を推進するための力点

[n=1,269]

前回共通(一部変更)

問38 男女共同参画を推進していくために、今後、県や市はどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(3つまで)

- ◆男女共同参画を推進するための力点は、「保育・介護の施設やサービスを充実する」が最も多く、次いで、「男女共同参画を推進する法律・条例・制度の制定や見直しを行う」、「学校教育において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」と続いている。この順番は、前回調査と同じであった。
- ◆男女間の意識の差をみると、女性では「保育・介護の施設やサービスを充実する」が多く、男性では「男女共同参画を推進する法律・条例・制度の制定や見直しを行う」が多くなっている。



9 四日市市男女共同参画センターについて

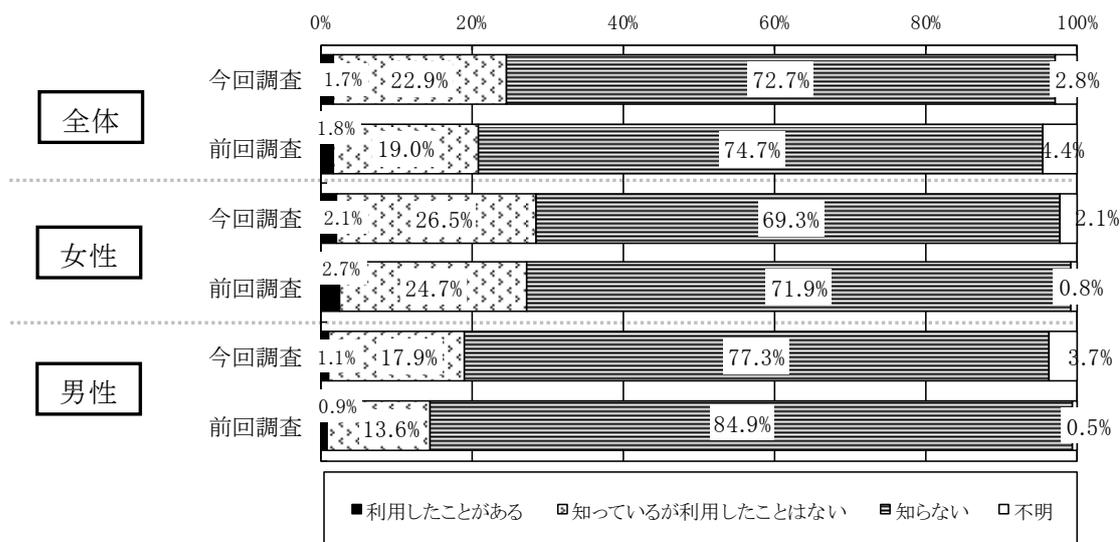
9-(1)四日市市男女共同参画センターの認知度 〔n=1,269〕

前回共通

問39 あなたは、四日市市男女共同参画センター「はもりあ」をご存じですか。
(1つ)

◆四日市市男女共同参画センターを「利用したことがある」方は1.7%で、前回調査の1.8%より若干下がった。なお「知っているが利用したことはない」までを含めた認知度は、前回調査の20.8%が、24.6%に3.8ポイント増加している。

◆性別にみると、「知っているが利用したことはない」までを含めた認知度は、男女ともに上がっており、男性では4.4ポイント上がっている。

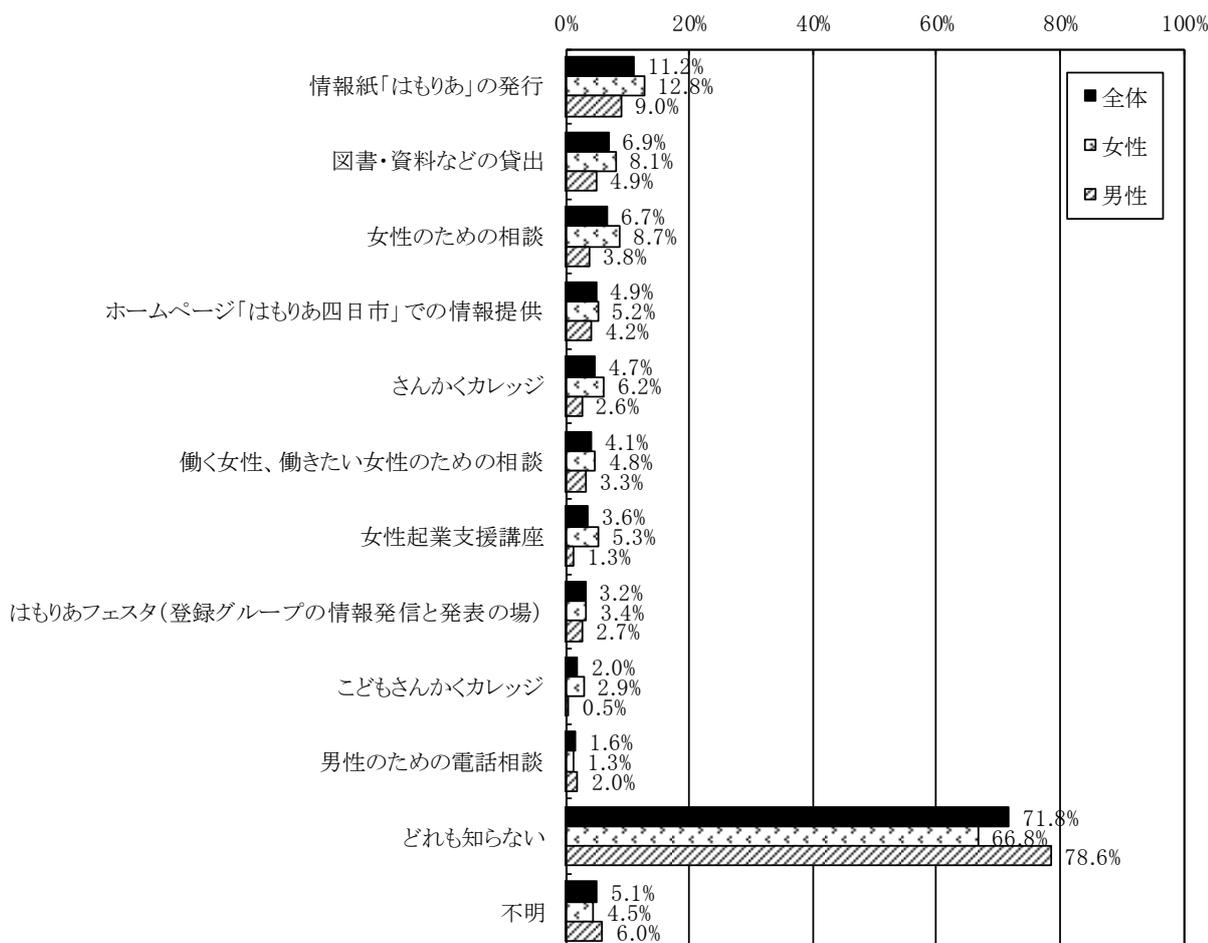


9-(2)四日市市男女共同参画センターでの実施事業の認知度

〔n=1,269〕 前回共通(一部変更)

問40 四日市市男女共同参画センターで行っている、次のような事業をご存じですか。(すべて)

- ◆ 四日市市男女共同参画センターでの実施事業を知っている方は少なく、知っている事業では「情報紙「はもりあ」の発行」「図書・資料などの貸出」「女性のための相談」などとなっている。「情報紙「はもりあ」の発行」について、前回調査では9.1%であり、2.1ポイント上がっている。
- ◆ 性別にみると、女性では「情報紙「はもりあ」の発行」「女性のための相談」が多くなっている。



IV 市民意識調査からみた 四日市市の現状と課題

①男女の平等感は、若干後退している状況

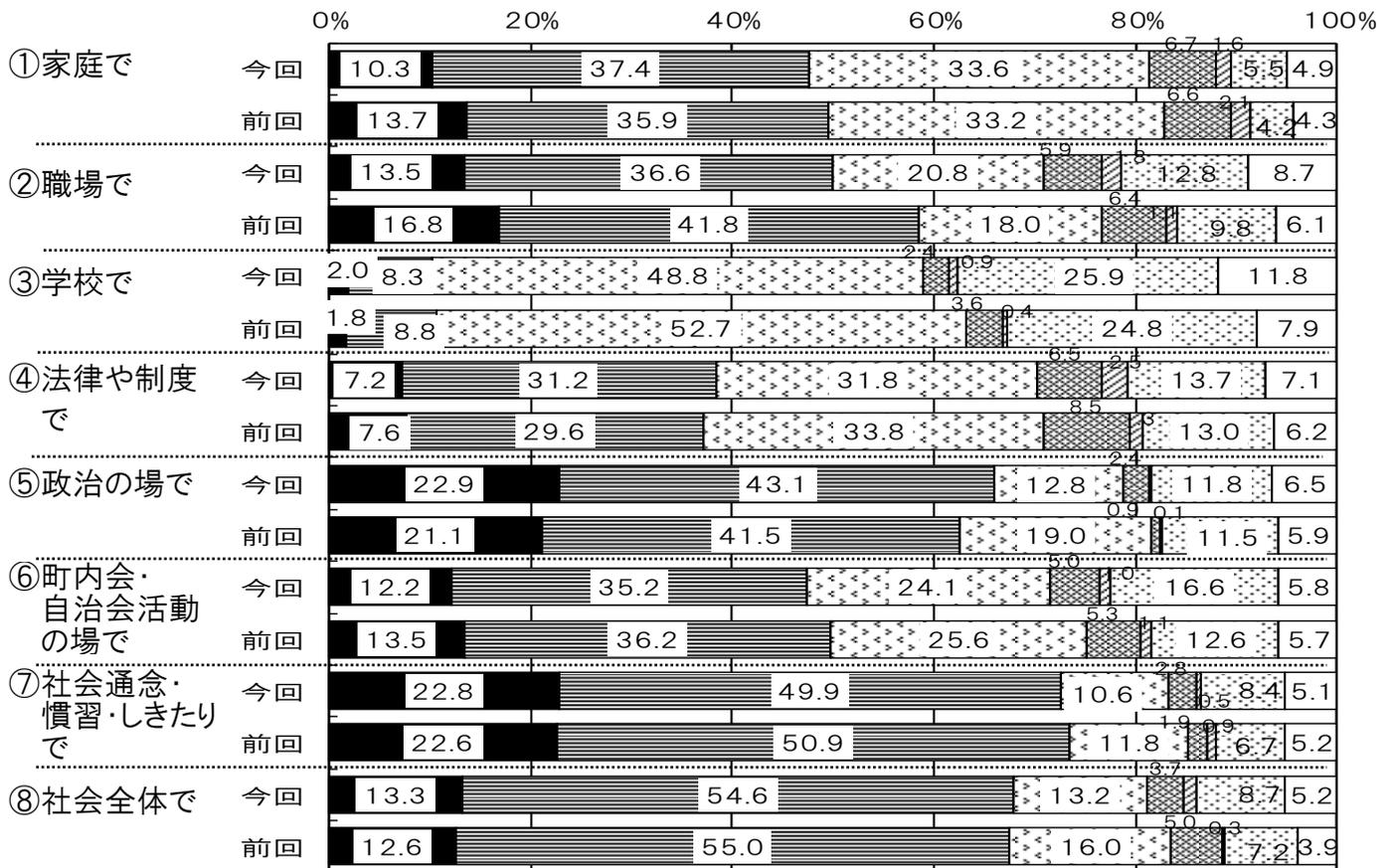
<現状>

- 「社会全体で」男女平等と感じている人の割合は、わずか13.2%と前回の16.0%を下回っており、「男性のほうが優遇されている（どちらかといえばそう思うを含める）」と感じている人が依然67.9%となっている。（前回調査比0.3ポイント増）
- 各分野別に見ると、「家庭で」と「職場で」は前回調査に比べて増加しているものの、それ以外の分野では減少している。特に「政治の場で」が6.2ポイントと減少幅が大きかった。
- 「男性のほうが優遇されている（どちらかといえばそう思うを含める）」の割合は、前回調査に比べて「家庭で」、「職場で」、「学校で」、「町内会・自治会活動の場で」、「社会通念・慣習・しきたりで」が減少しており、特に「職場で」が8.5ポイントと大きく減少している。

<課題>

女性活躍の推進及びワーク・ライフ・バランスの推進の効果の現れか、職場や家庭での男女平等感は増加しているものの、他の分野においては減少していることから、平等になるために重要なこととして意見が多かった、「女性を取り巻く様々な偏見・固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」等、意識啓発と女性のエンパワメントを進めていく必要がある。

各項目別の分野における男女の平等感について



■ 男性のほうが優遇されている
 □ 平等になっている
 □ 女性のほうが優遇されている
 □ 不明

■ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
 ■ どちらかといえば女性のほうが優遇されている
 □ わからない

② 固定的性別役割分担意識は徐々に解消されつつある

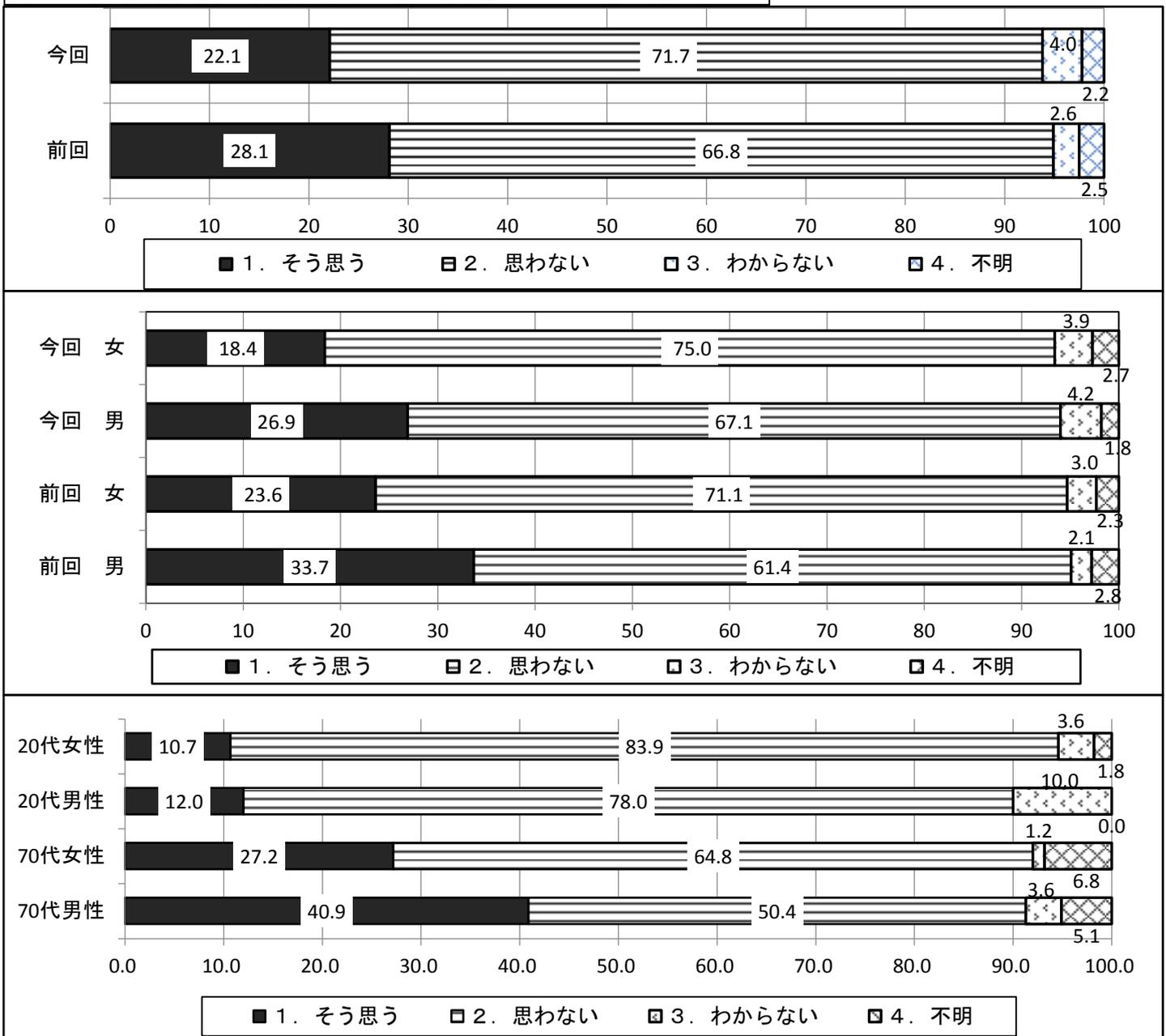
<現状>

- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方を持っている人は、全体で22%（前回調査時28.1% 6.1ポイント減）
- 「思わない（どちらかといえばそう思わないを含める）」の回答が多かったのは、「20歳未満（女性）」（95.0%）、「20代（女性）」（83.9%）、「20歳未満（男性）」（83.4%）、「30代（女性）」（82.6%）、「40代（女性）」（80.6%）の順であった。
- 性別で見ると、男性のほうが女性よりも「そう思う（どちらかというともう一方を含める）」と考えている人が多く、また、男女とも年代が上がるほど「そう思う」傾向にある。
- 「50代（女性）」、「30代（男性）」を除き、すべての年代で「思わない（どちらかといえばそう思わないを含める）」の回答が、前回調査時よりも増加している。

<課題>

固定的性別役割分担意識は、ほぼどの世代においても解消の傾向にあり、特に若い年代ほど解消されつつある。しかし、未だ高い年代、特に男性においては意識が残っていることから、引き続き啓発を行っていく必要がある。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について



③就業形態における希望と現状の差は女性のほうが大きい

<現状>

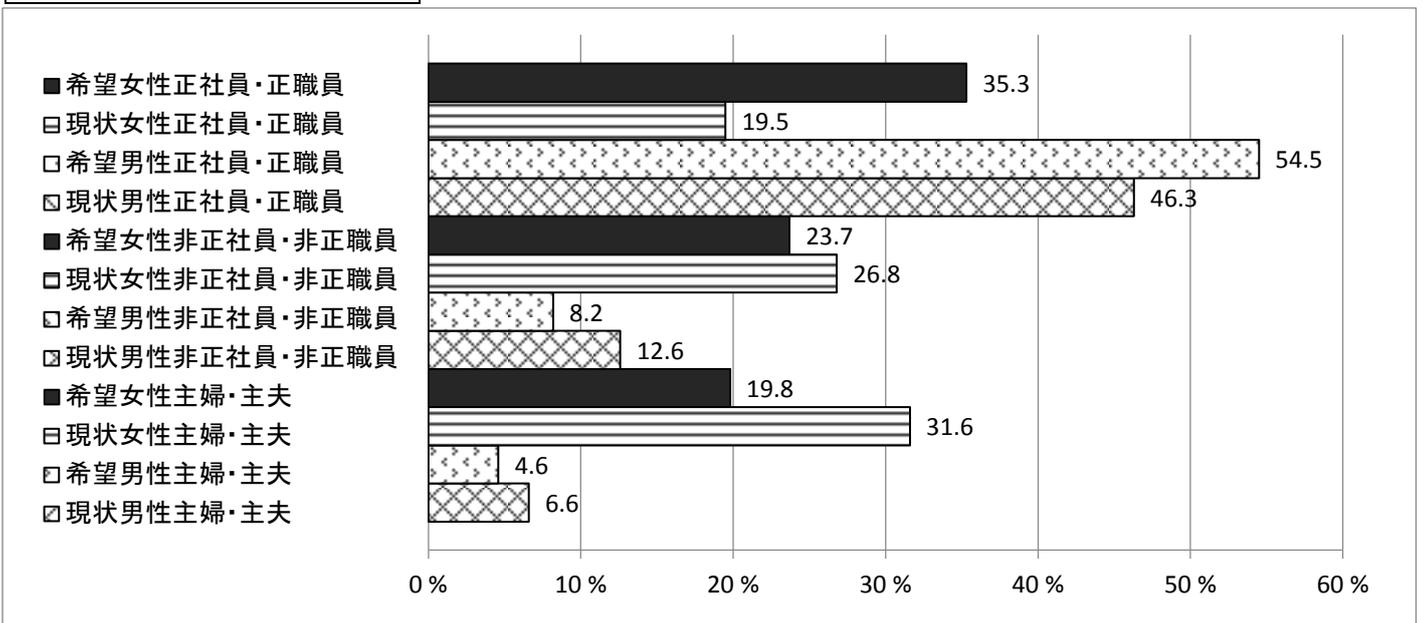
○就業形態の希望と現状をみると、女性の方が男性に比べて希望と現状の差が大きい。正社員・正職員を希望する女性は35.3%になるが、実際に正社員・正職員として就業している女性は19.5%と15.8ポイントの差があり、男性の8.2ポイントの差に比べ差が大きい。また、主婦を希望する女性の割合19.8%に対して、現状は31.6%の女性が主婦を担っている。

○就業形態の希望と現状が異なる理由として、全体では「働く場がないから」が多い理由であったが、性別でみると、女性では「子育てと両立できないから」、男性では「生計を維持することができないから」がそれぞれ一番多い理由であった。

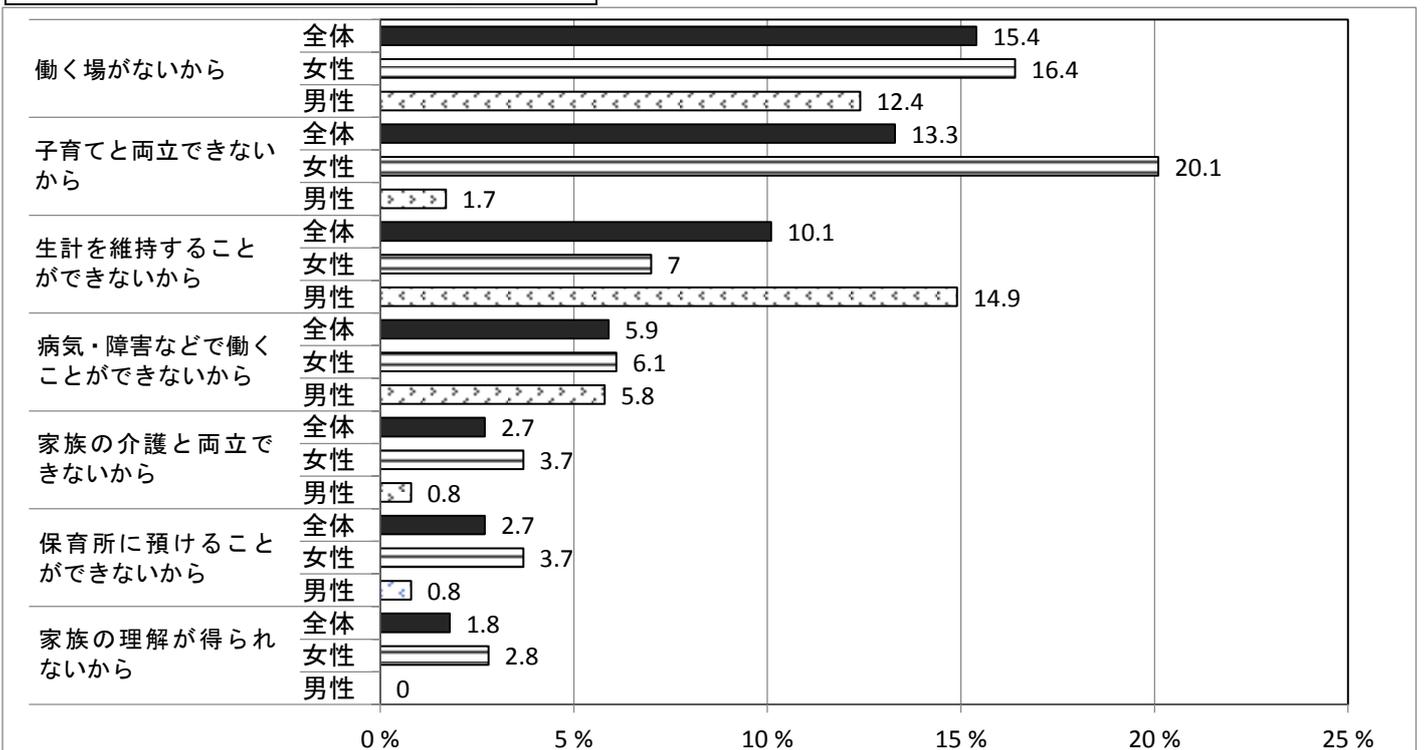
<課題>

女性の就業形態が希望通りとならない主な要因は、「子育てと両立できないから」であることから、女性が希望どおりの就業に就くためには、職場環境の整備や時間外削減などの働き方の見直し、男性の家事・育児参画が必要である。

就業形態の希望と現状（抜粋）



就業形態の希望と現状が異なる理由（抜粋）



④男性の若い年代では育児休業を取得したいという意識が高い

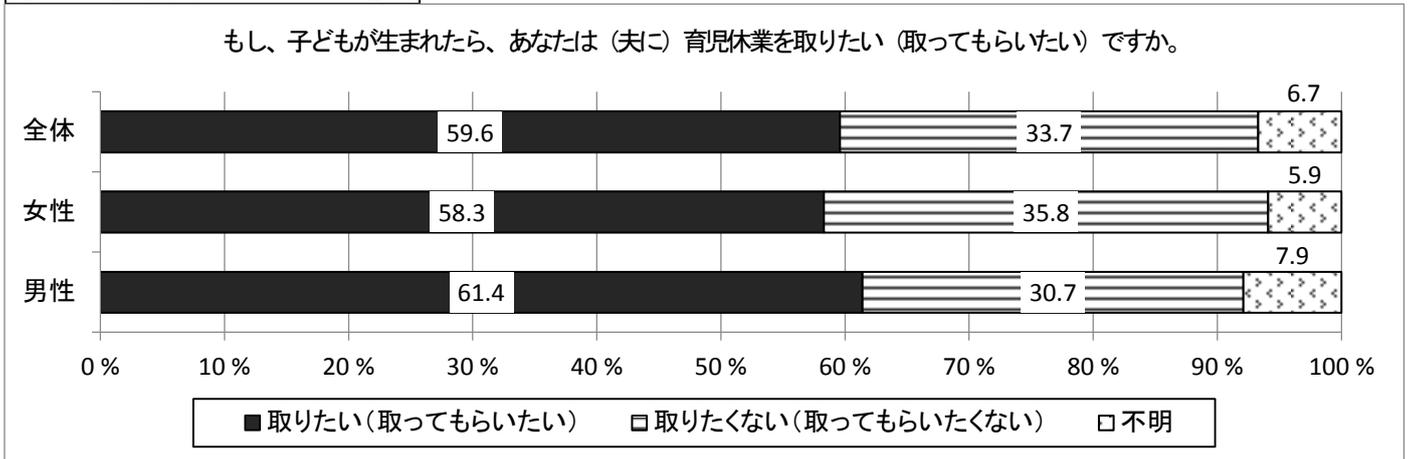
<現状>

- 男性の育児休業について、全体では59.6%が「取りたい（取ってもらいたい）」となっており、性別で見ると、男性よりも女性の方が「取りたくない（取ってもらいたくない）」の割合が高い。
- 性別・子どもの年代（一番下の子ども）別にみると、男性では、子どもの年代が「就学前」、「小学生1～3年生」だと「取りたい（取ってもらいたい）」の割合が75.0%以上となっている。女性では、「取りたい（取ってもらいたい）」の割合が「就学前」で58.0%、「小学生1～3年生」で47.6%と、男性と比べて20ポイント以上の開きがある。
- 「取りたくない（取ってもらいたくない）」の理由として、男女とも一番多かったのは「収入減の心配があるから」であった。次に多い理由として、男性では「復職時、仕事や職場の変化に対応できないと思うから」であるのに対し、女性では「取得する必要性を感じていないから」であった。
- 職場における男性の育児休業の取りやすさについて、「取りやすいと思う」と感じているのは、全体の11.4%となっており、「取りにくいと思う」と感じているのは41.5%となっている。

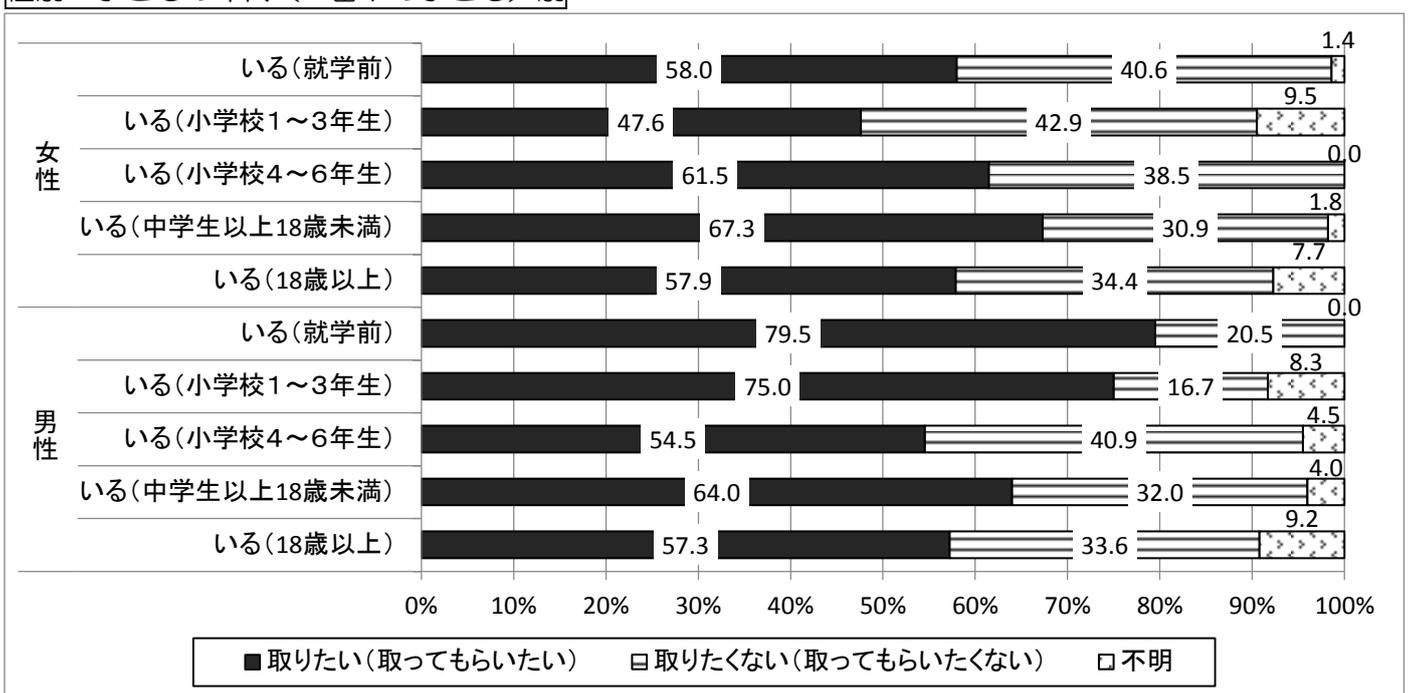
<課題>

男性が育児休業を取りたいと思っても、取りづらい現状があることから、男性の育児休業取得に対する職場の理解が進むよう企業への働きかけを行うとともに、女性に対して、男性が育児休業を取得することのメリットなどを周知していく必要がある。

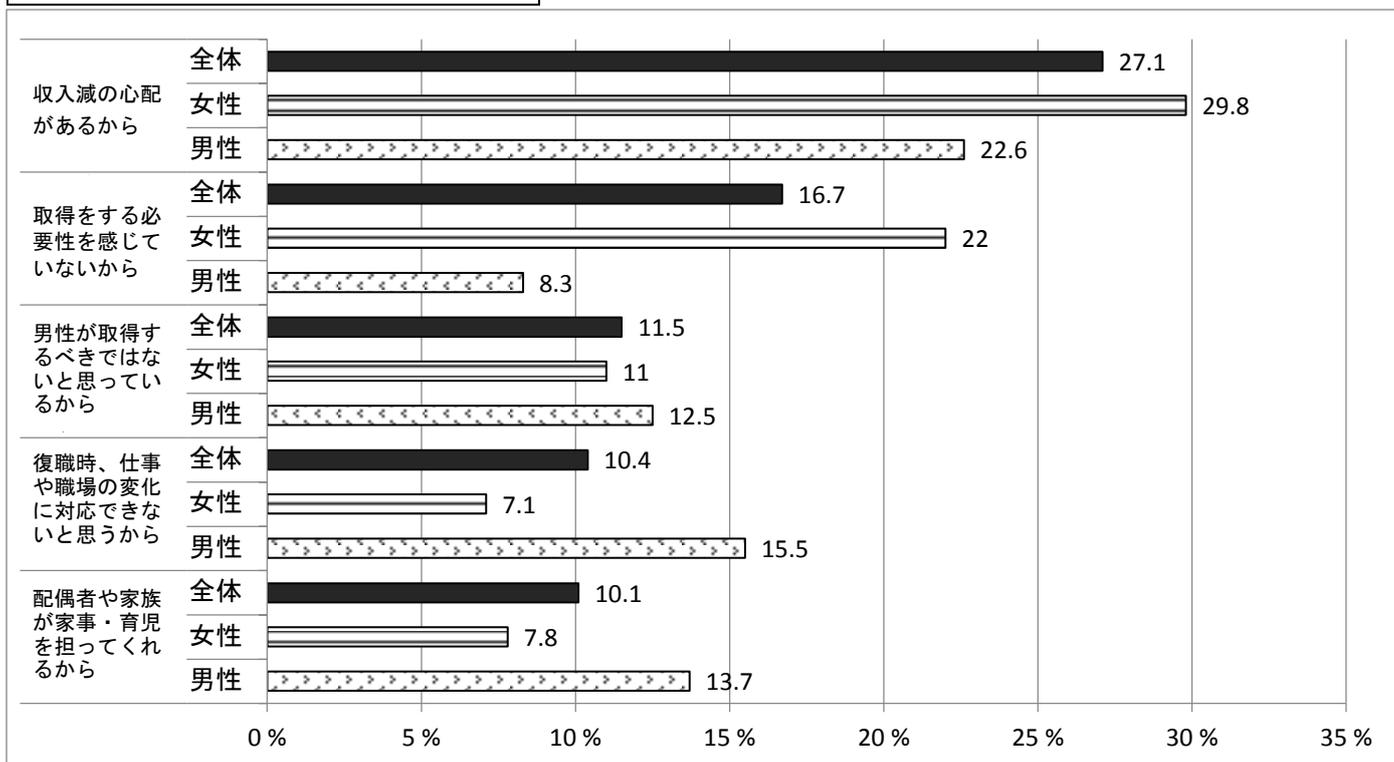
男性の育児休業についての意向



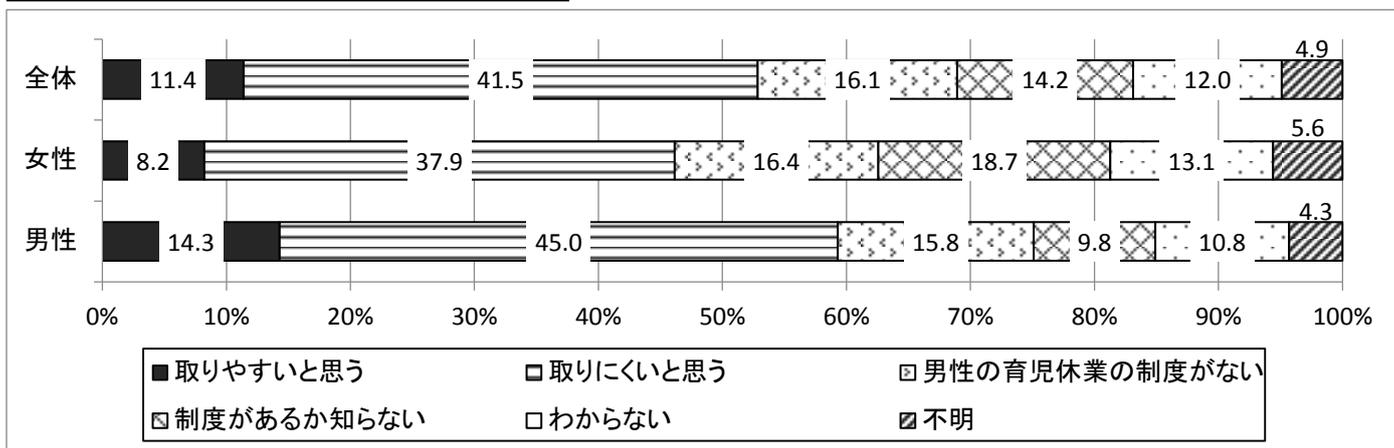
性別・子どもの年代（一番下の子ども）別



男性の育児休業に否定的な理由（抜粋）



職場における男性の育児休業の取りやすさ



⑤ワーク・ライフ・バランスを実現している人は約3割

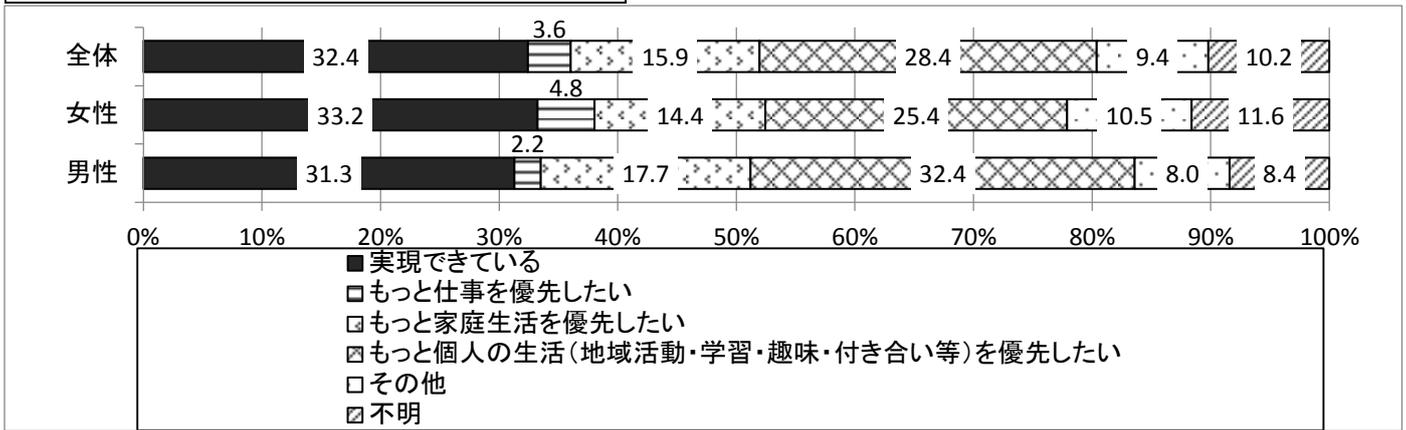
<現状>

- 全体で 32.4%がワーク・ライフ・バランスの実現ができており、性別で見ると女性の方が若干「実現できている」割合が高い。また、男性の方が「もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」の割合が高くなっている。
- 年代別にみると、女性では「20歳未満」、「50歳代」で、男性では「40歳代」で「実現できている」の割合が高い。また、女性の「20歳代」、男性の「20歳未満」、「20歳代」で「もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」の割合が高くなっている。
- 「もっと仕事を優先したい」の割合は、男性の「20歳未満」から「40歳代」まで0%であるのに対し、女性は「20歳代」で1.8%、「30歳代」で9.3%、「40歳代」で7.6%となっている。

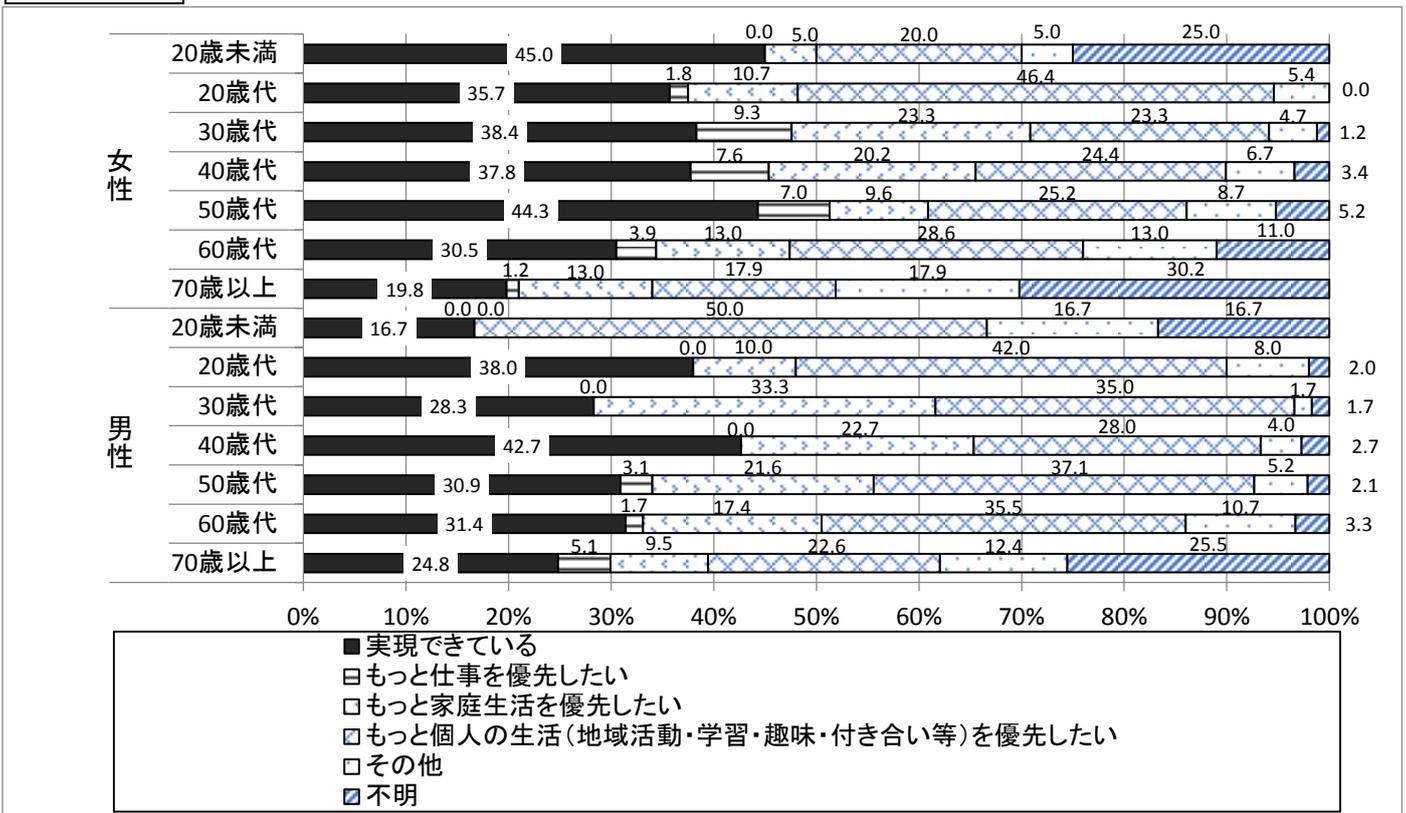
<課題>

ワーク・ライフ・バランスを実現できている割合が約3割ある中、もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい割合も約3割となっている。今後も引き続き企業等のワーク・ライフ・バランスが進むよう働きかけをしていく必要がある。

ワーク・ライフ・バランスが実現できているか



性別・年代別



⑥女性が役職につくことについての考え方は、男性よりも女性の方に抵抗がある

<現状>

○女性が役職に就くことや選挙への立候補を依頼された場合、「引き受ける（よう勧める）」と答えた割合はいずれも1割未満にとどまっている。また、前回調査に比べ、「断る（よう勧める）」と答えた割合はすべての項目で増加している。

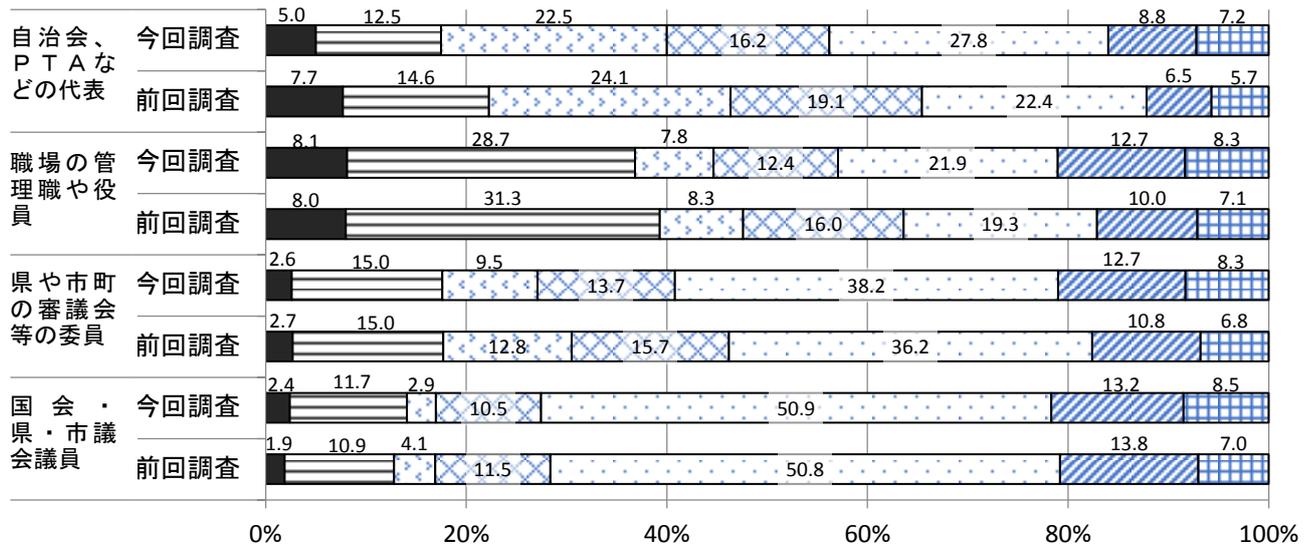
○性別でみると、「断る（よう勧める）」と答えた人の割合は、「PTA、町内会の代表」では、「女性」33.7%、「男性」20.1%、「職場の管理職や役員」では、「女性」27.6%、「男性」14.6%、「審議会等の委員」では、「女性」47.4%、「男性」26.5%、「国会・県・市議会議員」では、「女性」61.2%、「男性」37.8%といずれも男性よりも女性の方の割合が高かった。

<課題>

女性の方が男性よりも役職に就くことや選挙への立候補を依頼された場合に断る割合が高いことから、女性に対して、政策決定・意思決定などのあらゆる過程で男女が対等な構成員として参画することが必要であることの啓発を行うとともに、積極的に参画していけるようエンパワメントに取り組む必要がある。また、女性がより参画しやすくなるような意識の啓発が必要である。

女性が役職につくことについての考え方

女性の場合はあなたが、男性の場合は妻・母親など身近な女性が、もし次の役職に就くことや選挙への立候補を依頼された場合どうしますか。



⑦ DVを受けた際の相談窓口を知らない人が前回より増加

<現状>

○配偶者や恋人などから暴力を受けた際の相談窓口で知っている機関は、「警察」が最も多く、次いで、「医師その他医療関係者」、「四日市市男女共同参画センター」と続いている。「四日市市男女共同参画センター」の認知状況は前回調査よりも上がっているものの1割程度しかなく、また、「相談窓口として知っているところはない」が20.5%となっており、前回の9.7%に比べ増加している。

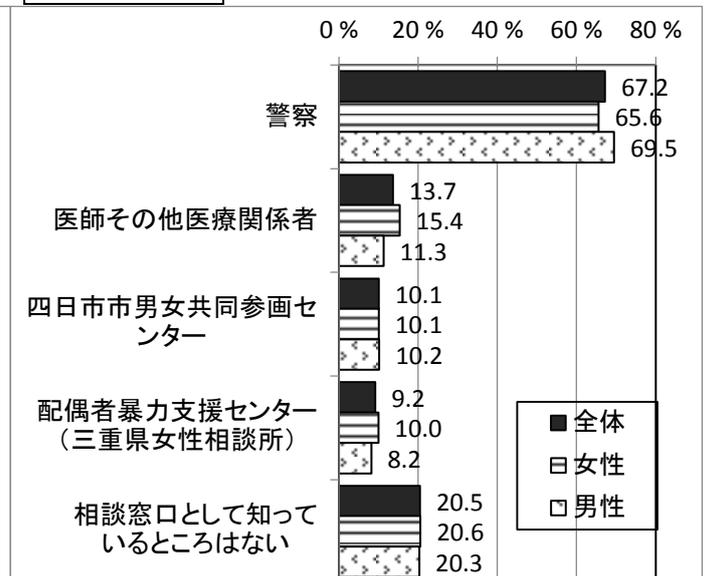
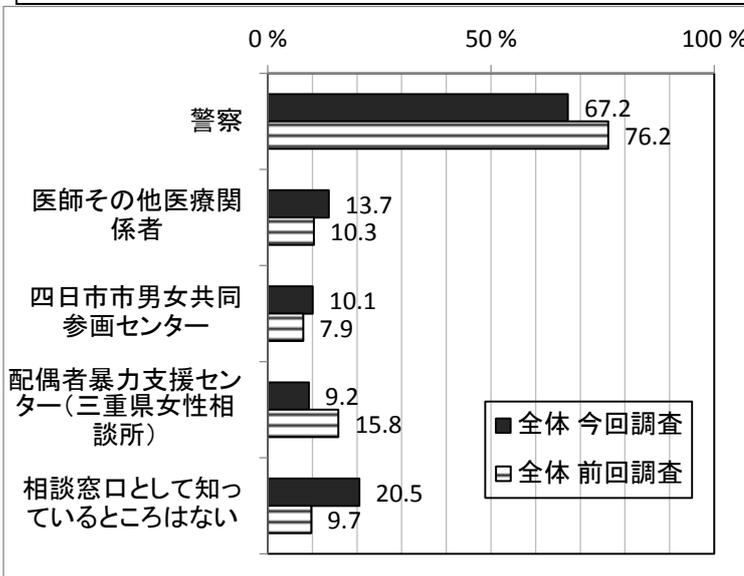
○性別、年代別に見ると、「相談窓口として知っているところはない」の割合が多かったのは、女性の「60歳代」で29.9%、男性の「20歳未満」で33.3%であった。

<課題>

相談窓口の認知状況が前回調査に比べ全体的に下がっていることから、今まで以上に相談窓口の周知が必要である。

暴力などを受けた際の相談先の認知【前年対比】(抜粋)

【性別】(抜粋)



⑧性的マイノリティ（性的少数者）の認知状況は「聞いたことはある」を含めると7割を超える

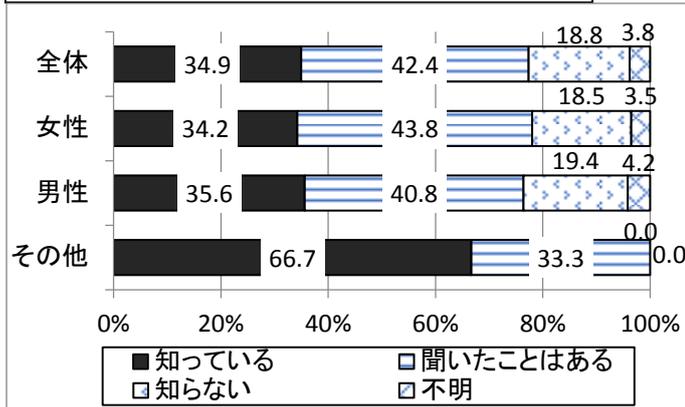
<現状>

- 性的マイノリティの認知状況は、「知っている」が34.9%、「聞いたことはある」が42.4%となっている。
- 自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を感じたりしたことがある割合は、全体で2.1%であった。

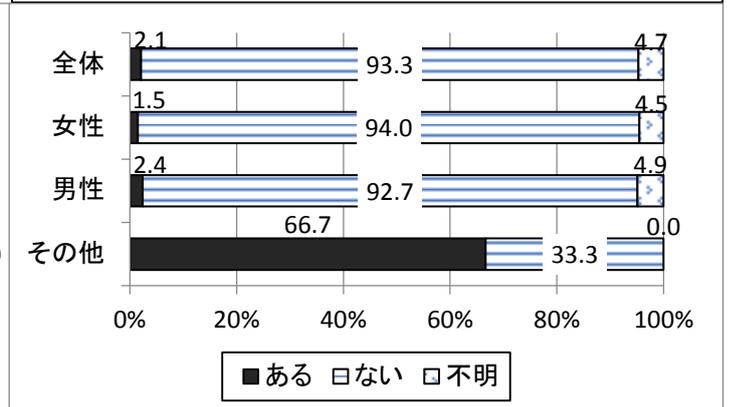
<課題>

性的マイノリティの認知状況は、「聞いたことはある」を含めると7割以上が認知されているが、正しい認識を周知していく必要がある。また、自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を感じたりしたことがある人が2.1%みえることから、今後、正しい認識を持てるよう周知していく必要があるとともに、施策を進めるうえで自認する性が男と女だけではないことを考慮する必要があります。

性的マイノリティ（性的少数者）の認知状況



自分の恋愛対象に悩んだり、自分の性に違和感を感じた経験



⑨男女がともに家庭生活や地域活動に参加していくためには固定的性別役割分担意識の解消が必要

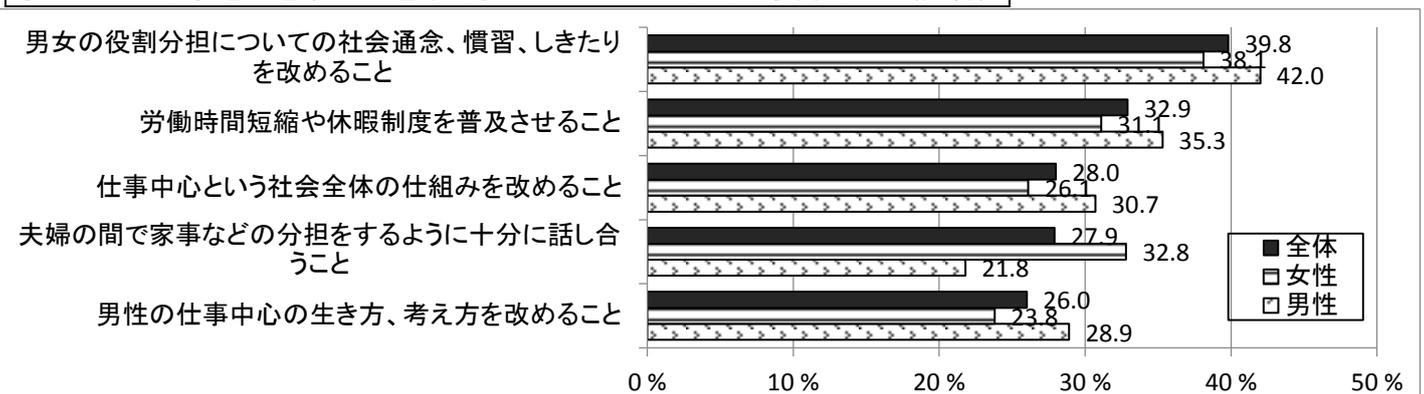
<現状>

- 男女がともに家庭生活や地域活動に参加していくために必要なことは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も多く、また、男女ともに一番多かった。次いで、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」と続いている。
- 性別でみると、男性で二番目に多かったのは「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」に対し、女性で二番目に多かったのは「夫婦の間で家事などの分担をするよう十分に話し合うこと」であった。「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」について男女差はあまりなかったが、「夫婦の間で家事などの分担をするよう十分に話し合うこと」については、男性は女性に比べ11ポイント低かった。

<課題>

「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も多かったことから、固定的性別役割分担意識がまだまだ残っていると認識されていると考えられる。固定的性別役割分担意識の解消のため、引き続き啓発を行うことが必要である。また、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」などに対しては、働き方を見直し、ワーク・ライフ・バランスを推進するために、企業への働きかけを行っていく必要がある。

男女がともに家庭生活や地域活動に参加していくために必要なこと（抜粋）



⑩四日市市男女共同参画センターを知っている人は4人に1人

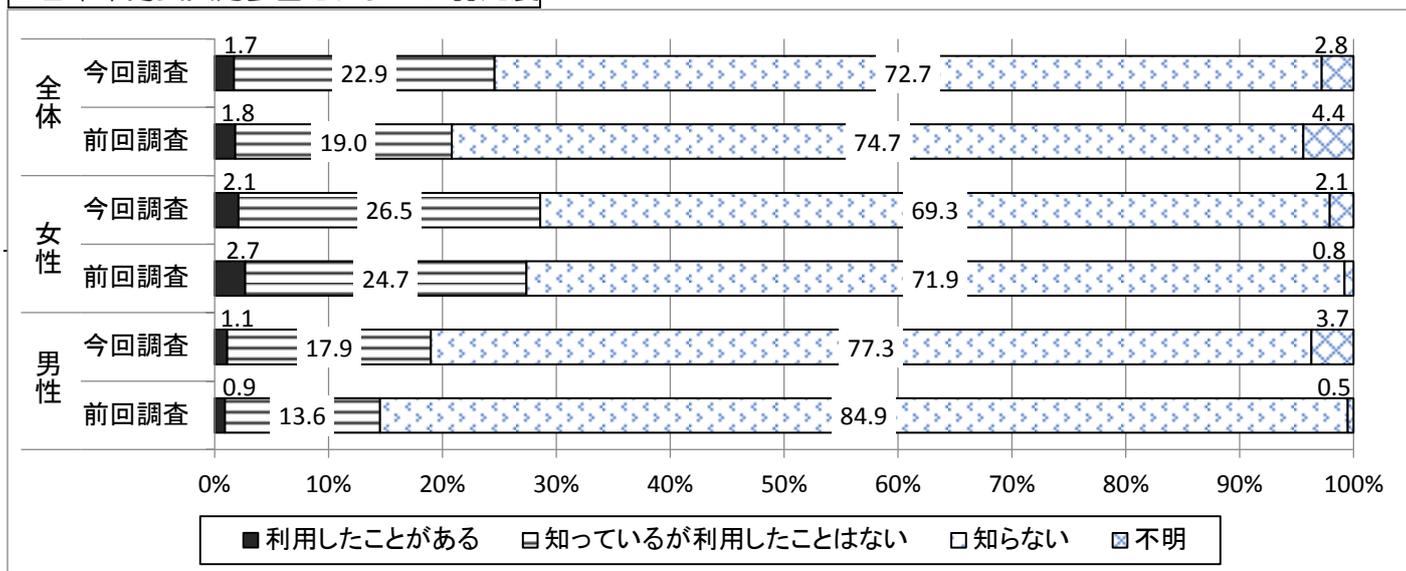
<現状>

- 四日市市男女共同参画センターを、「利用したことがある」、「知っているが利用したことはない」人は全体で24.6%と前回調査より3.8ポイント増加している。
- 性別で見ると、「知っているが利用したことはない」までを含めた認知度は、男女ともに上がっており、男性では4.4ポイント増加している。

<課題>

四日市市男女共同参画センターの認知度は前回より増加しているものの、4人に1人にしか知られていない。より広く市民に認知されるよう周知を行っていくとともに、市民が関心を引く企画や事業を実施していく必要がある。

四日市市男女共同参画センターの認知度



男女共同参画に関する市民意識調査

● 調査ご協力のお願い ●

日頃は、市政全般にわたりご理解ご協力を賜り、ありがとうございます。

四日市市では、平成 25 年度に男女共同参画に関する市民意識調査を実施させていただき、その調査結果に基づき、平成 26 年度に「男女共同参画プランよっかいち 2015～2020」を策定し、男女共同参画社会に向けた取り組みを行ってきました。

この度は、本プランをより現在の実態に合ったものとする中間見直しを行うため、市民の皆様から男女共同参画に関する意識や生活について、意識調査を行うことにいたしました。

この調査は、住民基本台帳から満 18 歳以上の 3,000 人を無作為に選ばせていただき実施するもので、調査結果は計画策定の際の基礎資料とし、アンケートの集計につきましては、すべてコンピューターで統計的に処理いたします。ご回答いただいたみなさんにご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。

お忙しいところ、誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 29 年 8 月

四日市市長 森 智広

<ご記入にあたっての注意事項>

- ◆ この調査は、ご本人（封筒のあて名の人）がお答えください。
- ◆ 当てはまる選択肢の番号を○印で囲んでください。設問によって、○を付けられる数が変わりますので、ご注意ください。なお、「その他（ ）」を選んだ場合は、（ ）の中に具体的にご記入ください。
- ◆ 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
- ◆ 記入は黒のボールペンか鉛筆でお願いします。
- ◆ 回答が終わりましたら、記入もれなどがないか確認していただき、同封の返信用封筒に入れて、8月31日(木)までに郵便ポストに投函してください。切手を貼る必要はありません。

問い合わせ先：四日市市 市民文化部 男女共同参画課

電話 059-354-8331（火～土 8:30～17:15）

FAX 059-354-8339

Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp

1. 男女平等についておたずねします。

問1 あなたは次の各項目の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
①～⑧の各項目について、それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

	選 択 肢					
	1	2	3	4	5	6
	る 男性のほうが優遇されている	どちらかといえば 男性のほうが優遇されている	平等になっている	女性のほうが優遇されている	どちらかといえば 女性のほうが優遇されている	わからない
①家庭で	1	2	3	4	5	6
②職場で	1	2	3	4	5	6
③学校で	1	2	3	4	5	6
④法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥自治会活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体で	1	2	3	4	5	6

問2 今後、あなたが、社会のあらゆる分野でもっと男女が平等になるために最も重要だと思うことは何でしょうか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること 2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること 3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること 4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること 5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること 6. その他（具体的に： _____） 7. わからない |
|---|

2. 結婚、家庭、子育てについておたずねします。

問3 あなたは結婚していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 既婚 | ⇒ (問4へ) |
| 2. 離婚、死別等により配偶者なし | ⇒ (次ページの問6へ) |
| 3. 未婚 | ⇒ (次ページの問6へ) |

問4 【問3で「1」と回答された方におたずねします。】

あなたと配偶者は共働きですか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- | |
|--------|
| 1. はい |
| 2. いいえ |

問5 【問3で「1」と回答された方におたずねします。】

次にあげる①～⑩の家庭の中での仕事は、夫婦のどちらがしていますか。

それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

	選 択 肢				
	1	2	3	4	5
	同じくらい	夫婦で	(夫に偏っている) 主に夫	(妻に偏っている) 主に妻	その他の人
①生活費の確保	1	2	3	4	5
②洗濯	1	2	3	4	5
③食事の支度	1	2	3	4	5
④掃除	1	2	3	4	5
⑤ごみ出し	1	2	3	4	5
⑥日常の家計管理	1	2	3	4	5
⑦高額の買い物や資産の管理	1	2	3	4	5
⑧子どもの世話	1	2	3	4	5
⑨子どものしつけ・教育	1	2	3	4	5
⑩高齢者、病人の世話・介護	1	2	3	4	5

【すべての方におたずねします。】

問6 ①～⑯の結婚や家庭、子育てに対する考え方についてどのように思いますか。あなたの意見に最も近い番号をそれぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

	選 択 肢				
	1	2	3	4	5
	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	思わない	わからない
①結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②結婚していない男性は社会的に信用されない	1	2	3	4	5
③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
⑤男性は女性を養うべきである	1	2	3	4	5
⑥女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい	1	2	3	4	5
⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑧家族の介護は女性がするべきである	1	2	3	4	5
⑨子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
⑩父親は、積極的に育児に取り組むほうがよい	1	2	3	4	5
⑪必要であれば、子育て支援サービスを受けて子育てをしてもよい	1	2	3	4	5
⑫男の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑬女の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑭男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑮女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑯男の子と女の子とは区別してそれぞれの性に 応じたしつけや教育をするほうがよい	1	2	3	4	5

3. 職業生活についておたずねします。

問7 あなたの主な就業形態を、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。(育児休業・出産休暇中の人も収入を得る仕事をしているものとみなします)

1. 【有業】正社員・正職員
2. 【有業】非正社員・非正職員(パート・アルバイト、派遣、契約社員など)
3. 【有業】会社・団体の役員
4. 【有業】自営業(家族従事者や内職を含む)
5. 【有業】その他
6. 【無業】主婦・主夫
7. 【無業】学生
8. 【無業】その他

説明

【有業】とは、ふだん収入を得ることを目的として仕事をしており、調査日以降もしていくことになっている人、および仕事はしているが現在は休んでいる人をいいます。なお、自営業での家族従業者などは、収入を得ていなくても、ふだんの状態として仕事をしていれば有業者となります。

【無業】とは、ふだん収入を得ることを目的として仕事をしていない人をいいます。

問8 あなたが希望する就業形態を、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 【有業】正社員・正職員
2. 【有業】非正社員・非正職員(パート・アルバイト、派遣、契約社員など)
3. 【有業】会社・団体の役員
4. 【有業】自営業(家族従事者や内職を含む)
5. 【有業】その他
6. 【無業】主婦・主夫
7. 【無業】学生
8. 【無業】その他

問9 【問7と問8で回答が異なった方におたずねします。】

就業についての希望と現状が合っていないのは、どのような理由からですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 働く場がないから | 6. 病気・障害などで働くことができないから |
| 2. 子育てと両立できないから | 7. 生計を維持することができないから |
| 3. 家族の介護と両立できないから | 8. その他 |
| 4. 家族の理解が得られないから | (具体的に:) |
| 5. 保育所に預けることができないから | |

【すべての方におたずねします。】

問 14 男性の育児休業についてお尋ねします。もし、子どもが生まれたら、あなたは（夫に）育児休業を取りたい（取ってもらいたい）ですか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

1. 取りたい（取ってもらいたい）
2. 取りたくない（取ってもらいたくない）

問 15 【問 14 で取りたくない（取ってもらいたくない）と回答された方におたずねします。】

取りたくない（取ってもらいたくない）と回答されたのはどのような理由からですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 職場の理解が得られないから
2. 収入減の心配があるから
3. 後のキャリア形成に影響しそうだから
4. 復職時、仕事や職場の変化に対応できないと思うから
5. 配偶者や家族が家事・育児を担ってくれるから
6. 会社で育児休業制度が整備されていないから
7. 取得をする必要性を感じていないから
8. 男性が取得するべきではないと思っているから
9. その他（具体的に： _____)

問 16 【収入を得る仕事をしている方（問7で「有業」（1.～5.）と回答された方）におたずねします。】

あなたの職場では、男性は育児休業を取りやすいと思いますか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 取りやすいと思う
2. 取りにくいと思う
3. 男性の育児休業の制度がない
4. 制度があるか知らない
5. わからない

【すべての方におたずねします。】

問 17 女性が職業を持つことについてあなたはどのようにお考えですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい
2. 子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
4. 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
5. 女性は職業を持たないほうがよい
6. その他（具体的に： _____)
7. わからない

問 18 あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- 1. そう思う ⇒ (問 20 へ)
- 2. そう思わない ⇒ (問 19 へ)
- 3. わからない ⇒ (問 20 へ)

問 19 【問 18 で「2」と回答された方におたずねします。】

そう思わない理由は何ですか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- 1. 働く場が限られているから
- 2. 能力発揮の場が少ないから
- 3. 労働条件が整っていないから
- 4. 育児施設が整備されていないから
- 5. 昇進・給与等に男女の差別的扱いがあるから
- 6. 結婚・出産退職の慣行があるから
- 7. 男は仕事、女は家庭という社会通念があるから
- 8. 家族の理解・協力が得られにくいから
- 9. その他（具体的に： _____)

【すべての方におたずねします。】

問 20 女性が職業を持ち続ける上で障害となるものは、あなたは何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- 1. 家族の協力、理解などが得られないこと
- 2. 女性自身の職業に対する自覚が足りないこと
- 3. 企業内の配置・昇進等で女性に対する偏見があること
- 4. 勤務時間が長いこと
- 5. 夫の勤務時間が長いこと
- 6. 育児休業、保育施設などが整備されていないこと
- 7. 病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと
- 8. 男は仕事、女は家庭という社会通念があること
- 9. 夫の転勤
- 10. 本人の転勤
- 11. その他（具体的に： _____)
- 12. わからない
- 13. 特にない

問 21 子育て中の女性が再就職するために、どのような施策や対策が必要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 就職活動に必要な知識・対策や就職意欲を向上するセミナーの開催
2. 働きたい女性への個別相談の機会を増やす
3. 再就職希望と企業とのマッチングの場を設ける
4. 資格取得やスキルアップに対する支援
5. 女性採用の拡大を図るよう企業に働きかける
6. 保育園や学童保育所の充実（増設、受入定員増、利用料軽減など）
7. 子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実
8. 男性も家事育児に参加できるようなワーク・ライフ・バランスの推進
9. 短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける
10. 職場における女性差別やセクハラを防止する啓発活動
11. 賃金の男女差の是正
12. その他（具体的に： _____)
13. わからない
14. 特にない

4. ワーク・ライフ・バランスについておたずねします。

説明

【ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】とは、

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること」をいいます。

問 22 ワーク・ライフ・バランスに関して、現在あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 実現できている
2. もっと仕事を優先したい
3. もっと家庭生活を優先したい
4. もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい
5. その他（ _____)

問 23 あなたは、平日に仕事に費やす時間は平均でどれぐらいですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 0時間
2. 4時間未満
3. 4時間以上6時間未満
4. 6時間以上8時間未満
5. 8時間以上10時間未満
6. 10時間以上12時間未満
7. 12時間以上

問 24 あなたは、平日に家事に費やす時間は平均でどれくらいですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 0時間
2. 1時間未満
3. 1時間以上2時間未満
4. 2時間以上3時間未満
5. 3時間以上4時間未満
6. 4時間以上5時間未満
7. 5時間以上6時間未満
8. 6時間以上

問 25 あなたは、平日に育児（家事を除く）に費やす時間は平均でどれくらいですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 0時間
2. 1時間未満
3. 1時間以上2時間未満
4. 2時間以上3時間未満
5. 3時間以上4時間未満
6. 4時間以上5時間未満
7. 5時間以上6時間未満
8. 6時間以上

問 26 あなたは、男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が重要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 市民に対する意識啓発
2. 企業経営者に対する意識啓発
3. 先進的な取り組みをしている企業の事例の情報提供
4. 先進的な取り組みをしている企業の表彰
5. ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成
6. 育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化
7. 労働時間を縮減するための法制度の強化
8. 在宅勤務などができるような環境の整備
9. 保育サービスなどの子育て支援の充実
10. 介護サービスなどの充実
11. その他（具体的に： _____)
12. わからない
13. 特にない

5. 社会活動等についておたずねします。

問 27 あなたは次のような活動をしていますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|---|--------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 県・市町の審議会・委員会の委員 2. 自治会等の活動 3. P T A 活動 4. 子ども会・青少年グループの活動 5. 青年団体・女性団体・老人団体等の活動 6. 消費者団体・生活協同組合等の消費者活動 7. 生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動 8. その他の社会活動(NPO)等 (具体的に： 9. いずれも参加していない (したくない) ⇒ (問 28 へ) | } ⇒ (問 29 へ) |
|---|--------------|

問 28 【問 27 で「9」と回答された方のみお答えください。】

その理由は何ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事が忙しいから 2. 参加したいと思うものがないから 3. 家庭で病人・高齢者等の介護をしているから 4. 家事や子育てに忙しいから 5. 家族の理解・協力が得られないから 6. 人間関係がわずらわしいから 7. その他 (具体的に： 8. 特に理由はない |) |
|---|---|

【すべての方におたずねします。】

問 29 女性の場合はあなたが、男性の場合は妻・母親など身近な女性が、もし次のような役職に就くことや選挙への立候補を依頼された場合、どうしますか。それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

	選 択 肢					
	1	2	3	4	5	6
引き受けるよう勧める ら引き受けるよう勧める 知識や能力のある分野な 受けるよう勧める 時間に余裕があれば引き 受けるよう勧める 家族など身近な者に相談 してから決めるよう勧め る 断るよう勧める わからない						
①自治会、P T Aなどの代表	1	2	3	4	5	6
②職場の管理職や役員	1	2	3	4	5	6
③県や市町の審議会等の委員	1	2	3	4	5	6
④国会・県・市議会議員	1	2	3	4	5	6

6. ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人などからの暴力） などについておたずねします。

問 30 あなたはこれまでに、配偶者や恋人などから、次のようなことをされた経験がありますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 命の危険を感じるくらいの暴行を受けたことがある
2. 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けたことがある
3. 医師の治療は必要とされない程度の暴行を受けたことがある
4. いやがっているのに性的行為を強要されたことがある
5. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられたことがある
6. 何を言っても無視され続けたことがある
7. 交友関係や電話などを細かく監視されたことがある
8. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」などと言われたことがある
9. 大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある
10. 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられたことがある
11. そのようなことはなかった

【問 30 で「1～10」に○をつけられた方のみお答えください。】

問 31 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | | |
|-----------------------|------------------------------------|---|
| 1. 四日市市男女共同参画センター | 7. 学校関係者（教員、養護教員、スクール
カウンセラーなど） | |
| 2. 三重県配偶者暴力相談支援センター | 8. 民生・児童委員 | |
| 3. 警察 | 9. 人権擁護委員 | |
| 4. 三重県男女共同参画センター | 10. 家族や親戚 | |
| 5. その他の公的機関
（具体的に： | ） 11. 友人や知人 | |
| 6. 医療関係者（医師、看護師など） | 12. その他（具体的に： | ） |
| | 13. どこ（だれ）にも相談しなかった | |

.....▶ 問 32 へ

【問 31 で「13」に○をつけられた方のみお答えください。】

問 32 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたりもっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
11. そのことについて思い出したくなかったから
12. 自分も悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他（具体的に _____）
16. 分からない

【すべての方におたずねします。】

問 33 配偶者や恋人などの間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関や関係者のうち知っているものを、次の中から、あてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1. 四日市市男女共同参画センター
（はもりあ四日市） | 5. 民間支援団体 |
| 2. 配偶者暴力支援センター
（三重県女性相談所） | 6. 医師その他医療関係者 |
| 3. 警察 | 7. その他
（具体的に： _____） |
| 4. 人権擁護委員 | 8. 相談窓口として知っているところはない |

7. 性的マイノリティ（性的少数者）についておたずねします。

説明

【性的マイノリティ】とは、同性に恋愛感情をもつ人や、自分の性に違和感がある人などのことをいいます。性的少数者ともいいます。Lesbian [レズビアン(女性同性愛者)]、Gay [ゲイ(男性同性愛者)]、Bisexual [バイセクシュアル(両性愛者：両性に惹かれる人)]、Transgender [トランスジェンダー(体と心の性に違和感がある人。体の性別と異なる性別で生きるまたは生きたい人。)]の頭文字をとった LGBT も性的マイノリティに含まれます。

問 34 あなたは性的マイノリティ（性的少数者）について、どの程度ご存知ですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------------|---------|
| 1. 知っている | 3. 知らない |
| 2. 聞いたことはある | |

問 35 あなたは、今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を感じたりしたことはありますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

8. 男女共同参画社会についておたずねします。

説明

【男女共同参画社会】とは、男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のことをいいます。

問 36 あなたは、政治や行政において、政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識 | 6. 女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない |
| 2. 男性優位の組織運営 | 7. その他 |
| 3. 家族の支援・協力が得られない | (具体的に：) |
| 4. 女性の能力開発の機会が不十分 | 8. わからない |
| 5. 女性側の積極性が十分でない | |

問 37 今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- | |
|------------------------------------|
| 1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること |
| 2. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること |
| 3. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること |
| 4. 妻が、夫に経済力や出世を求めないこと |
| 5. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること |
| 6. 男性の男女共同参画に対する関心を高めること |
| 7. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと |
| 8. 夫が家事などをすることに妻が協力すること |
| 9. 男性が、家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと |
| 10. 家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をする |
| 11. 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること |
| 12. その他（具体的に：) |
| 13. わからない |

問 38 男女共同参画を推進していくために、今後、県や市はどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 男女共同参画を推進する法律・条例・制度の制定や見直しを行う
2. 行政において、女性を政策決定の場に積極的に登用する
3. 民間企業において、女性の管理職が増えるよう働きかけを行う
4. 各種団体の女性リーダーを養成する
5. 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う
6. 女性の職業教育や職業訓練を充実する
7. 保育・介護の施設やサービスを充実する
8. 学校教育において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
9. 生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
10. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実する
11. 男性に対する意識啓発や研修を充実する
12. 広報紙やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてのPRを充実する
13. その他（具体的に： _____)
14. 特にない
15. わからない

9. 男女共同参画センターについておたずねします。

問 39 あなたは、四日市市男女共同参画センター「はもりあ」をご存じですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 利用したことがある
2. 知っているが利用したことはない
3. 知らない

問 40 四日市市男女共同参画センターで行っている、次のような事業をご存じですか。次の中から、ご存じのものをすべて選んで○印をつけてください。

1. さんかくカレッジ
2. こどもさんかくカレッジ
3. はもりあフェスタ（登録グループの情報発信と発表の場）
4. 情報紙「はもりあ」の発行
5. ホームページ「はもりあ四日市」での情報提供
6. 女性起業支援講座
7. 女性のための相談
8. 男性のための電話相談
9. 働く女性、働きたい女性のための相談
10. 図書・資料などの貸出
11. どれも知らない

10. あなたご自身についておたずねします。

問 41 あなたの性別について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

※性的マイノリティを考慮した選択肢です。戸籍上の区分とは別にご自身の主観によりお答えください。

問 42 あなたの年齢について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|----------|----------|
| 1. 20歳未満 | 5. 50歳代 |
| 2. 20歳代 | 6. 60歳代 |
| 3. 30歳代 | 7. 70歳以上 |
| 4. 40歳代 | |

問 43 家族構成について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | |
|----------------------------|
| 1. 単身世帯（あなただけ） |
| 2. 1世代世帯（夫婦だけ） |
| 3. 2世代世帯（夫婦と子、夫婦と親、親と子など） |
| 4. 3世代世帯（祖父母と夫婦と子、親と子と孫など） |
| 5. その他（具体的に： _____) |

問 44 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。いる場合はどの年代のお子さんがいらっしゃいますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。なお、お子さんが2人以上いる場合は一番下のお子さんの年代でお答えください。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. いる（就学前） | 4. いる（中学生以上 18歳未満） |
| 2. いる（小学校1～3年生） | 5. いる（18歳以上） |
| 3. いる（小学校4～6年生） | 6. いない |

最後に男女共同参画に関することについてご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

アンケートはここまでです。ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れてご返送ください。

男女共同参画に関する市民意識調査

報 告 書

平成 30 年 1 月

四日市市 市民文化部 男女共同参画課

〒510-0093 四日市市本町 9 番 8 号

TEL 059-354-8331

FAX 059-354-8339